corega

CG-WLR300N
詳細設定ガイド

Contents

付属の「らくらく導入ガイド」、「お使いの手引き」を必ずお読みになり、正しく設置・操作してください。

Y613-18531-02 Rev.D

はじめに

このたびは、「CG-WLR300N」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本書は本商品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただけるように、大切に保管してください。

また、本商品に関する最新情報（ソフトウェアのバージョンアップ情報など）は、コレガホームページでお知らせしておりますのでご覧ください。

http://corega.jp/

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

■記号について

	操作中に気をつけていただきたい内容です。必ずお読みください。		**補足事項や参考となる情報を説明しています。**

■表記について

本商品	CG-WLR300N のことです。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
［　］	［　］で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例：OK → ［OK］
Windows Vista	Microsoft® Windows Vista® Home Basic 日本語版、 Microsoft® Windows Vista® Home Premium 日本語版、 Microsoft® Windows Vista® Business 日本語版および Microsoft® Windows Vista® Ultimate 日本語版のことです。
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版および Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版のことです。
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版のことです。
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版のことです。
Windows 98SE	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版のことです。

※本書では、複数の OS を「Windows Vista/XP」のように併記する場合があります。

■イラスト／画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

マニュアルの種類と使い方

本商品には次のマニュアルがあります。本商品をお使いになる状況に合わせて、それぞれのマニュアルをご覧ください。各マニュアルは、コレガのホームページ（http://corega.jp/）で提供しています。必要に応じてダウンロードしてお使いください。

■らくらく導入ガイド

本商品を使い始めるまでのセットアップ作業について説明しています。

■お使いの手引き（冊子）

本商品の基本的な使い方について説明しています。また、「Q&A」では代表的なトラブルとその対処方法を説明しています。

■詳細設定ガイド（本書、PDF マニュアル）

各機能の使用方法、本商品の詳しい設定方法を説明しています。

本書の構成

本書は本商品についての情報や、設置、接続・設定方法について説明しています。本書の構成は次のとおりです。

■第 1 章　こんなときはこの設定（無線編）

この章では、本商品の無線 LAN を活用するための設定方法について説明します。本章での説明は、本商品およびパソコンがネットワークに接続されていることを前提にしています。まだ接続されていない場合は、付属の「らくらく導入ガイド」または「お使いの手引き」をご覧ください。

■第 2 章　こんなときはこの設定（ルータ編）

この章では、本商品を活用するための設定方法について説明します。本章での説明は、本商品およびパソコンがネットワークに接続されていることを前提にしています。まだ接続されていない場合は、付属の「らくらく導入ガイド」または「お使いの手引き」をご覧ください。

■第 3 章　こんなときはこの設定（サポート編）

この章では、本商品の各サポート機能の設定方法について説明します。

■第 4 章　設定画面について

この章では、本商品の設定画面について説明します。本商品を使っていて「機能を使いこなしたい」、「設定画面の詳しい情報を知りたい」と思ったときは、この章で項目を探してください。

■第 5 章　パソコンのネットワーク設定

この章では、パソコンのネットワーク設定、Web ブラウザの設定について説明します。

目次

第 4 章
設定画面について 115

第 5 章
パソコンのネットワーク設定 177

第 1 章
こんなときはこの設定（無線編）

この章では、本商品の無線 LAN を活用するための設定方法について説明します。本章での説明は、本商品およびパソコンがネットワークに接続されていることを前提にしています。まだ接続されていない場合は、付属の「らくらく導入ガイド」または「お使いの手引き」をご覧ください。

1.1　設定画面を表示する

本商品の設定画面を表示するには Web ブラウザが必要です。本商品に接続している 1 台のパソコンで設定します。Web ブラウザには本商品の推奨ブラウザをご利用ください。そのほかの Web ブラウザでは、正常に設定できない場合があります。
使用できる OS と Web ブラウザは次のとおりです。

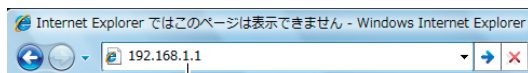
OS	Web ブラウザ
Windows Vista/XP	Internet Explorer 7.0
Windows 2000/Me/98SE	Internet Explorer 6.0
Mac OS X	Safari 3.0/2.0

・本商品を設定する場合には、本商品と設定用パソコンのみを接続することをお勧めします。パソコン以外のネットワーク機器の LAN ケーブルを取り外してください。

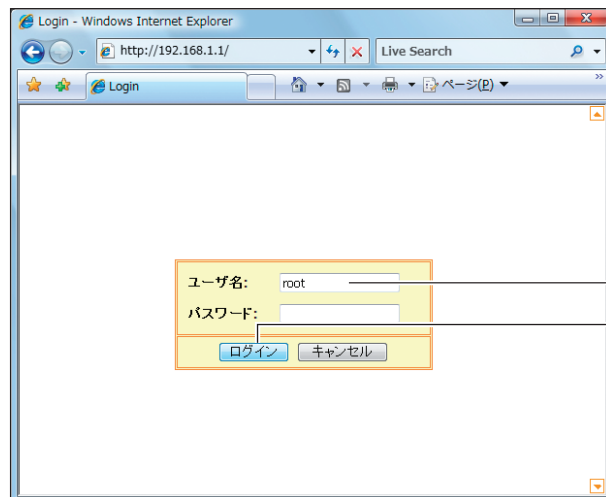
・設定用パソコンでウィルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品を設定してください。設定作業が終了してから再度起動させてください。

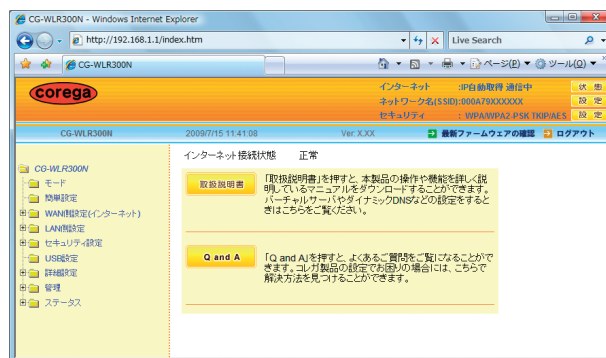
1　Internet Explorer または Safari を起動します。

このとき手順 3 の画面が表示された場合は、そのまま手順 3 へ進んでください。

2　アドレス欄に「192.168.1.1」と入力し、Enter キーまたは return キーを押します。

入力します

・ルータ機能を「無効」に設定している場合や、本商品の IP アドレスを変更している場合は、変更後の IP アドレスを入力してください。
・【Windows のみ】「簡単設定」を使ってルータ機能を「無効」に設定し、Internet Explorer のお気に入りに登録している場合、お気に入りの中から本商品（CG-WLR300N）をクリックします。

3　ユーザ名に「root」と入力し、パスワードは空欄のまま、[ログイン] をクリックします。

P.88「3.1　ログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更する」でユーザ名、パスワードを変更している場合は、変更後のユーザ名とパスワードを入力してください。

4　設定画面が表示されます。

本商品がネットワークに接続されていない場合は、「簡単設定」が表示されます。付属の「らくらく導入ガイド」または「お使いの手引き」をご覧になり、ネットワークに接続してください。

設定画面の基本的な操作は、P.12 「1.2　設定する」をご覧ください。

1.2 設定する

設定画面の基本的な操作を説明します。

1 画面左側のメニューをクリックします。

各設定画面が表示されます。ここでは「管理」をクリックした画面を例に説明します。

2 必要な項目を設定します。

直接入力したり、プルダウンメニューやラジオボタンで選択したり、チェックボックスにチェックを付けたりして、必要な項目を設定します。

3 正しく設定したことを確認し、[設定] をクリックします。

[設定] をクリックすると、すぐに設定が有効になります。設定項目によっては、本商品が再起動することがあります。

※パスワードを設定した例です。

- [設定] をクリックしたあとに設定を取り消すことはできません。
- [設定] をクリックする前に設定前の状態に戻すには、[取消] または [戻る] をクリックするか、または画面左側のメニューをクリックします。

4　設定画面からログアウトするには、画面右上の「ログアウト」をクリックします。

5　Internet Explorer または Safari を終了します。

以上で、設定は完了です。

1.3 無線 LAN セキュリティを設定する

無線 LAN ではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりするおそれがあります。本商品では、これらの対策として次のようなセキュリティ機能を搭載しています。

無線 LAN で接続するすべての機器に、同じセキュリティ機能を使用する必要があります。そのため、お使いの機器がどのセキュリティ機能を搭載しているか、あらかじめご確認ください。

1.3.1 本商品で設定できるセキュリティ機能

■ SSID（Service Set IDentifier）

無線 LAN に接続する機器を識別するネットワークグループ名です。ESSID と呼ばれることもあります。同じ SSID を持つ無線 LAN 機器同士でしか通信ができないため、独自の SSID を設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

工場出荷時の SSID は、本体側面の「ネットワーク名（SSID/MAC）」に記載されています。SSID は、機体ごとに異なります。

☞P.16「1.3.2 SSID を設定する」

■ステルス AP

本商品の SSID を、無線 LAN アダプタの接続検索に表示されないようにできます。これにより、外部から不正侵入される危険が減少します。
本商品と同じ SSID を設定している無線 LAN アダプタからは、本商品の SSID を確認できます。

☞P.17「1.3.3 ステルス AP を設定する」

■アクセス制限

本商品に無線 LAN でアクセスできる無線 LAN アダプタを MAC アドレスで制限します。本商品に MAC アドレスが登録されていない無線 LAN アダプタは、本商品に接続できなくなります。

☞P.18「1.3.4 アクセス制限を設定する」

■暗号化

無線 LAN 通信の通信内容を傍受されないように暗号化するセキュリティ機能です。

・WEP（Wired Equivalent Privacy）

通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティ機能です。仮に通信データを傍受された場合でも、容易に通信内容を復元されません。64Bit、128Bit の 2 種類があり、ASCII 文字（半角英数記号）や 16 進数（0 ～ 9、a ～ f）を入力し暗号キーを作成します。

・WPA（Wi-Fi Protected Access）

通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化するセキュリティ機能の 1 つです。暗号キーは一定時間ごとに変わる TKIP を採用しており、WEP よりも解読されにくくなります。本商品では、家庭で使用する「WPA-PSK（Personal）」と企業内で使用する「WPA-EAP（Enterprise）」の 2 つの設定ができます。

・WPA2（Wi-Fi Protected Access2）

WPA2 は Wi-Fi アライアンスが 2004 年 9 月に発表した新しい規格です。米標準技術局（NICT）が定めた暗号化標準の「AES」を採用しており、128 ～ 152Bit の可変調キーを利用した強力な暗号化が可能です。そのほかの仕様については WPA とほとんど変わらないため、WPA と WPA2 との混在した環境で使用できます。

工場出荷時の状態では、WPA/WPA2-PSK（AES/TKIP）が設定されています。

☞ P.19 「1.3.5 暗号化を設定する」

■ WPS（Wi-Fi Protected Setup）

Wi-Fi アライアンスが 2007 年 1 月より認定を開始した規格です。プッシュボタンを押すか、または PIN（Personal Identification Number）コードを入力するかのどちらかの方法で、無線 LAN アダプタをアクセスポイントに登録して SSID と無線セキュリティを設定できます。接続方法は、無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

・ステルス AP が有効の場合は、WPS での無線 LAN 設定はできません。
・無線 LAN セキュリティで、Shared Key による WEP や、WPA/WPA2-EAP を使用する場合は、WPS での無線 LAN は設定できません。

1.3.2 SSID を設定する

SSID は、次の手順で設定します。

1 **設定画面を表示します。**

☞ P.10 「1.1 設定画面を表示する」

2 **「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11n/g/b 設定」の順にクリックします。**

3 **次のように設定します。**

①新しく設定する SSID を入力します。半角英数字および半角記号で、32 文字以内で入力してください。

②［設定］をクリックします。

4 **設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。**

5 **本商品に設定した SSID と同じ文字列を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。**

無線 LAN アダプタの SSID の設定方法は、お使いの無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

以上で、SSID の設定は完了です。

1

1.3.3 ステルス AP を設定する

ステルス AP を設定すると、本商品の SSID を無線 LAN アダプタから検索できなくなります。ステルス AP は、次の手順で設定します。

ステルス AP を有効にした場合、WPS は無効になります。WPS ボタンを使うなど、WPS で新規に接続できません。すでに接続している機器は影響ありません。

1 **設定画面を表示します。**

P.10「1.1　設定画面を表示する」

2 **「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11n/g/b 設定」の順にクリックします。**

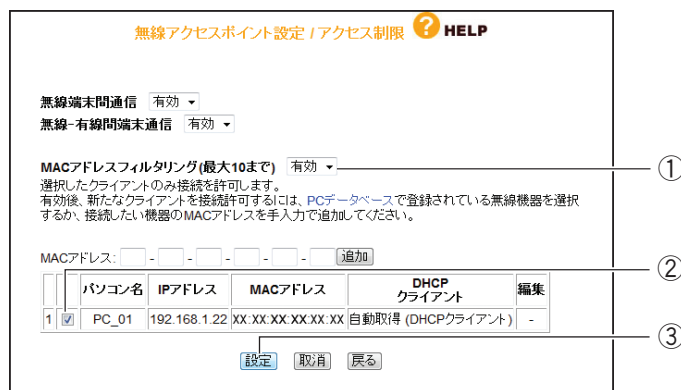
3 **次のように設定します。**

①「ステルス AP」で「有効」を選択します。

②［設定］をクリックします。

4 **設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。**

以上で、ステルス AP の設定は完了です。

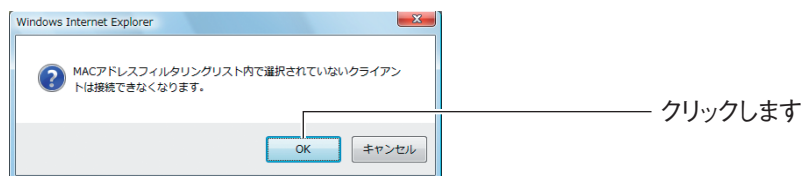
1.3.4 アクセス制限を設定する

本商品に無線 LAN 接続できるパソコンを、MAC アドレスで制限できます。アクセス制限は、次の手順で設定します。

1　設定画面を表示します。

P.10「1.1　設定画面を表示する」

2　「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「アクセス制限」の順にクリックします。

3　次のように設定します。

①「MAC アドレスフィルタリング」で「有効」を選択します。次の画面で、[OK] をクリックします。

②アクセスを許可するパソコンにチェックを付けます。

③［設定］をクリックします。

②で接続を許可したいパソコンが表示されない場合は、無線 LAN アダプタの MAC アドレスを手動で登録してください。設定項目の詳細については、P.147「■アクセス制限」をご覧ください。

4　設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。

以上で、アクセス制限の設定は完了です。

1.3.5 暗号化を設定する

無線 LAN の通信内容を暗号化することで、傍受されても内容を解析されにくくなります。暗号化は、次の手順で設定します。

・WEP の場合

P.19「■ WEP を設定する」

・WPS-PSK、WPA2-PSK の場合

P.21「■ WPA-PSK、WPA2-PSK を設定する」

・本商品に暗号化を設定した場合、本商品に接続する無線 LAN アダプタにも同じ暗号化を設定する必要があります。

・1 つの SSID で使用できる暗号化の設定は、1 つだけです。そのため、ファースト SSID で WPA（WPA2）と WEP を同時に使用できません。
WPA（WPA2）と WEP を同時に使用するには、ファースト SSID で WPA（WPA2）に設定し、マルチ AP 機能でセカンド SSID を WEP に設定してください。

P.25「1.5 マルチ AP 機能を使用する」

工場出荷時の状態では、WPA/WPA2-PSK（AES/TKIP）が設定されています。工場出荷時の WPA 共有キーは、本体側面の「初期 PIN コード（ネットワークキー）」に記載されています。

■ WEP を設定する

WEP は、次の手順で設定します。

1 設定画面を表示します。

P.10「1.1 設定画面を表示する」

2 「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11n/g/b セキュリティ設定」の順にクリックします。

3 次のように設定します。

①「認証方式」で「Open System」または「Shared Key」を選択します。

②「暗号方式」で「WEP」を選択します。

③「暗号化」で「64Bit-16 進数（0-9/a-f）10 桁」、「128Bit-16 進数（0-9/a-f）26 桁」、「64Bit-ASCII（半角英数記号）5 文字」、「128Bit-ASCII（半角英数記号）13 文字」のいずれかを選択します。

④「キー 1」～「キー 4」に③「暗号化」で選択した文字数で任意の文字列を入力し、そのうちの 1 つを選択します。

⑤［設定］をクリックします。

・①「認証方式」で「Shared Key」を選択した場合、WPS は無効に設定されます。
・③「暗号化」で「64Bit-ASCII（半角英数記号） 5 文字」または「128Bit-ASCII（半角英数記号）13 文字」を選択したときに、入力できる半角英数字および半角記号は次のとおりです。
0～9、a～z、!”#$%&’()＊+.-,/:;<>?@[¥]^_{|}

4 設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします

5 本商品に設定した暗号化と同じ設定を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。

無線 LAN アダプタの暗号化の設定方法は、お使いの無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

以上で、WEP の設定は完了です。

■ WPA-PSK、WPA2-PSK を設定する

WPA-PSK、WPA2-PSK は、次の手順で設定します。

1　設定画面を表示します。

☞ P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2　「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11n/g/b セキュリティ設定」の順にクリックします。

3　次のように設定します。

①「認証方式」で「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」、「WPA/WPA2-PSK」のいずれかを選択します。

②「暗号方式」で「自動（AES/TKIP)」、「AES」、「TKIP」のいずれかを選択します。

③「WPA 共有キー」で「ASCII 文字（8 ～ 63 文字)」または「16 進数（64 文字)」を選択し、任意の文字列を入力します。

④［設定］をクリックします。

③「WPA 共有キー」で「ASCII 文字（8 ～ 63 文字)」を選択したときに、入力できる半角英数字および半角記号は次のとおりです。
0 ～ 9、a ～ z、!”#$%&’()＊+.-,/:;<>?@[¥]^_{|}

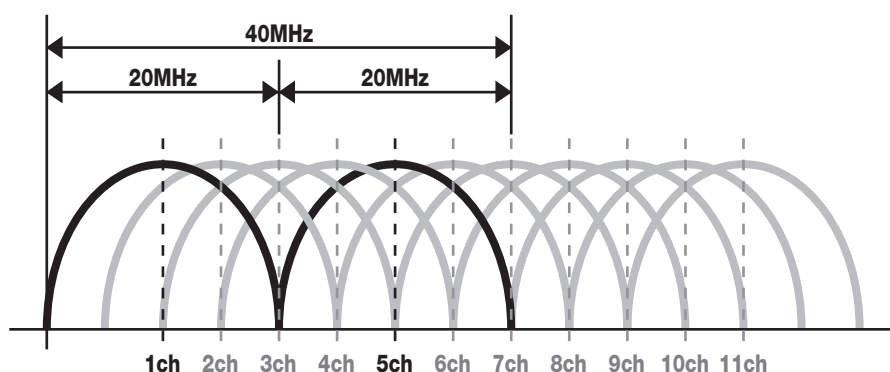
4　設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。

5　本商品に設定した暗号化と同じ設定を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。

無線 LAN アダプタの暗号化の設定方法は、お使いの無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

以上で、WPA-PSK、WPA2-PSK の設定は完了です。

1.4 ダブルチャンネルで高速通信する

ダブルチャンネルとは、20MHz 幅のチャンネルを 2 つ束ね 40MHz として使用することで、通信速度を向上させる機能です。本商品では、ダブルチャンネルとショートガードインターバルを利用することで、IEEE802.11n（ドラフト）の 300Mbps（理論値）の通信速度に対応します。ダブルチャンネルで同時に使用するチャンネル（周波数帯域）は、混信しないように設定します。
チャンネルは、次の図のようになっています。本商品では、設定した 1 つ目のチャンネルに応じて、自動的に 2 つ目のチャンネルを設定します。

※1つ目のチャンネルを「1ch」に設定した場合の例です。

- ダブルチャンネルを使用することで、ダブルチャンネルに対応していない通信機器の通信速度などのパフォーマンスが低下する可能性があります。
- 無線 LAN アダプタ（子機）は、本商品に合わせて自動的に適切な速度に設定されます。ダブルチャンネルやショートガードインターバルなどの設定をする必要はありません。

1.4.1 動作環境について

300Mbps（理論値）の通信速度を実現するには、次の環境が必要です。

■ダブルチャンネルが利用できる無線 LAN アダプタ※1

セット品に付属の 無線 LAN アダプタ	· CG-WLR300N-P（CG-WLCB300GNM） · CG-WLR300N-U（CG-WLUSB300GNM）
無線 LAN アダプタ （PC カード（カードバス）子機）	· CG-WLCB300AGN ※2 · CG-WLCB300GNM · CG-WLCB300GNS ※3 · CG-WLCB144GNL ※4
無線 LAN アダプタ （USB 子機）	· CG-WLUSB300AGN ※2 · CG-WLUSB300GNM · CG-WLUSB300GNS ※3 · CG-WLUSB300N ※3 · CG-WLUSB2GNL ※4 · CG-WLUSBNM ※5
無線イーサネットコンバータ	· CG-WLCVR300AGN ※2

※ 1　2009 年 8 月現在の対応機種です。
新しく発売される商品については、コレガホームペー ジ（http://corega.jp/）をご覧ください。
※ 2　2.4GHz 帯のみ対応します。
※ 3　受信は 300Mbps（理論値）、送信は 150Mbps（理論値）に対応します。
※ 4　お使いの CG-WLCB144GNL、CG-WLUSB2GNL が 300Mbps 対応版の場合に対応します。
※ 5　受信および送信は 150Mbps（理論値）に対応します。

1.4.2 ダブルチャンネルを設定する

■本商品（CG-WLR300N）を設定する

本商品のダブルチャンネルは、次の手順で設定します。

1 設定画面を表示します。

☞ P.10「1.1 設定画面を表示する」

2 「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11n/g/b 設定」の順にクリックします。

3　次のように設定します。

①「ダブルチャンネル」で「自動設定」を選択します。

②「拡張チャンネル」が表示されることを確認します。

③「ショートガードインターバル」で「有効」を選択します。

④［設定］をクリックします。

「拡張チャンネル」は、使用する「チャンネル」に合わせて自動的に設定されます。

4　設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。

5　AC アダプタを電源コンセントから抜き、1 分以上経過してから再び差し込みます。

以上で、ダブルチャンネルの設定は完了です。

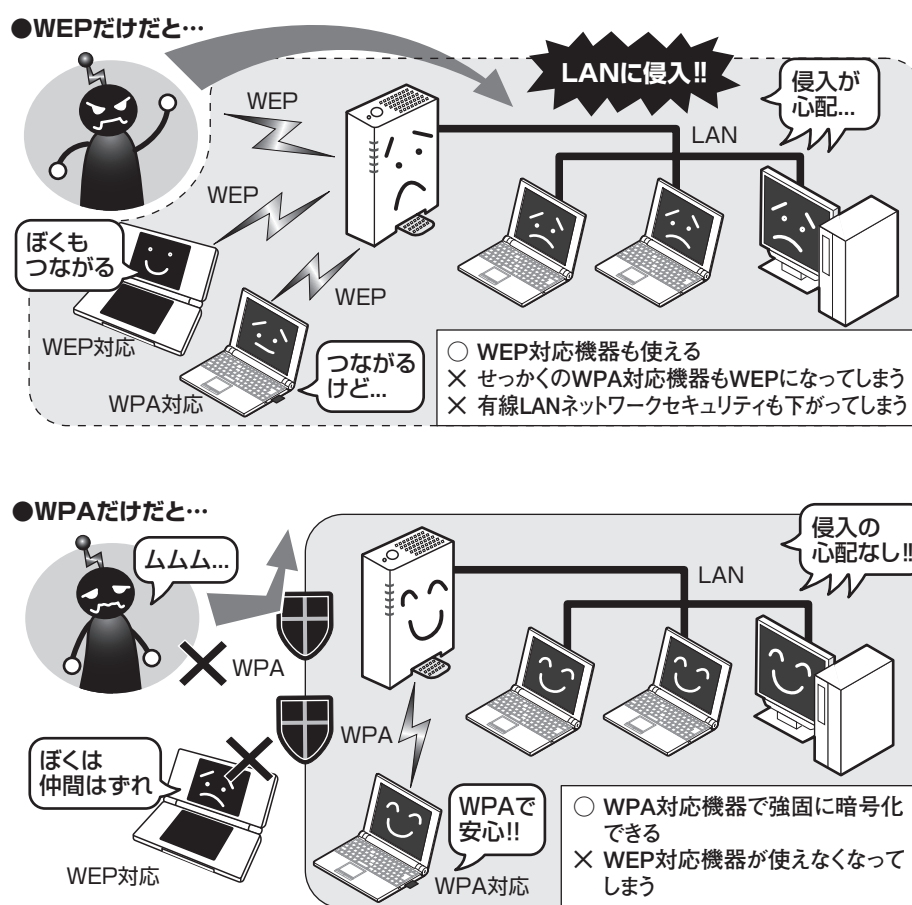
■無線 LAN アダプタを設定する

無線 LAN アダプタは、本商品に合わせて自動的に適切な速度に設定されます。「ダブルチャンネル」や「ショートガードインターバル」などの設定をする必要はありません。

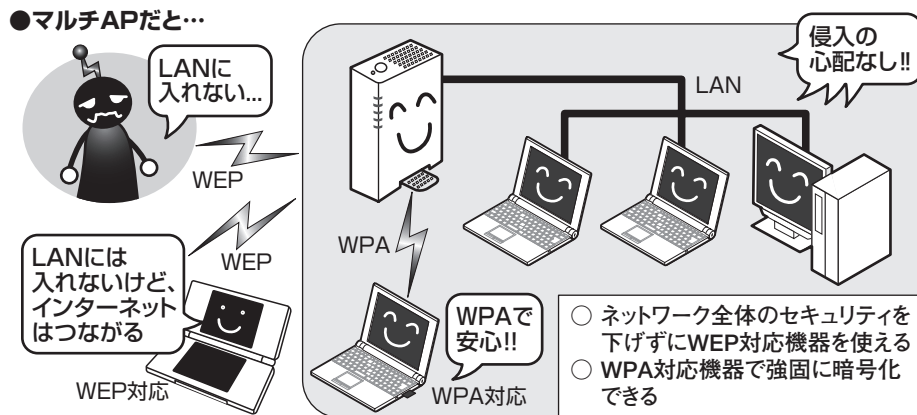
1.5 マルチ AP 機能を使用する

本商品に搭載しているマルチ AP 機能について説明します。

1.5.1 WEP のぜい弱性とマルチ AP 機能について

「WEP（Wired Equivalent Privacy）」は、802.11b のころから広く使われている暗号方式ですが、近年さまざまなぜい弱性が発見され、十分なセキュリティを維持できなくなっています。
現在、より強固な「WPA（Wi-Fi Protected Access）」や「WPA2」が採用されていますが、WEP にしか対応しない機器はまだたくさん存在します。そのため、せっかく WPA に対応した機器を持っていても、WEP 対応機器を混在させるには無線 LAN セキュリティを WEP に下げる必要があり、不安を抱えていました。

そこで、「WEP 対応機器をインターネットに接続したいけど、ネットワーク全体のセキュリティは下げたくない」という要望に応えるために、本商品は「マルチ AP 機能」という、SSID を 1 つ増やす機能を搭載しました。

1.5.2 マルチ AP の利点

マルチ AP 機能では、通常の SSID（ファースト SSID）に加えて、セカンド SSID を使用できます。ファースト SSID では WPA2 の高度な暗号化を設定しつつ、セカンド SSID では WEP を設定できます。セカンド SSID はインターネット接続以外の通信を遮断しているため、LAN に侵入される心配はありません。LAN 全体のセキュリティを確保しながら、WEP 対応機器をインターネットに接続できます。

マルチ AP 機能は、WEP のみに対応するニンテンドーDS のような携帯ゲームなどでインターネットに接続する場合に最適です。

・本商品のルータ機能がオフの場合でも、マルチ AP 機能は使用できます。ただし、本商品の WAN ポートにルータ（またはルータ機能付きモデム）を接続する必要があります。
・セカンド SSID では UPnP 機能は使用できません。

1.5.3 マルチ AP 機能スイッチについて

マルチ AP 機能スイッチでマルチ AP 機能の状態を切り替えられます。マルチ AP 機能と、ファースト SSID ／セカンド SSID には次のような違いがあります。

マルチAP機能 スイッチの状態	SSID	インターネット 接続	設定画面 表示	LAN 接続	対応する無線LAN セキュリティ
マルチAP機能 ON OFF ← ON （工場出荷時）	ファースト SSID	○	○	○	WPA2/WPA-PSK、 WPA2/WPA-EAP、 WPS、WEP（64/128bit）
	セカンド SSID	○	×	×	WEP（64/128bit）
マルチAP機能 ON OFF OFF →	ファースト SSID	○	○	○	WPA2/WPA-PSK、 WPA2/WPA-EAP、 WPS、WEP（64/128bit）

セカンド SSID にセキュリティを設定する方法は、**P.28**「1.5.5 セカンド SSID にセキュリティを設定する」をご覧ください。

1.5.4 マルチ AP 機能を設定する

マルチ AP 機能を設定するには、本体背面のマルチ AP 機能スイッチを操作します。

マルチ AP 機能スイッチは、必ず本商品の電源を切った状態で操作してください。

工場出荷時のマルチ AP 機能の設定は「ON」です。

次の手順でマルチ AP 機能スイッチを操作します。

1 **AC アダプタを電源コンセントから抜きます。**

2 **本体背面にあるマルチ AP 機能スイッチを切り替えます。**

マルチ AP 機能を使用する（ファースト SSID とセカンド SSID を使用する）場合は、スイッチを「ON」にします。

マルチ AP 機能を使用しない（ファースト SSID のみ使用する）場合は、スイッチを「OFF」にします。

3 **AC アダプタを電源コンセントに差し込みます。**

以上で、マルチ AP 機能の設定は完了です。

1.5.5 セカンド SSID にセキュリティを設定する

本商品のマルチ AP でお使いになるセカンド SSID にセキュリティ（WEP）を設定する方法を説明します。

- すでにセカンド SSID に接続している機器がある場合は、接続できなくなります。セキュリティ（WEP）を設定したあとで、接続しなおしてください。
- セカンド SSID のネットワーク名（SSID）を変更する場合は、ファースト SSID と異なる文字列に設定してください。

☞ P.16 「1.3.2 SSID を設定する」

1 **設定画面を表示します。**

☞ P.10 「1.1 設定画面を表示する」

2 **「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「マルチ AP 設定」の順にクリックします。**

3 **次のように設定します。**

①「マルチ AP 機能」が「有効」になっていることを確認します。「有効」になっていない場合は、本体背面の「マルチ AP 機能スイッチ」を「ON」に設定します。

②「ネットワーク名（SSID)」を設定します（初期値：CG-Guest)。半角英数字および半角記号で、32 文字以内で入力してください。

③「ステルス AP」を設定する場合は、「有効」を選択します（初期値：無効)。

④「暗号方式」で「WEP」を選択します。

⑤「暗号化」で「64Bit-16 進数（0-9/a-f）10 桁」、「128Bit-16 進数（0-9/a-f）26 桁」、「64Bit-ASCII（半角英数記号）5 文字」、「128Bit-ASCII（半角英数記号）13 文字」のいずれかを選択します。

⑥「キー 1」に⑤「暗号化」で選択した文字数で任意の文字列を入力します。

⑦［設定］をクリックします。

⑤「暗号化」の ASCII で入力できる半角英数字および半角記号は次のとおりです。
0 ～ 9、a ～ z、!” #$%&’ ()＊ +.-,/:;<>?@[¥]^_{|}

4　**設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。**

以上で、設定は完了です。

1.5.6 セカンド SSID に接続する

セカンド SSID に接続する手順は、次のとおりです。

- **マルチ AP 機能スイッチは、必ず本商品の電源を切った状態で操作してください。**
- **マルチ AP 機能スイッチの操作方法は、P.27「1.5.4 マルチ AP 機能を設定する」をご覧ください。**

1　**本体背面のマルチ AP 機能スイッチが「ON」になっていることを確認します。**

2　**お使いになる機器から無線アクセスポイントを検索します。**

3　**「CG-Guest（初期値）」または P.28「1.5.5 セカンド SSID にセキュリティを設定する」で設定した「セカンド SSID」を選択します。**

4　**P.28「1.5.5 セカンド SSID にセキュリティを設定する」の手順 3 で設定した WEP キーを入力します。**

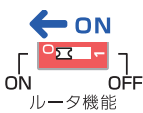
以上で、セカンド SSID への接続は完了です。

マルチ AP 機能で「WEP」のみ対応しているニンテンドー DS に接続する場合は、付属の「ニンテンドー DS・Wii を接続する」をご覧ください。

1.6 無線アクセスポイントとして使用する

アッカ・ネットワークス、イー・アクセス、NTT 東日本、NTT 西日本、KDDI などのプロバイダでルータ機能付きモデムをお使いの場合は、本商品のルータ機能を無効にすることで、ルータ機能付きモデムの設定をそのままで本商品を無線アクセスポイントとして使用できます。

本商品を無線アクセスポイントとして使用するには次の方法があります。

☞P.30 「1.6.1 ルータ機能スイッチでルータ機能を無効にする」

☞P.31 「1.6.2 設定画面でルータ機能を無効にする」

- **ルータ機能を無効にする前に、ルータ機能付きモデムとパソコンのみを接続して、問題なく通信できることをご確認ください。ルータ機能付きモデムの接続および設定方法については、お使いのモデムの取扱説明書をご覧ください。**
- **ルータ機能を無効にしたあとで、設定画面を表示させる場合は、P.10「1.1 設定画面を表示する」の手順2 でアドレス欄に「192.168.1.220」を入力してください。**
- **本商品のルータ機能を無効にすると、DHCP サーバの機能も停止します。本商品のほかに DHCP サーバがない場合は、パソコンの IP アドレスは手動で設定してください。**

1.6.1 ルータ機能スイッチでルータ機能を無効にする

ルータ機能スイッチの位置と、本商品の状態は、次のようになります。

ルータ機能スイッチの設定	設定画面での設定	本商品の LAN 側 IP アドレス
← ON ON OFF ルータ機能 (工場出荷時)	ルータ機能「有効」	192.168.1.1
	ルータ機能「無効」	192.168.1.220 または簡単設定で変更された IP アドレス
OFF → ON OFF ルータ機能	ルータ機能「無効」	192.168.1.220

- ルータ機能スイッチが「ON」のときは、設定画面でルータ機能の「有効」「無効」を切り替えられます。
- ルータ機能スイッチが「OFF」のときは、設定画面でルータ機能の「有効」「無効」は切り替えられません。

■ルータ機能を無効にする

次の手順で、ルータ機能を無効にします。

1 本商品の電源がオンの状態で、背面のルータ機能スイッチを「OFF」にします。

2 本商品が自動的に再起動して、ルータ機能が無効になります。

以上で、ルータ機能が無効になりました。
再起動後、本商品の IP アドレスは「192.168.1.220」になります。本商品の WAN ポートは、LAN ポートとして使用できます。

・パソコンの IP アドレスをルータ機能付きモデムから取得するには、パソコンを再起動してください。
・本商品のほかに DHCP サーバがない場合は、パソコンの IP アドレスは手動で設定してください。

■ルータ機能を有効に戻す

ルータ機能を使用する場合は、次の手順でルータ機能を有効に戻します。

1 本商品の電源がオンの状態で、背面のルータ機能スイッチを「ON」にします。

2 本商品が自動的に再起動して、ルータ機能が有効になります。

以上で、ルータ機能が有効に戻りました。
本商品の IP アドレスは「192.168.1.1」になり、DHCP サーバも有効になります。

1.6.2 設定画面でルータ機能を無効にする

■ルータ機能を無効にする

次の手順で、ルータ機能を無効にします。

1 設定画面を表示します。

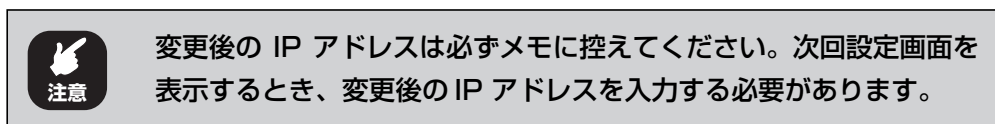
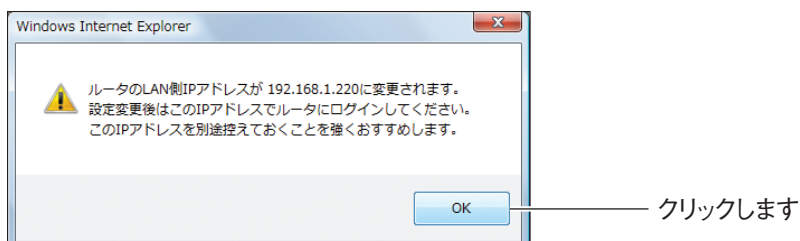
☞ P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2 「モード」をクリックします。

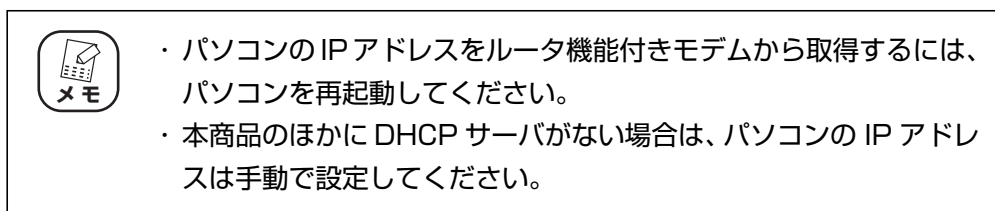
3 「ルータ機能」で「無効」を選択します。

設定画面で「ルータ機能」を選択できない（グレーアウトしている）場合は、ルータ機能スイッチが「OFF」になっています。

4 [OK] をクリックします。

変更後の IP アドレスは必ずメモに控えてください。次回設定画面を表示するとき、変更後の IP アドレスを入力する必要があります。

5 [設定] をクリックします。

以上で、ルータ機能が無効になりました。
再起動後、本商品の IP アドレスは「192.168.1.220」になります。本商品の WAN ポートは、LAN ポートとして使用できます。

・パソコンの IP アドレスをルータ機能付きモデムから取得するには、パソコンを再起動してください。
・本商品のほかに DHCP サーバがない場合は、パソコンの IP アドレスは手動で設定してください。

■ルータ機能を有効に戻す

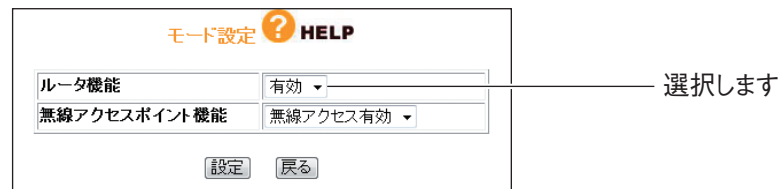
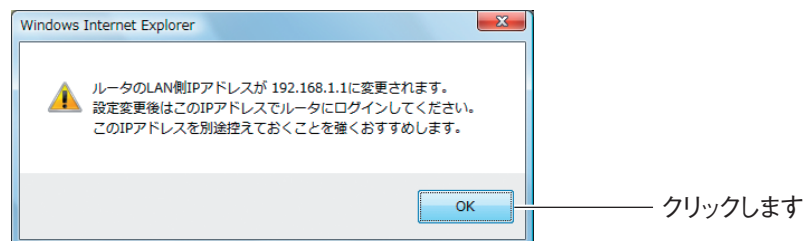
ルータ機能を使用する場合は、次の手順でルータ機能を有効に戻します。

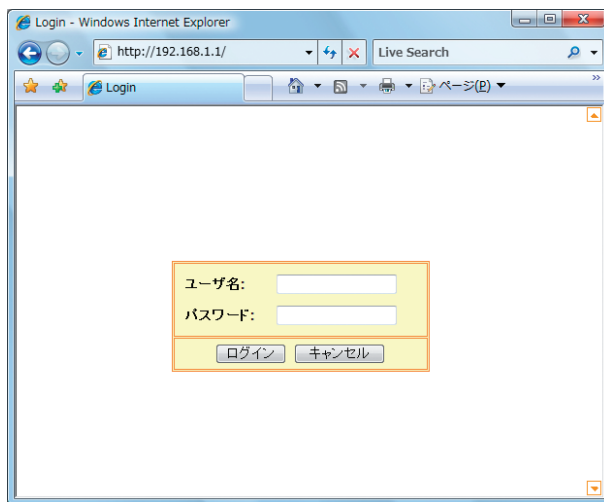
1 設定画面を表示します。

本商品の IP アドレスは「192.168.1.220」です。

P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2 「モード」をクリックします。

3 「ルータ機能」で「有効」を選択します。

4 [OK] をクリックします。

5 [設定] をクリックします。

6　本商品が再起動し、設定画面を表示します。

以上で、ルータ機能が有効に戻りました。
本商品の IP アドレスは「192.168.1.1」になり、DHCP サーバも有効になります。

第 2 章
こんなときはこの設定（ルータ編）

2

この章では、本商品を活用するための設定方法について説明します。本章での説明は、本商品およびパソコンがネットワークに接続されていることを前提にしています。まだ接続されていない場合は、付属の「らくらく導入ガイド」または「お使いの手引き」をご覧ください。

2.1　ネットワークゲームをする

ネットワークゲームは、特定のポートを使ってゲームサーバとデータを送受信するため、本商品のUPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）または DMZ を使用します。

お使いの回線やプロバイダによっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますのでご注意ください。

工場出荷時の状態では、UPnP は有効、DMZ は無効になっています。

2.1.1 UPnP に対応しているネットワークゲームの場合

UPnP に対応しているネットワークゲームを使用するには、次の手順で UPnP を有効にします。

- **UPnP 機能は Windows Vista/XP で使用できます。**
- **【Windows XP のみ】UPnP に関するセキュリティのぜい弱性が発見されています。本商品の UPnP を設定する前に、Microsoft のホームページで Windows XP の修正プログラムをダウンロードし、インストールしてください。詳しくは、OS サポート元（パソコンメーカなど）にお問い合わせください。**

1　**設定画面を表示します。**

☞ P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2　**「詳細設定」－「UPnP」の順にクリックします。**

3　**次のように設定します。**

※画面は、DHCP 接続の場合です。

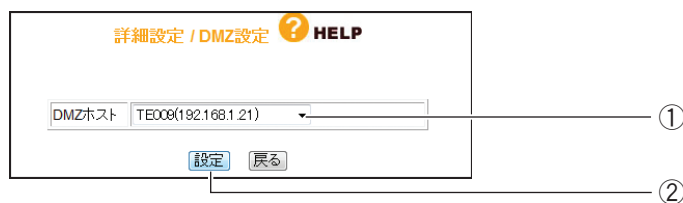
①「UPnP を使用する」で「有効」を選択します。

②［設定］をクリックします。

4　**設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。**

以上で、設定は完了です。

2.1.2 UPnP に対応していないネットワークゲームの場合

UPnP に対応していないネットワークゲームを使用するには、次の手順で DMZ を設定します。

2

1　設定画面を表示します。

P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2　「詳細設定」－「DMZ」の順にクリックします。

3　次のように設定します。

①「DMZ ホスト」で使用するパソコンを選択します。

②［設定］をクリックします。

- ①「DMZ　ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.135 「■　PC データベース（詳細設定）」でパソコンを手動で登録したあと、「DMZ」画面を表示して設定します。
- ①「DMZ ホスト」に設定したいパソコンの IP アドレスがわからない場合は、P.178 「5.1　パソコンの IP アドレスを確認する」で確認してください。

4　設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。

以上で、設定は完了です。

2.2 音声／ビデオチャットなどのツールを使用する

お使いのツールによって、UPnP または DMZ を設定します。

Windows Live Messenger、MSN Messenger、Net Meeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。

工場出荷時の状態では、UPnP は有効、DMZ は無効になっています。

2.2.1 Windows Live Messenger の場合

Windows Live Messenger を使用するには、次の手順で UPnP を有効にします

Windows Live Messenger は Windows Vista/XP（SP2、SP3）に対応しています。

1 設定画面を表示します。

P.10「1.1 設定画面を表示する」

2 「詳細設定」－「UPnP」の順にクリックします。

3 次のように設定します。

※画面は、DHCP 接続の場合です。

①「UPnP を使用する」で「有効」を選択します。

②［設定］をクリックします。

4 設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。

以上で、設定は完了です。

2.2.2 MSN Messenger（Ver.7.0 以降）の場合

MSN Messenger を使用するには、お使いの環境によって UPnP または DMZ を使用します。

■ Windows XP の場合

Windows XP で MSN Messenger を使用するには、次の手順で UPnP を有効にします。

1　設定画面を表示します。

☞ P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2　「詳細設定」－「UPnP」の順にクリックします。

3　次のように設定します。

※画面は、DHCP 接続の場合です。

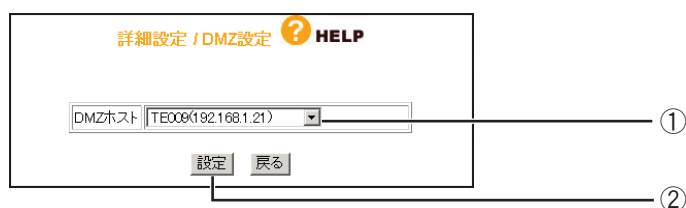
①「UPnP を使用する」で「有効」を選択します。

②［設定］をクリックします。

4　設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。

以上で、設定は完了です。

■ Windows 2000/Me/98SE の場合

Windows 2000/Me/98SE で MSN Messenger を使用するには、次の手順で DMZ を設定します。

1　設定画面を表示します。

☞ P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2　「詳細設定」－「DMZ」の順にクリックします。

3　次のように設定します。

①「DMZ ホスト」で使用するパソコンを選択します。

②［設定］をクリックします。

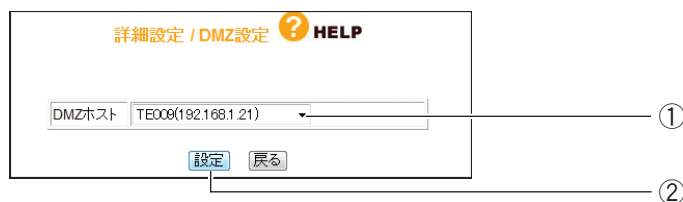
・①「DMZ　ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.135「■ PC データベース（詳細設定）」でパソコンを手動で登録したあと、「DMZ」画面を表示して設定します。

・①「DMZ ホスト」に設定したいパソコンの IP アドレスがわからない場合は、P.178「5.1　パソコンの IP アドレスを確認する」で確認してください。

4　設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。

以上で、設定は完了です。

2.2.3 NetMeeting の場合

NetMeeting を使用するには、次の手順で DMZ を設定します。

1 **設定画面を表示します。**

P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2 **「詳細設定」－「DMZ」の順にクリックします。**

3 **次のように設定します。**

①「DMZ ホスト」で使用するパソコンを選択します。

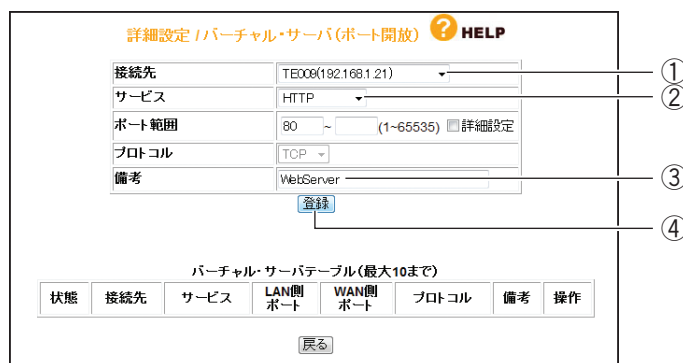
②［設定］をクリックします。

・①「DMZ　ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.135「■ PC データベース（詳細設定）」でパソコンを手動で登録したあと、「DMZ」画面を表示して設定します。

・①「DMZ ホスト」に設定したいパソコンの IP アドレスがわからない場合は、P.178「5.1　パソコンの IP アドレスを確認する」で確認してください。

4 **設定画面更新後に「ログアウト」をクリックします。**

以上で、設定は完了です。

2.3　ポートを開放する（バーチャルサーバ機能）

ネットワークゲームをするときや、サーバを公開するときなど、本商品のバーチャルサーバ機能を使用してポートを開放する必要があります。次の手順で設定します。

1　**設定画面を表示します。**

P.10「1.1　設定画面を表示する」

2　**「詳細設定」－「バーチャル・サーバ（ポート開放）」の順にクリックします。**

3　**次のように設定します。**

※画面は、Web サーバを公開する例です。

①「接続先」で使用するパソコンを選択します。

②「サービス」で使用するサービスの種類を選択します。選択したサービスに合わせて、「ポート範囲」および「プロトコル」が設定されます。

③「備考」にコメントを入力します（必須ではありません）。

④［登録］をクリックします。

・①「接続先」に設定したいパソコンが表示されない場合は、P.135「■ PC データベース（詳細設定）」でパソコンを手動で登録したあと、「バーチャル・サーバ（ポート開放）」画面を表示して設定します。

・①「接続先」に設定したいパソコンの IP アドレスがわからない場合は、P.178「5.1　パソコンの IP アドレスを確認する」で確認してください。

・②「サービス」で「ユーザ定義」を選択したときは、「ポート範囲」および「プロトコル」を設定します。また、「ポート範囲」の「詳細設定」にチェックを付けると、LAN 側ポートと WAN 側ポートを別々に設定できます。

4　**設定画面更新後に「バーチャル・サーバテーブル」に設定した内容が登録されていることを確認します。**

5　**「ログアウト」をクリックします。**

以上で、設定は完了です。

2.4 マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分ける

本商品は PPPoE マルチセッション機能に対応しています。例えば、NTT 東日本、NTT 西日本が提供するフレッツ・スクウェアをお使いの場合、通常のインターネットとフレッツ・スクウェアに同時に接続できるようになります。

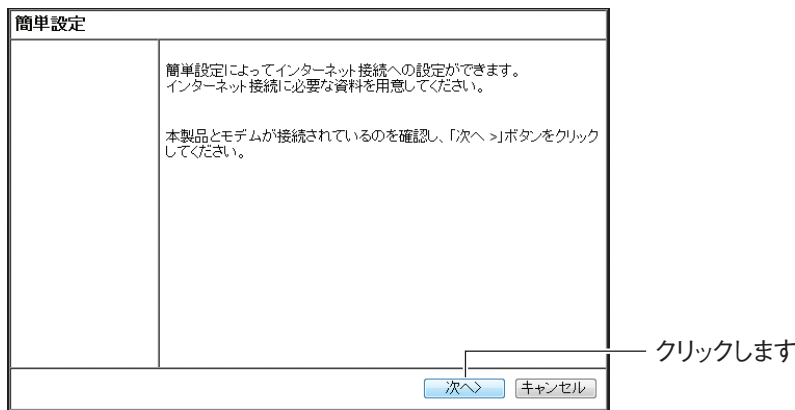
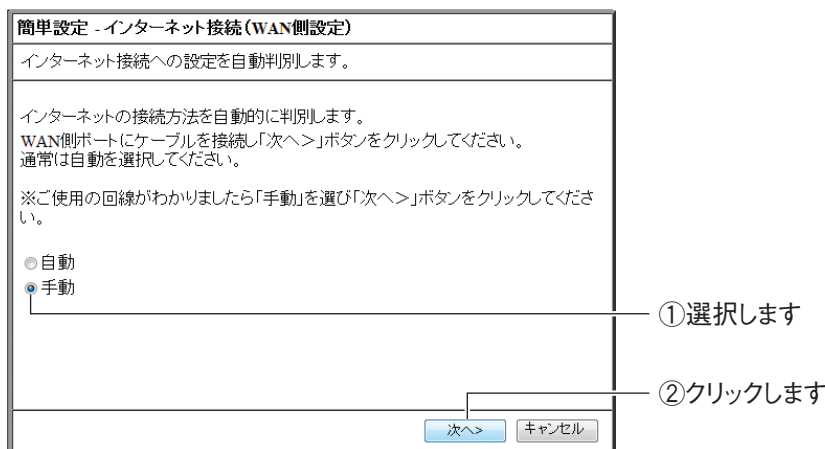
2.4.1 プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する場合

次の手順で設定します。

1 設定画面を表示します。

☞ P.10 「1.1　設定画面を表示する」

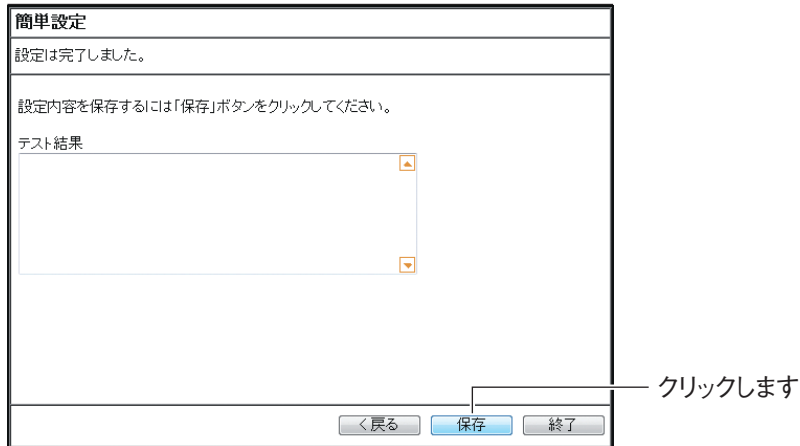
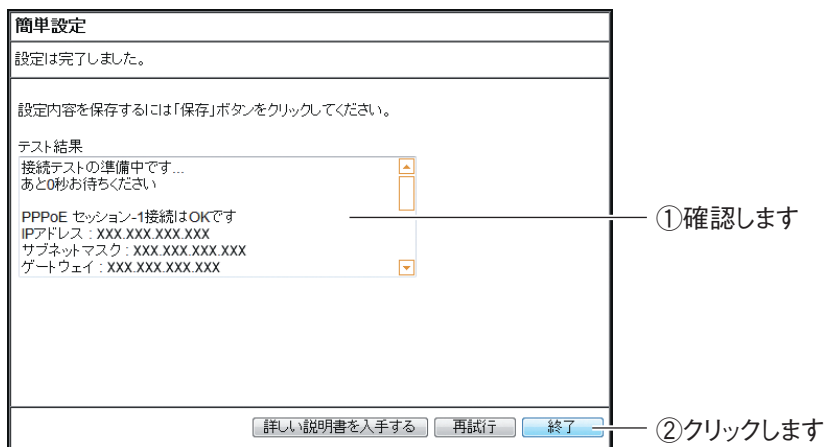
2 「簡単設定」をクリックします。

3 ［次へ］をクリックします。

4 「手動」を選択し、［次へ］をクリックします。

5　「PPPoE（FLET'S シリーズ）」を選択し、［次へ］をクリックします。

6　「接続ユーザ名」、「接続パスワード」、「パスワードの確認」を入力し、［次へ］をクリックします。

7　「東日本」または「西日本」を選択し、［次へ］をクリックします。

8　［保存］をクリックし、接続テストを始めます。

手順 9 の画面が表示されるまでお待ちください。

9　接続テストの結果を確認し、［終了］をクリックします。

以上で、設定は完了です。

2.5　複数固定 IP サービスを利用する

各プロバイダが PPPoE 回線で提供する複数固定 IP アドレスサービスを利用すると、プロバイダから割り当てられた複数固定 IP アドレスを本商品および本商品に接続するパソコンに設定して、サーバの公開などができます。

2

2.5.1 Unnumbered IP の場合

本商品に、グローバル IP アドレスのパソコンのみを接続する場合に設定します。

ここでは、次の設定を例にしています。

本商品の現在の設定（工場出荷時の状態）	
IP アドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
プロバイダからの設定情報（固定 IP アドレス 8 個の場合）	
IP アドレスの範囲	xxx.xxx.xxx.0 ～ xxx.xxx.xxx.7 ※ただし、xxx.xxx.xxx.0 はネットワークアドレス、xxx.xxx.xxx.7 はブロードキャストアドレスのため、使用できません。
サブネットマスク	255.255.255.248
DNS サーバ 1	○○○ . ○○○ . ○○○ . ○○○
DNS サーバ 2	□□□ . □□□ . □□□ . □□□

上記の固定 IP アドレスを使用するために、本商品および本商品に接続するパソコンを、次のように設定します。

本商品に設定する IP アドレス	
IP アドレス	xxx.xxx.xxx.1
サブネットマスク	255.255.255.248
本商品に接続するパソコンに設定する IP アドレス（最大 5 台）	
IP アドレスの範囲	xxx.xxx.xxx.2 ～ xxx.xxx.xxx.6
サブネットマスク	255.255.255.248
デフォルトゲートウェイ	xxx.xxx.xxx.1
優先 DNS サーバ	○○○ . ○○○ . ○○○ . ○○○
代替 DNS サーバ 2	□□□ . □□□ . □□□ . □□□

1　設定画面を表示します。

☞P.10「1.1　設定画面を表示する」

2　「WAN 側設定（インターネット）」をクリックします。

3　「PPPoE」を選択し、［セッション -1 設定］をクリックします。

4　次のように設定します。

※画面および設定値は例です。詳しくは、プロバイダからの資料をご覧ください。

①任意のアカウントを選択します。

②「接続ユーザー ID」、「接続パスワード」、「接続パスワードの確認」を入力します。

③「Unnumbered IP」を選択します。

注意

グローバル IP アドレスを割り当てるパソコンはセッション２に接続できません。次の画面が表示されますので、[OK] をクリックします。

④「xxx.xxx.xxx.1」を入力します。

⑤「255.255.255.248」を入力します。

⑥「マニュアル設定」を選択します。

⑦「○○○ . ○○○ . ○○○ . ○○○」を入力します。

⑧「□□□ . □□□ . □□□ . □□□」を入力します。

⑨［設定］をクリックします。

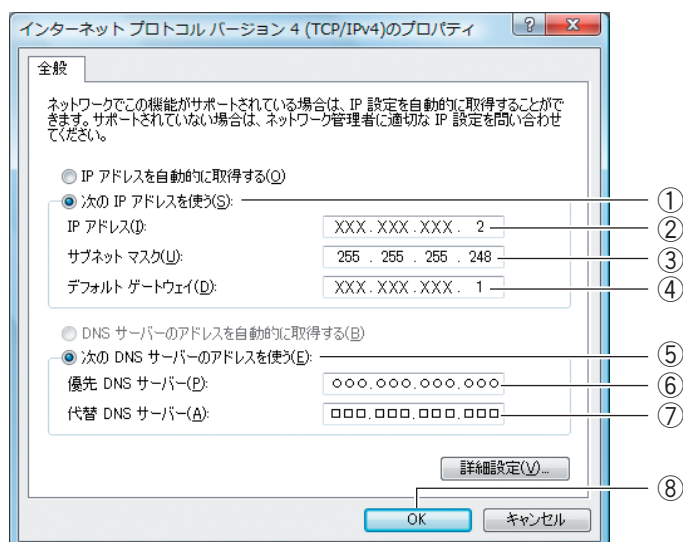
注意

本商品の IP アドレスが変更されます。設定画面を表示するには、本商品に設定した IP アドレス（設定例では「×××.×××.×××.1」）を入力してください。

5　設定画面でエラーが表示されたら、Web ブラウザを閉じます。

エラーが表示されない場合も Web ブラウザを閉じます。

引き続き、本商品に接続するパソコンを設定します。

6　パソコンの IP アドレスを次のように設定します。

※画面および設定値は例です。詳しくは、プロバイダからの資料をご覧ください。

①「次の IP アドレスを使う」を選択します。

②「xxx.xxx.xxx.2」を入力します。

③「255.255.255.248」を入力します。

④「xxx.xxx.xxx.1」を入力します。

⑤「次の DNS サーバーのアドレスを使う」を選択します。

⑥「○○○ . ○○○ . ○○○ . ○○○」を入力します。

⑦「□□□ . □□□ . □□□ . □□□」を入力します。

⑧［OK］をクリックします。

7　本商品の設定画面を表示します。

IP アドレスを設定したパソコンで Internet Explorer または Safari を起動し、本商品に設定した IP アドレス（設定例では「xxx.xxx.xxx.1」）を入力し、Enter キーまたは return キーを押します。

☞ P.10「1.1　設定画面を表示する」

8　「WAN 側設定（インターネット）」をクリックします。

9　「セッション -1」をクリックします。

10「接続状態」が「接続」になっていることを確認します。

「未接続」になっている場合は、［接続］をクリックします。

※手順 10 の画面が表示されるまでしばらくお待ちください。

以上で、Unnumbered IP の設定は完了です。

２台目以降のパソコンは、IP アドレスに「XXX.XXX.XXX.3」から「XXX.XXX.XXX.6」を設定します。IP アドレス以外の設定は、パソコン１と同じです。

※固定 IP アドレスが８個の場合の例です。詳しくは、プロバイダからの資料をご覧ください。

2.5.2 Unnumbered IP + Private IP の場合

本商品にグローバル IP アドレスに固定したパソコンだけでなく、プライベート IP アドレスのパソコンを同時に接続する場合に設定します。プライベート IP アドレスのパソコンは、IP マスカレード機能によってインターネットに接続できます。

1 設定画面を表示します。

P.10 「1.1 設定画面を表示する」

2 「WAN 側設定（インターネット）」をクリックします。

3 「PPPoE」を選択し、［セッション -1 設定］をクリックします。

4 「PPPoE サービス・タイプ」で「Unnumbered IP ＋ Private IP」を選択します。

※画面および設定値は例です。詳しくは、プロバイダからの資料をご覧ください。

そのほかの設定は、**P.47**「2.5.1　Unnumbered IP の場合」手順４をご覧ください。
設定が完了したら［設定］をクリックします。

5 「接続状態」が「接続」になっていることを確認します。

「未接続」になっている場合は、［接続］をクリックします。

※手順５の画面が表示されるまでしばらくお待ちください。

6 グローバル IP アドレスを割り当てるパソコンを設定します。

設定手順は、**P.47**「2.5.1　Unnumbered IP の場合」手順 6 をご覧ください。

7 プライベート IP アドレスを使用するパソコンを設定します。

IP アドレスを自動取得に設定します。設定手順は、**P.184**「5.2　パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認する」をご覧ください。

8 本商品の設定画面を表示します。

① Internet Explorer または Safari を起動します。

② IP アドレスを固定に設定したパソコンでは、本商品に設定した IP アドレス（設定例では「xxx.xxx.xxx.1」）を入力します。IP アドレスを自動取得に設定したパソコンでは、「192.168.1.1」（工場出荷時設定の場合）を入力します。

③ Enter キーまたは return キーを押します。

以上で、設定は完了です。

P.120「4.4.1　PPPoE」もあわせてご覧ください。

2.6　ダイナミック DNS を使用して URL で接続する

本商品に接続したパソコンをバーチャルサーバ（ポート開放）などでサーバ公開している場合、グローバル IP アドレスに接続します。しかし、通常は接続するたびに IP アドレスが変更されるため、割り当てられている IP アドレスを調べる必要があります。
そこで、本商品のダイナミック DNS 機能を使用すると、IP アドレスではなくダイナミック DNS に登録したドメイン名でサーバにアクセスできるようになります。IP アドレスが変更されても、URL が変わらないため便利です。

ここでは、ダイナミック DNS サービスに登録し、ダイナミック DNS を設定する手順を説明します。

本商品のダイナミック DNS を使用できるのは、ルータ機能が有効（ON）のときのみです。ルータ機能が無効（OFF）のときは、ダイナミック DNS を使用できません。

1　ダイナミック DNS サービスに登録します。

ダイナミック DNS サービスに未登録の場合は、「corede.net」（無料／日本語ページ）、「DynDNS.org」（無料／英語ページ）、「IvyNetwork」（有料／日本語ページ）、「@Net DDNS」のいずれかのサービスに登録します。
ここでは、「corede.net」（無料／日本語ページ）に登録する例を説明します。
詳しい解説は、コレガホームページ（http://corega.jp/）で「商品情報」－「導入ナビゲーション」の順にクリックし、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミック DNS 活用ガイド」をご覧ください（2009 年 8 月現在）。

http://corega.jp/product/navi/ddns/

・本商品が対応するダイナミック DNS サービスは、「corede.net」、「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」のみです。
・「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」が運用するダイナミック DNS サービスについては、サポート対象外となります。
・「@Net DDNS」は @NetHome 会員のみのサービスです。ご利用いただく場合は、あらかじめ @NetHome 加入者サポートページよりダイナミック DNS サービスをお申し込みください。

2　設定画面を表示します。

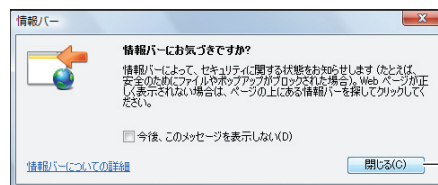
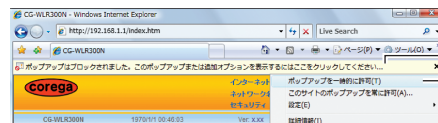
☞ P.10「1.1　設定画面を表示する」

3　「WAN 側設定（インターネット）」－「ダイナミック DNS」の順にクリックします。

4　ダイナミック DNS で「corede.net」を選択し、メールアドレスを入力して、[無料登録] をクリックします。

2

5　［OK］をクリックします。

お使いの環境によっては、次の画面が表示されます。
①［閉じる］をクリックします。

②画面の上に表示されたバーをクリックして「ポップアップを一時的に許可」をクリックします。

③画面が切り替わったら手順３からやり直してください。

6　設定内容が表示されます。［設定］をクリックします。

登録したメールアドレスに、設定内容が記載されたメールが送付されます。必ず保存してください。

以上で、ダイナミック DNS の設定は完了です。

P.129「4.4.3　ダイナミック DNS（DDNS）」もあわせてご覧ください。

2.7　外部にネットワークカメラ（カメラサーバ）の映像を公開する

本商品にコレガ製ネットワークカメラを接続して、撮影した映像をインターネット上に配信できます。

本商品には次の設定が必要です。

☞P.42 「2.3　ポートを開放する（バーチャルサーバ機能）」

☞P.55 「2.6　ダイナミック DNS を使用して URL で接続する」

☞P.134 「■ PC データベース」

詳しい解説は、コレガホームページ（http://corega.jp/）で「商品情報」－「導入ナビゲーション」の順にクリックし、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミック DNS 活用ガイド」をご覧ください（2009 年 8 月現在）。

http://corega.jp/product/navi/ddns/

2.8　本商品に接続して IPv6 サービスに接続する

一部のインターネットプロバイダによる通信サービス、各ブロードバンド映像配信サービスで使われている IPv6（Internet Protocol version 6）を使う場合に設定します。詳しくは、各サービスのサポート元にお問い合わせください。

お使いのサービスが IPv6 を使用する場合は、IPv6 ブリッジ機能を設定します。

IPv6 ブリッジは、次の手順で設定します。

1　**設定画面を表示します。**

☞ P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2　**「WAN 側設定（インターネット）」－「パススルー」の順にクリックします。**

3　**「IPv6 ブリッジ」で「有効」を選択し、［設定］をクリックします。**

以上で、IPv6 ブリッジの設定は完了です。

2.9　ルータ機能を使わないで直接 PPPoE 接続する

複数のアカウントを契約していて、お使いのパソコンから直接 PPPoE 回線に接続する場合などは、「ダイレクト PPPoE」という機能で接続できます。

ダイレクト PPPoE は、次の手順で設定します。

1　**設定画面を表示します。**

☞ P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2　**「WAN 側設定（インターネット）」－「パススルー」の順にクリックします。**

3　**「ダイレクト PPPoE」で「有効」を選択し、[設定] をクリックします。**

以上で、ダイレクト PPPoE の設定は完了です。

以降は、各メーカ・プロバイダの「接続設定ソフト」で接続するか、Windows Vista/XP をお使いの場合は、「広帯域接続」でお使いの PPPoE 回線に接続してください。
Windows Vista/XP の「広帯域接続」については、OS のサポート元（パソコンメーカなど）にお問い合せください。
各メーカ・プロバイダの「接続設定ソフト」については、各サポート元にお問い合せください。

2.10　外出先から本商品にアクセスする

本商品を接続している場所からインターネットを通じて、離れた場所で本商品の設定画面を表示するには、リモート設定を使います。リモート設定を使うには、「WAN 側の IP アドレス」とあらかじめ設定したポートの「ポート番号」が必要となります。「WAN 側の IP アドレス」はお使いのプロバイダによっては変わることがあるため、IP アドレスが変更されてもアクセス方法の変わらない「ダイナミック DNS」機能を使うと便利です。
「ダイナミック DNS」を設定するには、**P.55**「2.6　ダイナミック DNS を使用して URL で接続する」をご覧ください。
「リモート設定」を使用して外出先から本商品にアクセスするには、次の手順で設定します。

1　**設定画面を表示します。**

P.10「1.1　設定画面を表示する」

2　**「管理」－「リモート」の順にクリックします。**

3　**次のように設定します。**

※ポート番号は例です。ポートは 1 ～ 9600 の範囲で設定できます。

①「リモート設定」で「有効」を選択します。
②「ポート」に任意の番号（初期値：8080）を入力します。
③［設定］をクリックします。

以上で、設定は完了です。

インターネットを通じて本商品に接続するには、次のように設定します。

- リモートで設定したポート番号は、バーチャルサーバなどでは使用できません。
- ダイナミック DNS を使用しないで、本商品にアクセスするには、「WAN 側の IP アドレス」と指定した「ポート番号」の組み合わせでアクセスします。「WAN 側の IP アドレス」は、**P.174**「4.10 ステータス」で確認できます。

2.11　エコピタ LED 消灯モードを設定する

本商品の前面の LED を常時消灯にすることで、夜間でもまぶしさが気にならず、消費電力も抑えられます。次の手順で設定します。

1　**設定画面を表示します。**

☞ P.10「1.1 設定画面を表示する」

2　**「管理」をクリックします。**

3　**次のように設定します。**

①「フロント LED」で「無効」を選択します。

②［設定］をクリックします。

以上で、エコピタ LED 消灯モードの設定は完了です。

エコピタ LED 消灯モードに設定すると、本商品の前面の LED が電源 LED（橙）を残して、すべて消灯します。再起動など、一部の機能を除き LED は動作しません。

2.12　スケジュールを登録する

本商品の無線スケジュール停止機能またはインターネットアクセス制限機能を使用するときは、あらかじめスケジュールを登録します。
設定する項目は次のとおりです。

名前	15 文字以内（半角英数字および半角記号のみ）
曜日	毎日、日曜日～土曜日
開始時間	00:00 ～ 23:58（半角数字のみ） ※「終了時間」より前の時刻を設定してください
終了時間	00:01 ～ 23:59（半角数字のみ） ※「開始時間」よりあとの時刻を設定してください
コメント	20 文字以内（半角英数字および半角記号のみ）

・スケジュールは、本商品に設定されている日時をもとに動作します。現在の日時を設定画面で確認してください。
・日時が正しくない場合は、「管理」画面の⑥「時間設定」で設定してください。

☞ P.167 「4.9 管理」

1 設定画面を表示します。

☞ P.10 「1.1 設定画面を表示する」

2 「セキュリティ設定」－「スケジュール」の順にクリックします。

3　スケジュールを登録します。

ここでは、次の表を例に設定しています。

名前	am
曜日	毎日
開始時間	00:00
終了時間	08:00
コメント	0:00~8:00

スケジュールを登録するには、表のすべての項目を設定する必要があります。

4　登録されたスケジュールを確認します。

以上で、スケジュールが登録されました。

登録したスケジュールは、次の機能で使用します。

P.65「2.13　無線スケジュール停止機能を使用する」

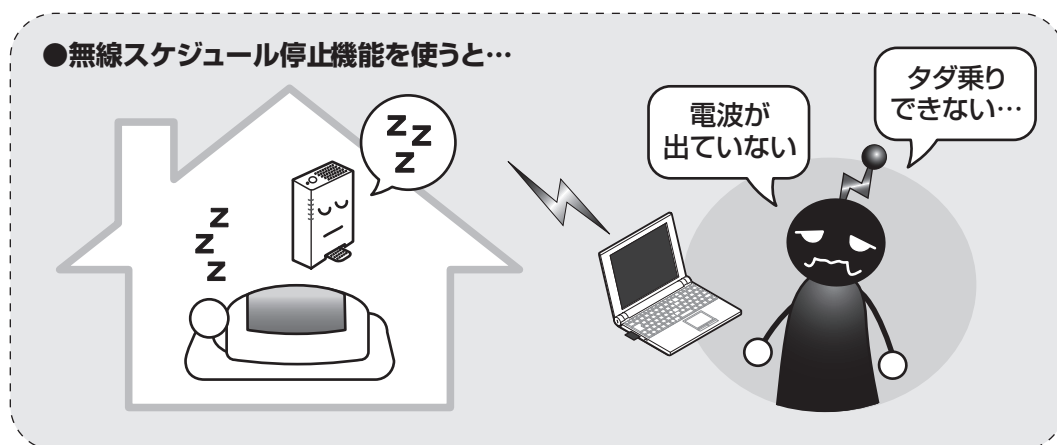
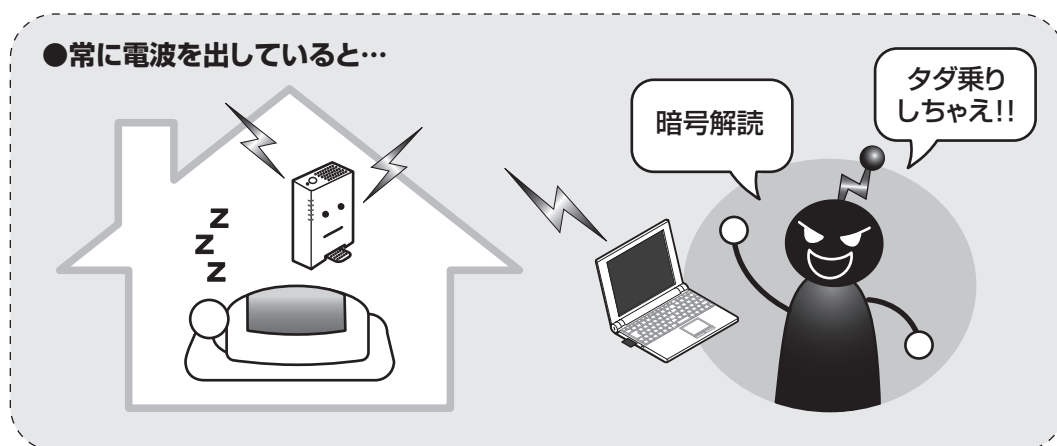
P.67「2.14 インターネットアクセス制限機能を設定する」

2.13　無線スケジュール停止機能を使用する

本商品に搭載している無線スケジュール停止機能について説明します。

2.13.1　無線スケジュール停止機能について

今までの無線 LAN ルータは、無線 LAN を使用していない時間帯も常に電波を飛ばし続けているため、寝ているときや不在のあいだに無線 LAN から家庭内のネットワークに侵入されたり、電波をただ乗りされたりする心配がありました。

通常は、WPA2 や MAC アドレスフィルタなどの無線 LAN セキュリティを設定することで安心して無線 LAN を使用できますが、無線 LAN を使用しない時間帯は無線 LAN 自体を停止させることでさらに安全になります。また、無線 LAN ルータ自体の電源は切らないため、無線 LAN を停止していても、有線で本商品に接続している機器から外部のサーバに公開するなどの動作には影響はありません。

2.13.2 無線スケジュール停止機能を設定する

次の手順でスケジュールに従って無線 LAN を停止します。

無線スケジュール停止機能を設定するには、あらかじめスケジュールを登録しておく必要があります。

P.63 「2.12 スケジュールを登録する」

1 **設定画面を表示します。**

P.10 「1.1 設定画面を表示する」

2 **「セキュリティ設定」ー「無線ストップ機能」の順にクリックします。**

3 **スケジュールを選択し、[登録] をクリックします。**

4 **「無線ストップテーブル」に登録されたスケジュールを確認し、[無効] をクリックして、[有効] にします。**

「スケジューリング」にスケジュールが表示されない場合は、スケジュールを確認してください。

P.63 「2.12 スケジュールを登録する」

以上で、無線スケジュール停止機能の設定は完了です。

2.14　インターネットアクセス制限機能を設定する

本商品からインターネットに接続するネットワーク機器を制限します。

インターネットアクセス制限機能は、ルータ機能が無効（OFF）のときは使用できません。

あらかじめスケジュールを登録しておくと、時間帯でインターネット接続を制限できます。

P.63 「2.12　スケジュールを登録する」

2

1　設定画面を表示します。

P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2　「セキュリティ設定」－「アクセス制限」の順にクリックします。

3　インターネット接続の制限を設定します。

ここでは、次の表を例に設定します。

制限する IP アドレス	192.168.1.25 ～ 192.168.1.27
制限するサービス	WWW（ウェブブラウズ）
スケジューリング（スケジュール設定を使用します）	am P.63 「2.12　スケジュールを登録する」

4 「アクセス制限テーブル」に正しく登録されたことを確認します。

以上で、設定は完了です。

2.15　USB で共有する

本商品は USB ポートを搭載しています。この USB ポートに USB ストレージ（USB 接続の外付けハードディスクなど）を接続してネットワークで共有できます。

・本商品に取り付ける USB ストレージ（ハードディスクなど）や、それらに保存されたデータについて、いかなる原因・理由においても弊社では一切保証いたしません。あらかじめご了承ください。

・重要なデータはお客様の責任において必ずほかのメディアにバックアップを取ってください。

2.15.1　USB 共有機能について

本商品の USB 共有機能は、次の環境に対応します。

■対応 PC ／ OS

対応するパソコン・OS は、次の表のとおりです。

対応パソコン	対応OS
DOS/Vパソコン	Windows Vista/XP/2000
Macintosh	Mac OS X 10.4以降

■対応する USB 機器

・USB 2.0/1.1 接続の外付け USB ストレージ

・USB ストレージ以外の機器（プリンタなど）は接続できません。
・1.5TByte　までの容量に対応します。最新の動作確認済み機器はコレガホームページ（http://corega.jp/）をご覧ください。
・USB ハブでの複数台の接続には対応していません。
・USB 機器の電源は、セルフパワー（別途 AC アダプタなど）で供給してください。
・USB 延長ケーブル、CG-WLR300N-U に付属の USB フレキシブルケーブルは使用しないでください。USB ストレージを直接 USB ポートに接続してください。

■対応するファイルシステム

次のファイルシステムに対応します。

ファイルシステム	読み込み	書き込み
NTFS	○	×
FAT32	○	○（4GByteまで）
FAT16	○	○（2GByteまで）

複数のボリュームには対応していません。先頭のボリュームのみ読み書きできます。

USB ストレージは、あらかじめパソコンでフォーマットしておいてください。フォーマットの方法は、各 OS のヘルプをご覧ください。

■制限など

本商品の USB 共有機能には次の制限があります。

· 共有する USB ストレージに接続できるパソコンは、次の表のとおりです。
LAN 内からのアクセスのみ対応します。

パソコンの接続方法		接続の可否
有線LAN		○
無線LAN	ファーストSSID（※）	○
	セカンドSSID	×

※ MAC アドレスフィルタリングでアクセス制限の対象になっているパソコンからは接続できません。

· ワークグループのネットワーク設定に対応します。Active Directoryやドメインには対応しません。

· ユーザやグループの権限は設定できません。USB ポートに接続した USB ストレージの内容は、「Public」でネットワーク内に共有されます。

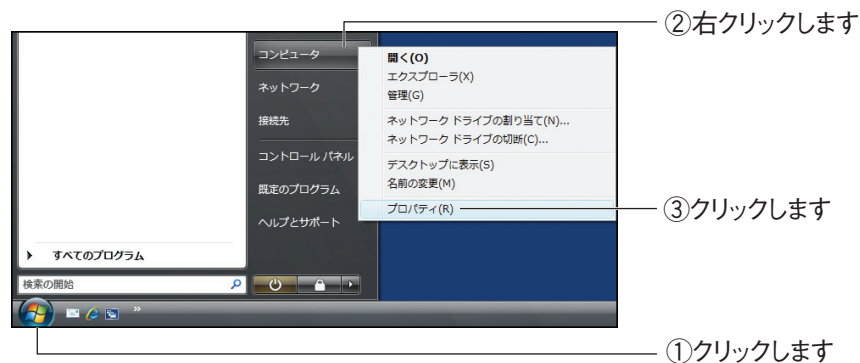
2.15.2　ワークグループを確認する

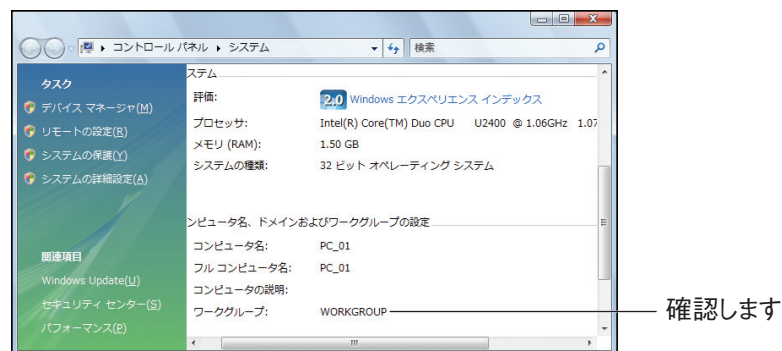
お使いのネットワーク環境のワークグループを確認します。

P.71 「■　Windows Vista/XP の場合」

P.72 「■　Windows 2000 の場合」

■ Windows Vista/XP の場合

1 ［スタート］をクリックして「コンピュータ」（Windows XP の場合は「マイコンピュータ」）を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

2 ワークグループを確認します。

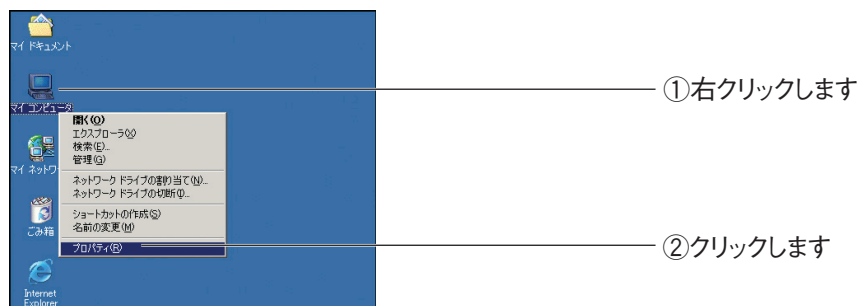
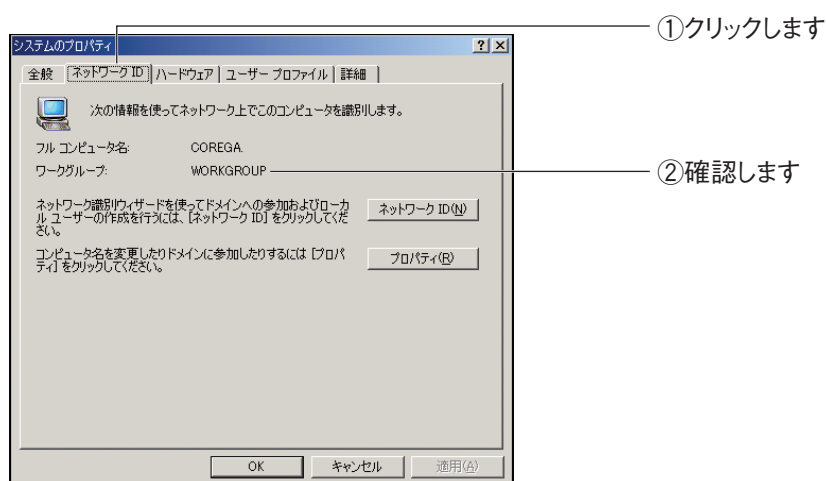
Windows XP の場合は、コンピュータタブで確認します。

※画面は、ワークグループに「WORKGROUP」と設定されている場合の例です。

以上で、ワークグループの確認が完了しました。

引き続き、本商品にワークグループを設定します。

P.73 「2.15.3　ワークグループを設定する」

■ Windows 2000 の場合

1 「マイコンピュータ」を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。

2 ネットワーク ID タブで、ワークグループを確認します。

※画面は、ワークグループに「WORKGROUP」と設定されている場合の例です。

以上で、ワークグループの確認が完了しました。

引き続き、本商品にワークグループを設定します。

☞ P.73「2.15.3 ワークグループを設定する」

2.15.3　ワークグループを設定する

本商品のワークグループを設定します。

1　設定画面を表示します。

P.10「1.1　設定画面を表示する」

2　「USB 設定」をクリックします。

3　「USB 機能設定」の「ワークグループ名」にパソコンで確認したワークグループ名を入力して、［設定］をクリックします。

※画面は、ワークグループに「WORKGROUP」と設定する場合の例です。

以上で、本商品のワークグループの設定は完了です。

引き続き、本商品に USB ストレージを接続します。

2.15.4　USB ストレージを取り付ける

本商品に USB ストレージを接続します。

1　USB ストレージの電源を入れます。

2　本商品の電源が入った状態で、本商品のUSBポートにUSBストレージを接続します。

3　USBストレージが使用できる状態になると、USB LEDが点灯します。

以上で、USB ストレージの接続は完了です。

引き続き、本商品に接続した USB ストレージをパソコンのネットワークドライブに割り当てます。

2.15.5　ネットワークドライブを割り当てる

OS ごとにネットワークドライブの割り当て方法を説明します。

☞P.74「■ Windows Vista の場合」

☞P.76「■ Windows XP の場合」

☞P.78「■ Windows 2000 の場合」

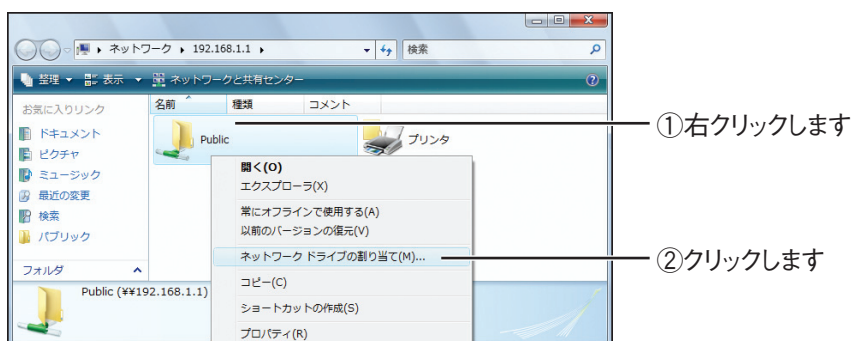
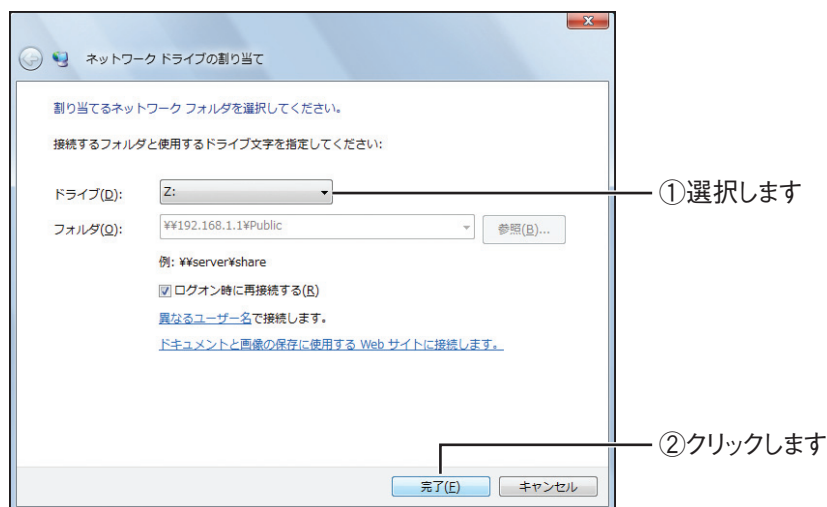
☞P.80「■ Macintosh の場合」

■ Windows Vista の場合

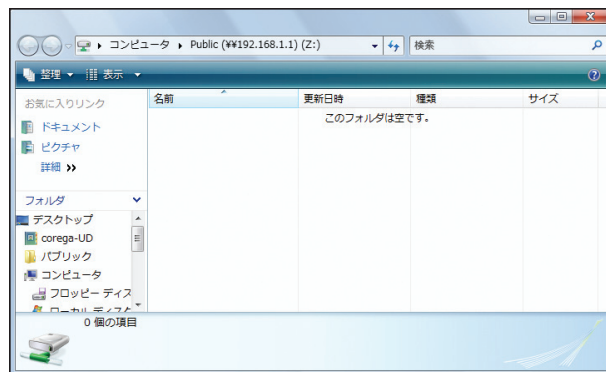
Windows Vista でネットワークドライブを割り当てる方法を説明します。

1 [スタート] をクリックしたあと、②に「¥¥192.168.1.1」と入力し、Enter キーを押します。

※画面は、本商品の IP アドレスが「192.168.1.1」の場合の例です。

2 「Public」を右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」をクリックします。

3　割り当てるドライブを選択し、[完了] をクリックします。

※ Z ドライブに割り当てる場合の例です。

「ログオン時に再接続する」のチェックを外すと、ログオフしたあとで再接続できなくなります。

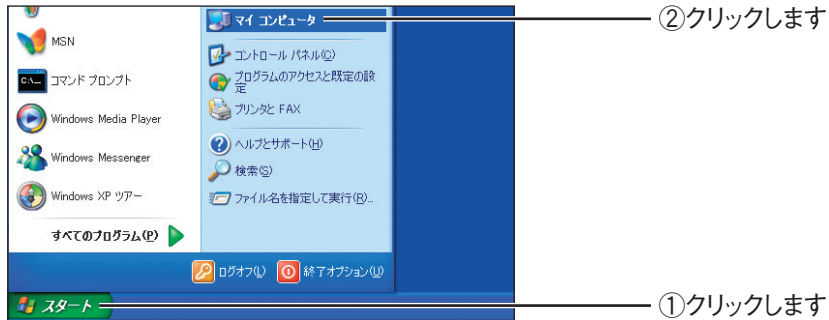
4　「Public」フォルダが表示されます。

以上で、ネットワークドライブの割り当ては完了です。

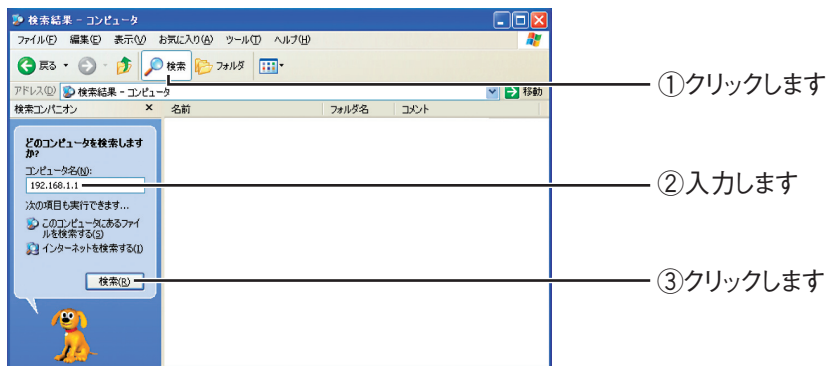
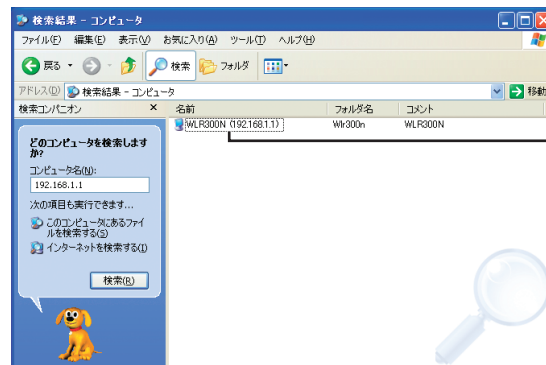
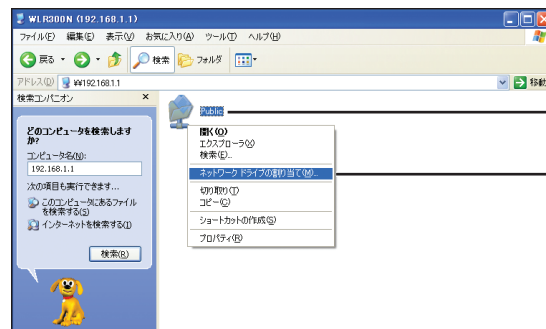
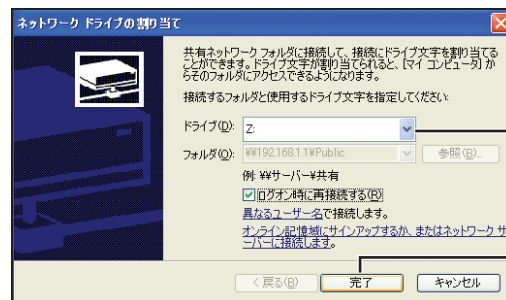
ファイルを読み書きするには、ネットワークドライブを表示します。

☞ P.82「2.15.6　ネットワークドライブを表示する」

■ Windows XP の場合

Windows XP でネットワークドライブを割り当てる方法を説明します。

1 ［スタート］－「マイコンピュータ」の順にクリックします。

2 「マイネットワーク」をクリックします。

3 「検索」をクリックし、左の「コンピュータ名」に「192.168.1.1」と入力して、［検索］をクリックします。

4　検索された本商品をダブルクリックします。

5　「Public」を右クリックして、「ネットワークドライブの割り当て」をクリックします。

6　割り当てるドライブを選択し、[完了] をクリックします。

※ Z ドライブに割り当てる場合の例です。

「ログオン時に再接続する」のチェックを外すと、ログオフしたあとで再接続できなくなります。

以上で、ネットワークドライブの割り当ては完了です。

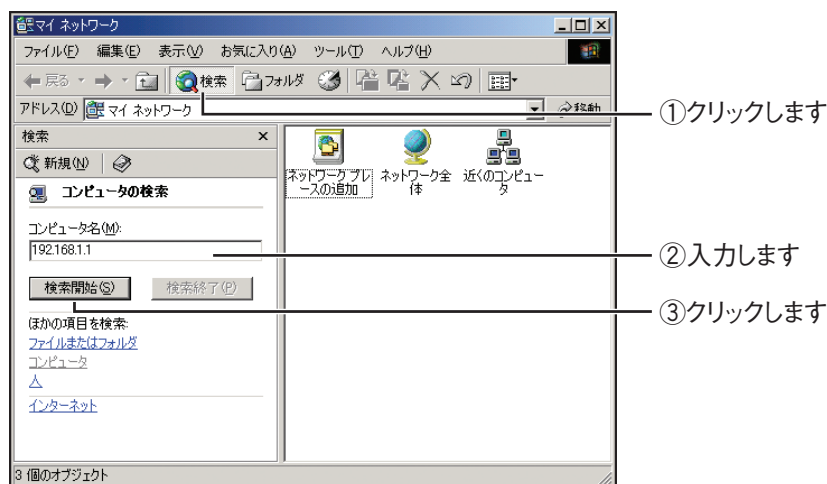
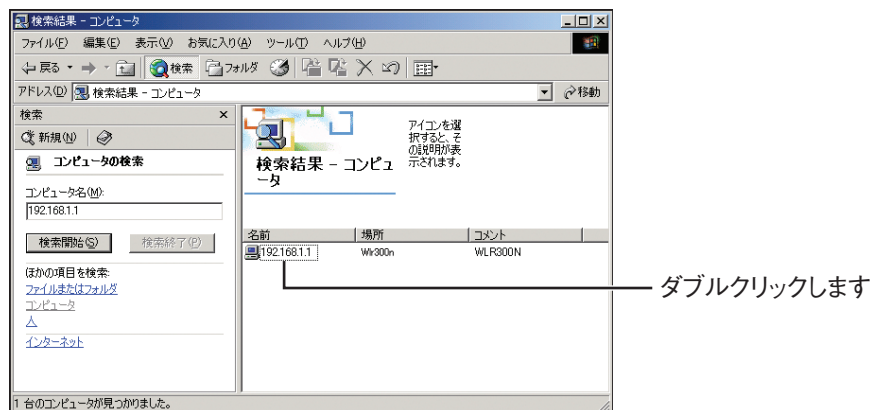
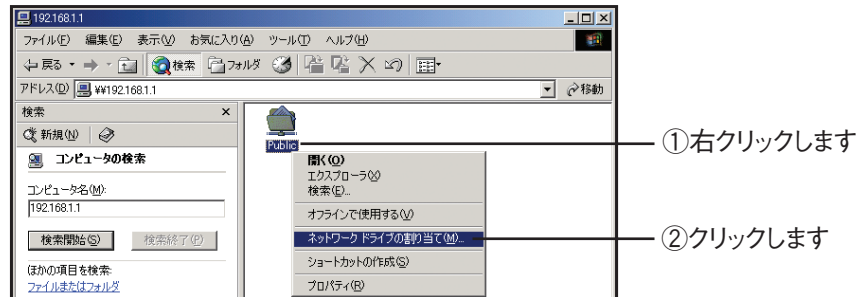
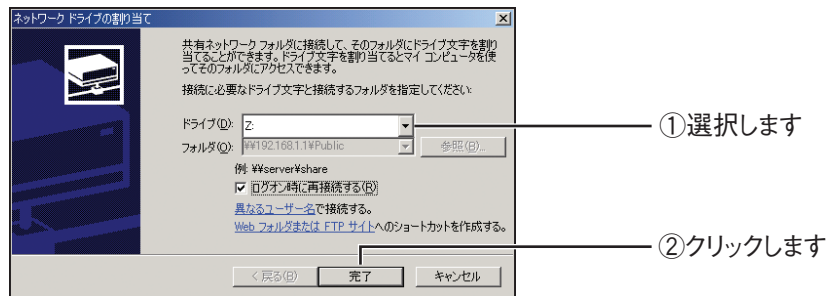
ファイルを読み書きするには、ネットワークドライブを表示します。

☞ P.82 「2.15.6　ネットワークドライブを表示する」

■ Windows 2000 の場合

Windows 2000 でネットワークドライブを割り当てる方法を説明します。

1 デスクトップの「マイネットワーク」をダブルクリックします。

2 「検索」をクリックし、左の「コンピュータ名」に「192.168.1.1」と入力して、「検索開始」をクリックします。

3 検索された本商品をダブルクリックします。

4　「Public」を右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」をクリックします。

5　割り当てるドライブを選択し、[完了] をクリックします。

※ Z ドライブに割り当てる場合の例です。

「ログオン時に再接続する」のチェックを外すと、ログオフしたあとで再接続できなくなります。

6　「Public」フォルダが表示されます。

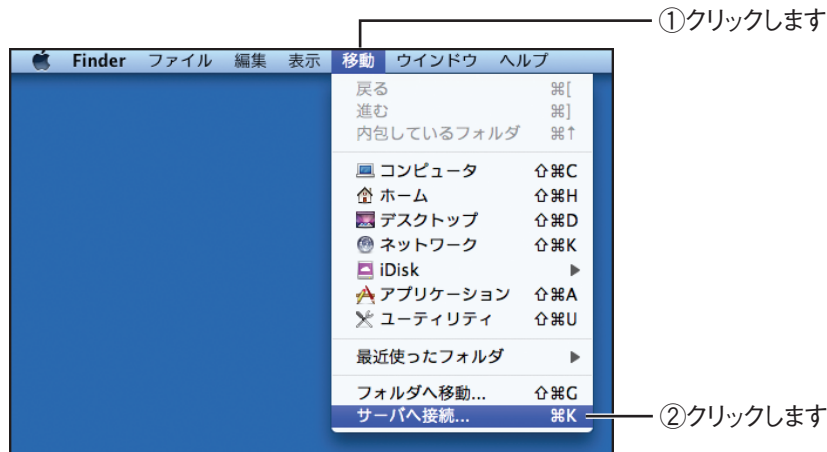
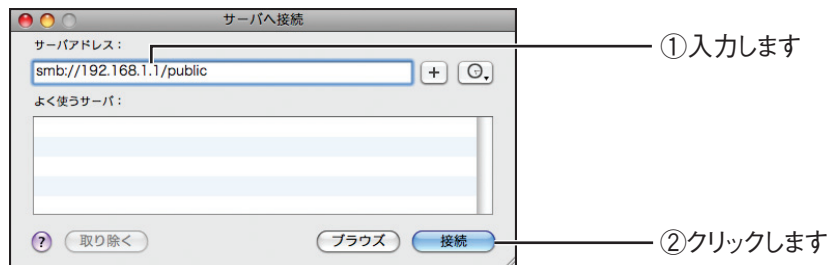
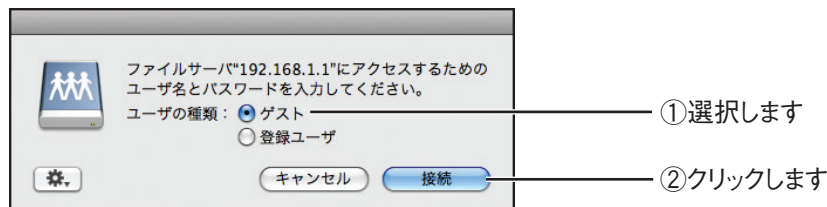
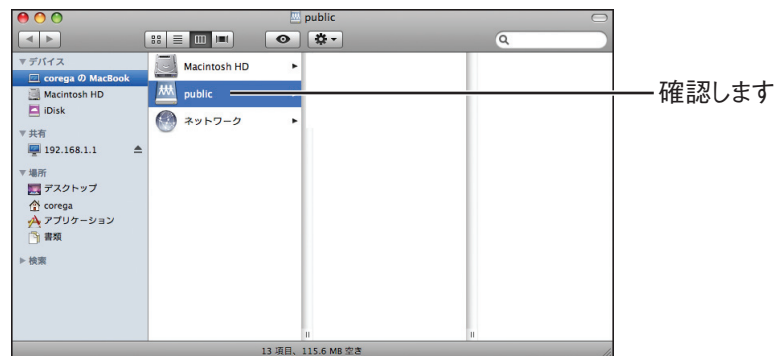
以上で、ネットワークドライブの割り当ては完了です。

ファイルを読み書きするには、ネットワークドライブを表示します。

☞ P.82「2.15.6 ネットワークドライブを表示する」

■ Macintosh の場合

Macintosh（Mac OS X 10.4/10.5）で接続ドライブを割り当てる方法を説明します。

1 「移動」－「サーバへ接続」の順にクリックします。

2 サーバアドレス欄に「smb://192.168.1.1/public」と入力し、[接続］をクリックします。

3 「ゲスト」を選択し、[接続] をクリックします。

4　接続したドライブが登録されていることを確認します。

以上で、ドライブの接続は完了です。

ファイルを読み書きするには、接続したドライブを表示します。

☞ **P.82**「2.15.6　ネットワークドライブを表示する」

2.15.6　ネットワークドライブを表示する

ネットワークドライブに割り当てたUSBストレージを表示します。

☞P.82 「■ Windows Vista の場合」

☞P.83 「■ Windows XP の場合」

☞P.84 「■ Windows 2000 の場合」

☞P.84 「■ Macintosh の場合」

■ Windows Vista の場合

次の手順でネットワークドライブを表示します。

1　**[スタート] －「コンピュータ」の順にクリックします。**

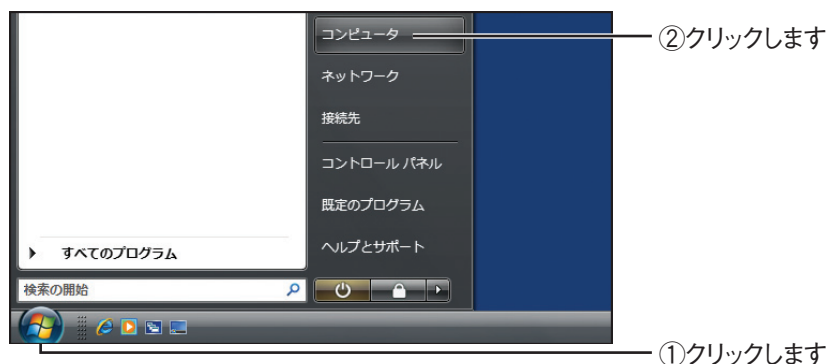
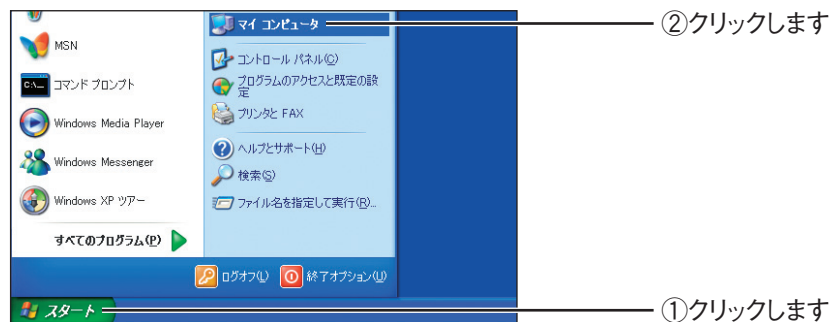
2　**割り当てたドライブをダブルクリックします。**

以上で、ネットワークドライブに割り当てた USB ストレージにファイルを読み書きできます。

2

■ Windows XP の場合

次の手順でネットワークドライブを表示します。

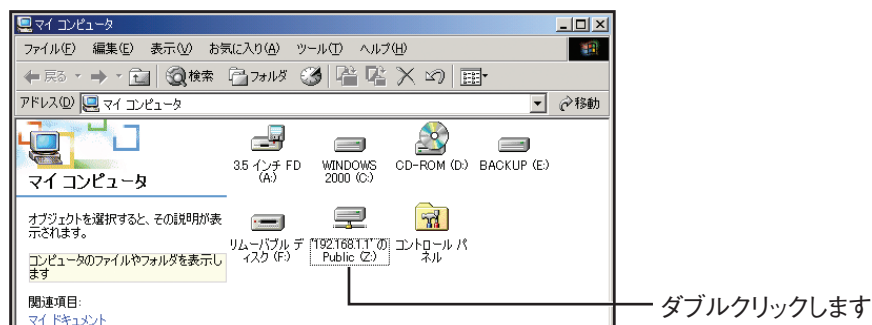
1　［スタート］－「マイコンピュータ」の順にクリックします。

2　割り当てたドライブをダブルクリックします。

以上で、ネットワークドライブに割り当てた USB ストレージにファイルを読み書きできます。

■ Windows 2000 の場合

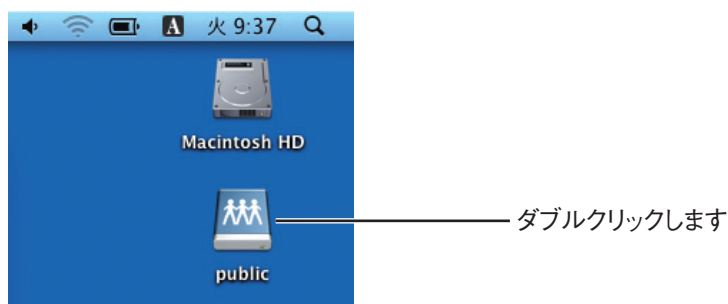
次の手順でネットワークドライブを表示します。

1 デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリックします。

2 割り当てたドライブをダブルクリックします。

以上で、ネットワークドライブに割り当てた USB ストレージにファイルを読み書きできます。

■ Macintosh の場合

次の手順で接続したドライブを表示します。

1 「public」をダブルクリックします。

2 「public」が表示されます。

以上で、接続した USB ストレージにファイルを読み書きできます。

2.15.7　USB ストレージを取り外す

本商品に取り付けた USB ストレージは次の方法で取り外します。

USB ストレージを取り外すときは、必ず次のいずれかの手順に従ってください。USB ストレージおよび内部のデータが破損するおそれがあります。

- 本体の WPS ボタンで取り外す

☞ P.85 「■本体の WPS ボタンで取り外す」

- 設定画面で取り外す

☞ P.85 「■設定画面で取り外す」

■本体の WPS ボタンで取り外す

次の手順で取り外します。

1　**WPS ボタンを 20 秒以上押して離します。**

WPS LED が 1 回点灯してから消灯し、USB LED が消灯します。

エコピタ LED 消灯モードを設定している場合、WPS LED は点灯しません。

2　**USB LEDが消灯したことを確認し､USBストレージを取り外します。**

以上で、USB ストレージの取り外しは完了です。

■設定画面で取り外す

次の手順で取り外します。

1　**設定画面を表示します。**

☞ P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2　**「USB 設定」をクリックします。**

3　［取り外し］をクリックします。

4　画面が更新されます。「ステータス」で「接続されていません」と表示されることを確認します。

5　USB LEDが消灯したことを確認し、USBストレージを取り外します。

以上で、USB ストレージの取り外しは完了です。

第３章
こんなときはこの設定（サポート編）

この章では、本商品の各サポート機能の設定方法について説明します。

3.1　ログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更する

本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードは、次の手順で変更できます。

・新しく設定するログイン名とパスワードを忘れると、本商品の設定画面を表示できなくなります。設定内容はメモに控えておいてください。
・ログイン名とパスワードを忘れてしまった場合は、本商品を工場出荷時の状態に戻すことで初期値に戻ります。詳しくは、P.113「3.5　工場出荷時の状態（初期値）に戻す」をご覧ください。

1　設定画面を表示します。

☞P.10「1.1　設定画面を表示する」

2　「管理」をクリックします。

3　次のように設定します。

①新しいログイン名を入力します。
②新しいパスワードを入力します。
③確認のため②で入力したパスワードを再度入力します。
④［設定］をクリックします。

4　設定画面更新後に［ログアウト］をクリックします。

以上で、設定は完了です。

3.2　最新のファームウェアを入手してアップデートする

本商品の機能強化のため予告なくファームウェアをバージョンアップすることがあります。最新のファームウェアはコレガホームページ（http://corega.jp/）から入手してください。

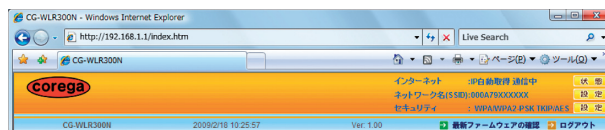
・ファームウェアをアップデートする前に、本商品の設定内容をメモに控えておいてください。アップデートしたあとで、再度設定し直します。
・セキュリティソフトを使用している場合、ファームウェアをアップデートする前にセキュリティソフトを停止し、ファームウェアをアップデートしたあとに、元に戻してください。セキュリティソフトの停止方法については、お使いのセキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。
・ファームウェアのアップデートは、有線 LAN で接続したパソコンから操作してください。
・ファームウェアのアップデート中は、絶対に本商品の電源を切らないでください。また、設定画面のほかの操作をしたり、アプリケーションを起動したりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗すると、本商品の故障の原因になります。

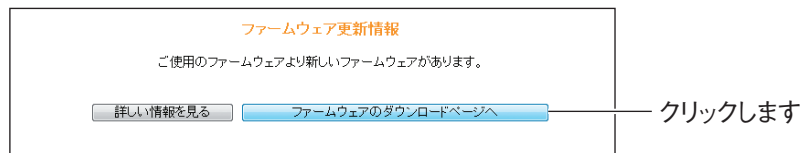
3.2.1 ファームウェアが最新かどうかを確認する

ファームウェアをアップデートする前に、お使いのファームウェアが最新のバージョンかどうかを確認します。

1 設定画面を表示します。

☞P.10「1.1　設定画面を表示する」

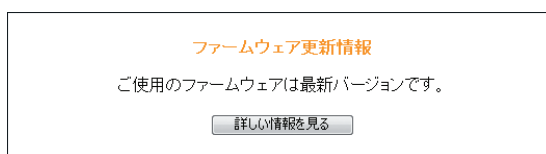
2 「最新ファームウェアの確認」をクリックします。

※画面は、CG-WLR300N のファームウェアバージョン 1.00 の例です。

3 結果が表示されます。次の画面が表示されたら、［ファームウェアのダウンロードページへ］をクリックします。

※画面は例です。

・次の画面が表示された場合、ファームウェアは最新です。ファームウェアをアップデートする必要はありません。

ファームウェア更新情報

ご使用のファームウェアは最新バージョンです。

詳しい情報を見る

※画面は例です。

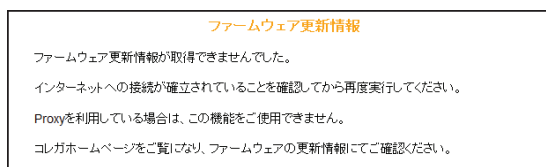
・次の画面が表示された場合、インターネットに接続されていないため、ファームウェアが最新かどうか確認できません。インターネットに接続してから確認し直してください。

ファームウェア更新情報

ファームウェア更新情報が取得できませんでした。

インターネットへの接続が確立されていることを確認してから再度実行してください。

Proxyを利用している場合は、この機能をご使用できません。

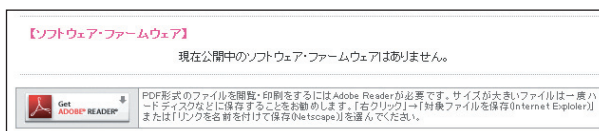
コレガホームページをご覧になり、ファームウェアの更新情報にてご確認ください。

※画面は例です。

4　ファームウェアのダウンロードページが表示されます。

※画面は例です。お使いの商品のページごとに異なります。

・この画面は、「コレガホームページ」－「商品情報」－「無線 LAN」－「無線ブロードバンドルータ」－「CG-WLR300N」－「ダウンロード」の順で表示することもできます。
・お使いの商品によっては、ファームウェアを公開していないことがあります。その場合は、ダウンロードページが次のように表示され、ファームウェアをアップデートできません。

※画面は例です。お使いの商品のページごとに異なります。

3

引き続き、**P.92**「3.2.2 ファームウェアをダウンロードする」に進みます。

3.2.2 ファームウェアをダウンロードする

次の手順でファームウェアをダウンロードして、圧縮ファイルを解凍します。

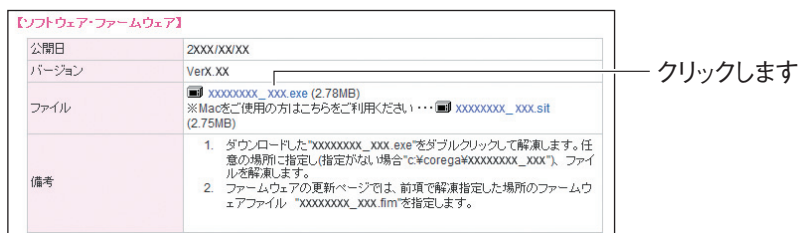
P.92 「■ Windows の場合」

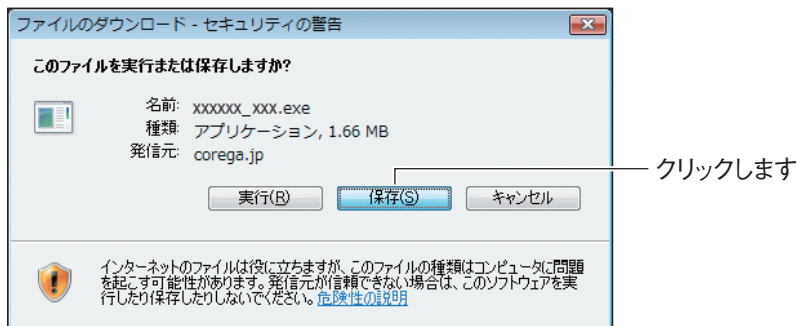
P.95 「■ Macintosh の場合」

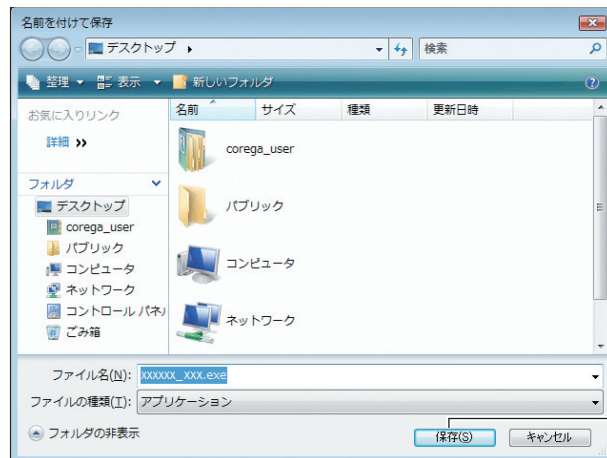
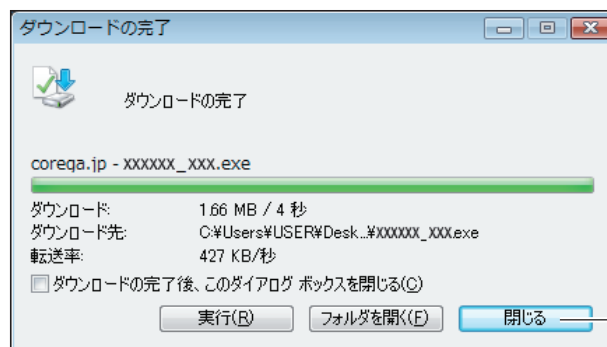
■ Windows の場合

次の手順でファームウェアをダウンロードして、圧縮ファイルを解凍します。

お使いの商品およびファームウェアバージョン、お使いのパソコンによって、ダウンロードするファイル名、解凍先のフォルダ、表示される画面などが異なります。

1 ファームウェアのファイルをクリックします。

※画面は例です。お使いの商品のページごとに異なります。

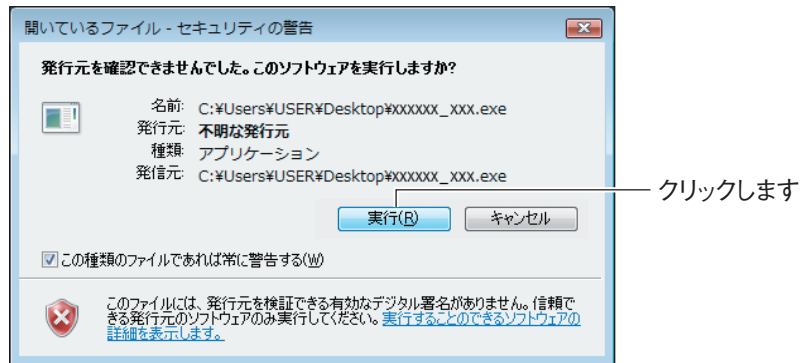
2 [保存] をクリックします。

3 ［保存］をクリックします。

デスクトップに圧縮ファイルが保存されます。

4 ［閉じる］をクリックします。

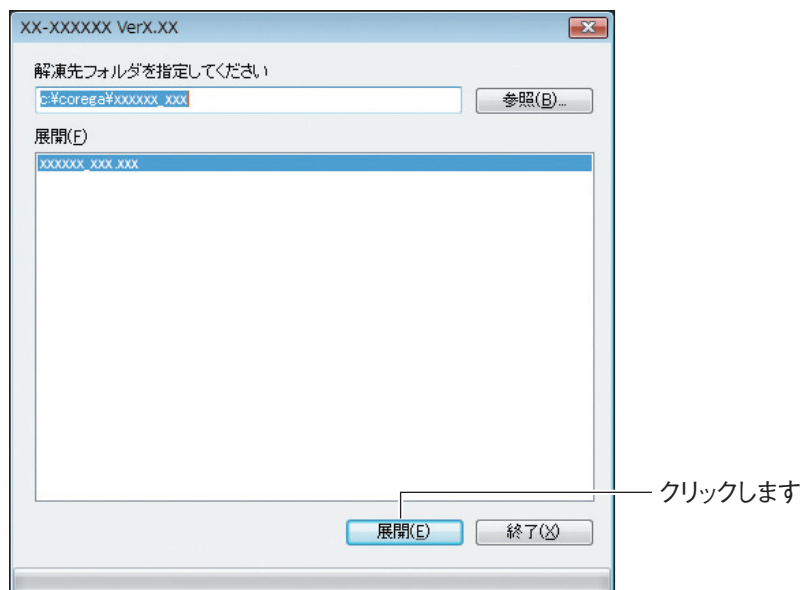
5 デスクトップの圧縮ファイルをダブルクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

6 ［実行］をクリックします。

弊社で動作を確認しています。

Windows XP/2000 をお使いの場合は、手順８に進みます。

7 【Windows Vista のみ】「ユーザアカウント制御画面」が表示される場合は、「許可」をクリックします。

8 ［展開］をクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、解凍先のフォルダが異なります。

以上で、ファームウェアのダウンロードは完了です。引き続き、**P.97**「3.2.3　ファームウェアをアップデートする」に進みます。

■ Macintosh の場合

次の手順でファイルをダウンロードして、圧縮ファイルを解凍します。

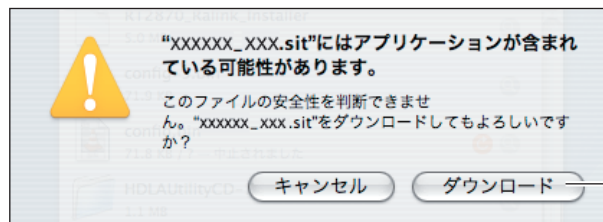
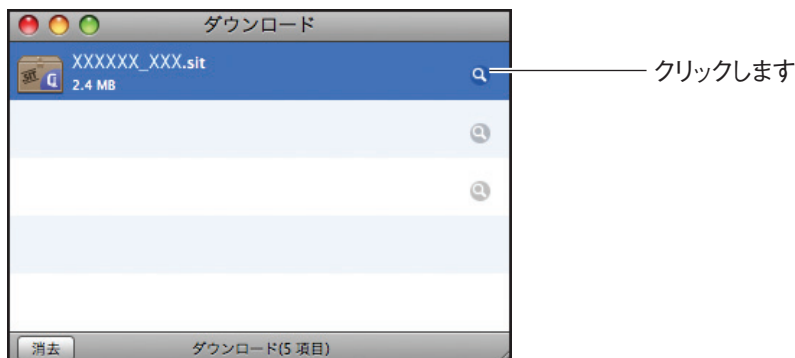
・お使いの商品およびファームウェアのバージョン、お使いの OS のバージョンによって、ダウンロードするファイル名、解凍先のフォルダ、表示される画面などが異なります。
・Mac OS X 10.4/10.5 をお使いの場合、sit 形式の圧縮ファイルを解凍するためのツールが必要です。あらかじめ入手して、インストールしておいてください。ここでは、StuffIt Expander（フリーウェア）を使用して説明しています。
・Mac OS X 10.5 をお使いの場合は、StuffIt Expander 12.0 以降をお使いください。

1　**ファームウェアのファイルをクリックします。**

クリックします

Mac OS X 10.4 では次の画面が表示されます。[ダウンロード] をクリックしてください（弊社で動作を確認しています）。

クリックします

3

2　「ダウンロード」にファームウェアの圧縮ファイルが保存されます。
🔍をクリックします。

3　ファームウェアの圧縮ファイルをダブルクリックします。

4　ファームウェアファイルが解凍されます。

お使いの商品によって、ファイルの拡張子が異なります。圧縮ファイルを解凍したファイルがファームウェアファイルです。

以上で、ファームウェアのダウンロードは完了です。引き続き、**P.97**「3.2.3　ファームウェアをアップデートする」に進みます。

3.2.3 ファームウェアをアップデートする

次の手順で、本商品をアップデートします。ここでは、P.97「3.2.3 ファームウェアをアップデートする」の手順でダウンロードしたファームウェアファイルを使用します。

P.97「■ Windows の場合」

P.103「■ Macintosh の場合」

ファームウェアのアップデートは、有線 LAN で接続したパソコンから操作してください。

お使いの商品およびファームウェアのバージョン、お使いのパソコンによって、ダウンロードするファイル名、解凍先のフォルダ、表示される画面などが異なります。

■ Windows の場合

1 設定画面を表示します。

P.10「1.1 設定画面を表示する」

2「管理」をクリックします。

3「ファームウェア更新」をクリックします。

4　［参照］をクリックします。

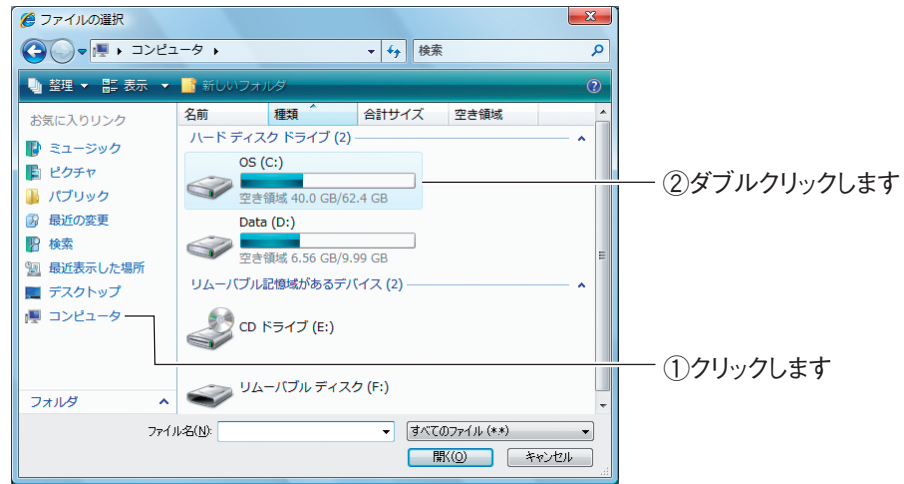
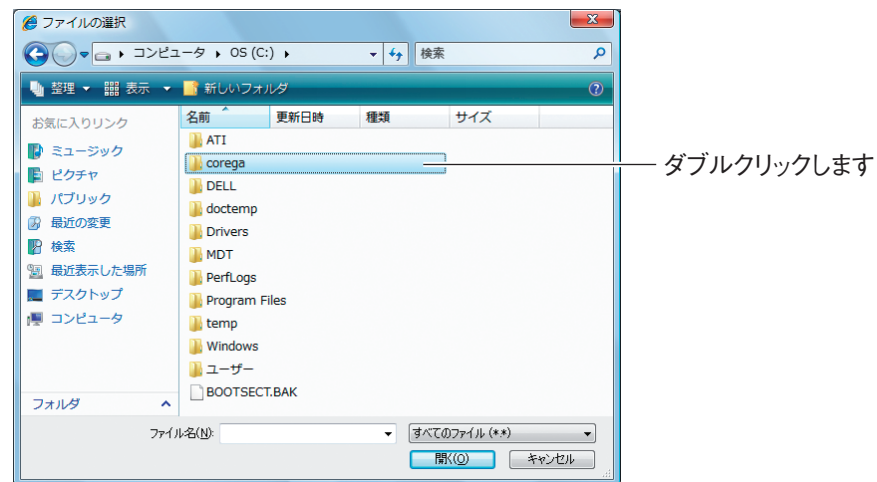
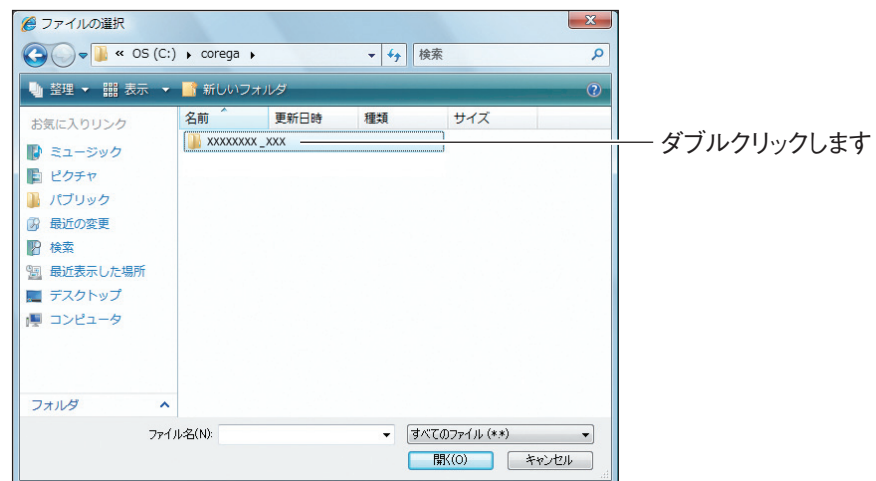
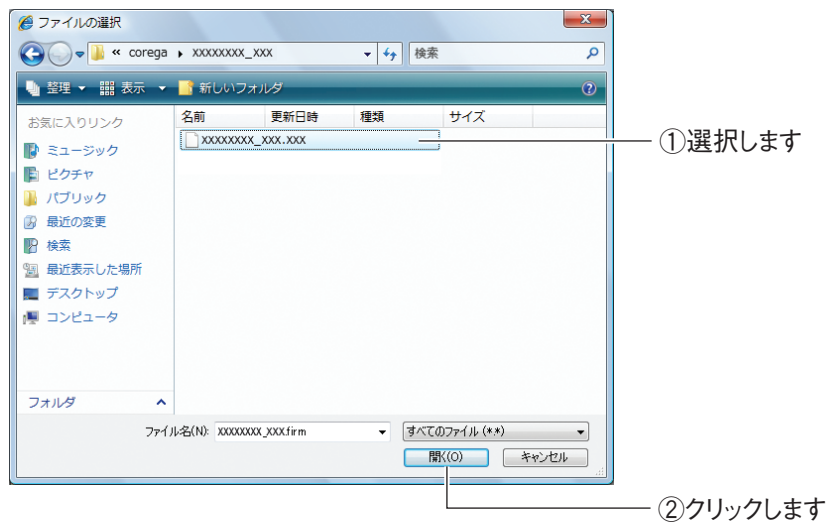
5　ダウンロードしたファームウェアファイルを選択します。

ここでは、P.92「3.2.2　ファームウェアをダウンロードする」の手順に従って、圧縮ファイルを解凍した場合を例に説明しています。解凍先のフォルダを変更した場合は、変更後のフォルダを指定してください。

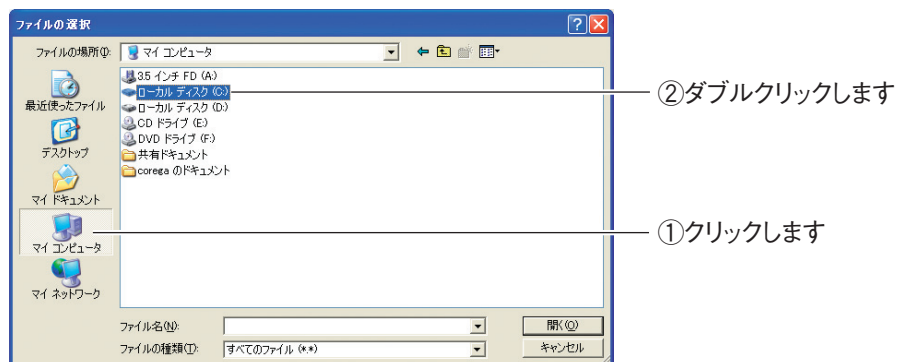
P.99 「・Windows Vista の場合」

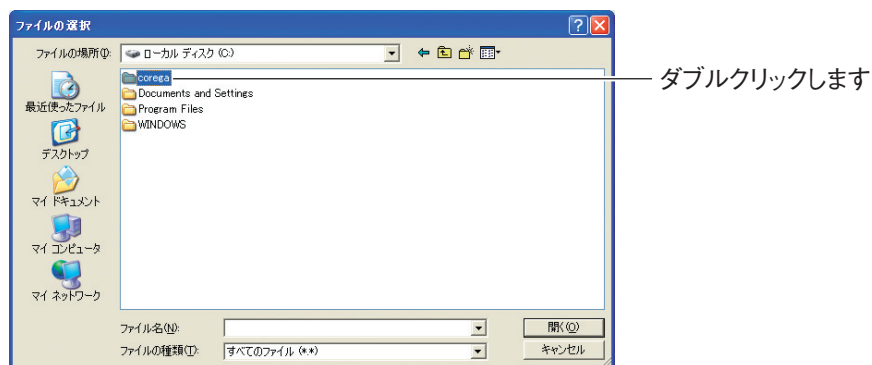
P.100 「・Windows XP ／ 2000 の場合」

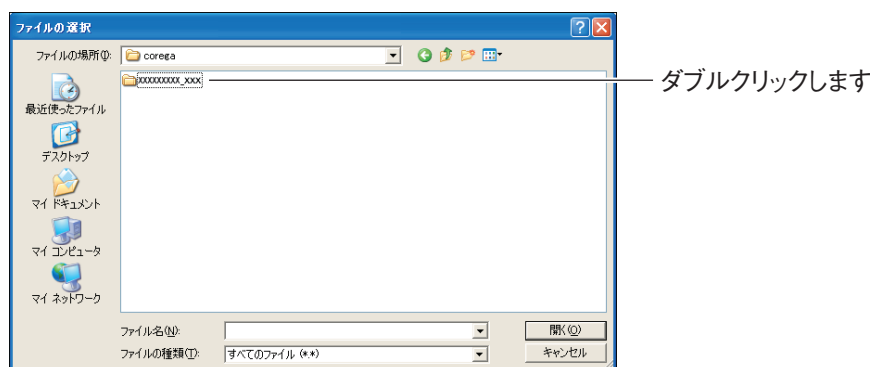
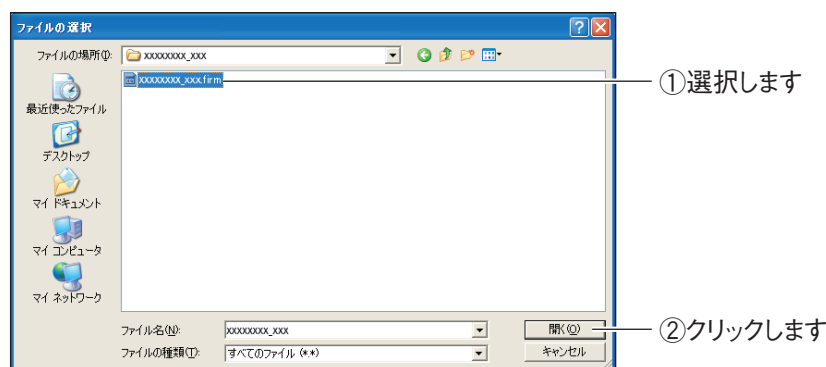
・Windows Vista の場合

①「コンピュータ」をクリックし、「C ドライブ」をダブルクリックします。

②「corega」フォルダをダブルクリックします。

③ファームウェアのフォルダをダブルクリックします。

④ファームウェアファイルを選択し、［開く］をクリックします。

引き続き、P.101 手順 6 に進みます。

・Windows XP ／ 2000 の場合

①「マイコンピュータ」をクリックし、C ドライブをダブルクリックします。

※画面は例です。お使いのパソコンによって異なります。

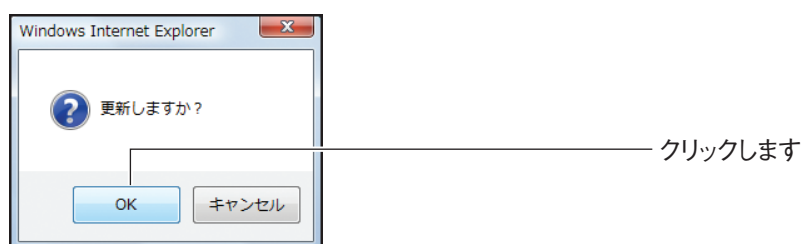
②「corega」フォルダをダブルクリックします。

※画面は例です。お使いのパソコンによって異なります。

③ファームウェアのフォルダをダブルクリックします。

④ファームウェアファイルを選択し、［開く］をクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

引き続き、P.101 手順 6 に進みます。

6　［更新］をクリックします。

※お使いの商品およびファームウェアのバージョンによって、ファイル名が異なります。

7　［OK］をクリックします。

8 次の画面が表示されますので、アップデートが完了するまでしばらくお待ちください。

画面が表示されている間は、絶対に本商品の電源を切らないでください。また、設定画面のほかの操作をしたり、アプリケーションを起動したりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗すると、本商品の故障の原因になります。

ファームウェアを更新しています。

更新中は電源を切らないでください。

更新完了まであと 180 秒お待ちください。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なります。

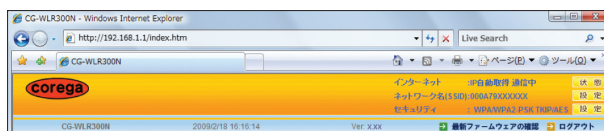
9 アップデートが完了したら、本商品の初期化ボタンを 15 秒以上押して、工場出荷時の状態に戻します。

☞ P.113 「3.5.1 初期化ボタンで工場出荷時の状態に戻す」

ファームウェアのアップデート後は、必ず本商品の初期化ボタンを使用して、本商品を工場出荷時の状態に戻してください。設定画面で工場出荷時の状態に戻さないでください。

10 ファームウェアが更新されたことを確認するため、設定画面を表示します。

☞ P.10 「1.1 設定画面を表示する」

11 ファームウェアのバージョンを確認します。

確認します

※アップデートしたファームウェアのバージョンによって表記が異なります。

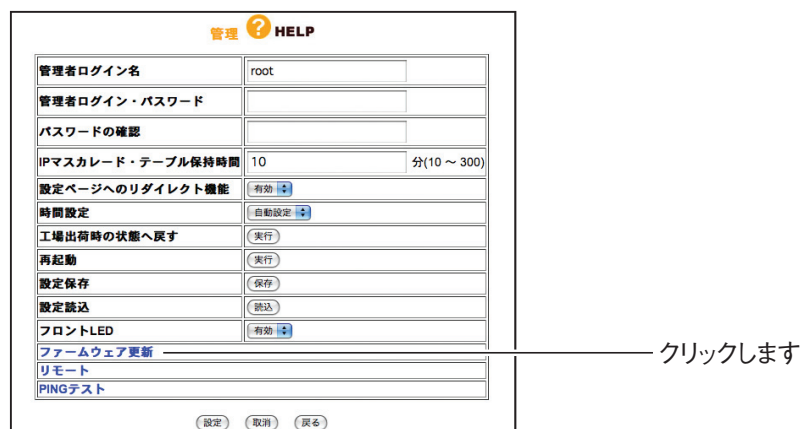
以上で、ファームウェアのアップデートは完了です。

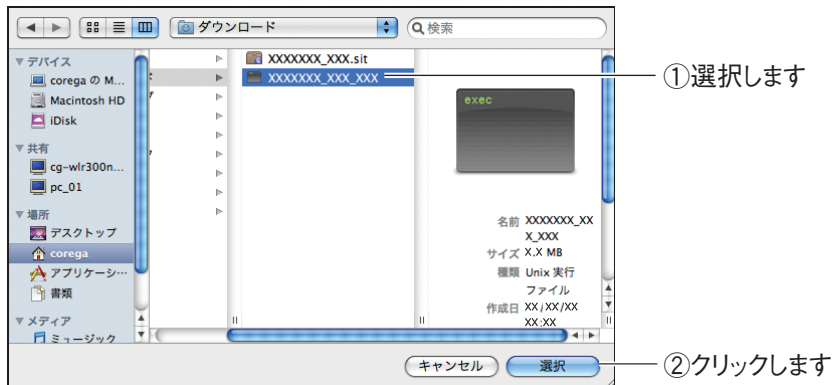
■ Macintosh の場合

1 設定画面を表示します。

☞ P.10 「1.1　設定画面を表示する」

2 「管理」をクリックします。

3 「ファームウェア更新」をクリックします。

4 [参照] をクリックします。

5　ダウンロードしたファームウェアファイルを選択し、[選択] をクリックします。

※お使いの商品によって、ファイルの拡張子が異なります。

ここでは、P.92「3.2.2　ファームウェアをダウンロードする」の手順に従って、圧縮ファイルを解凍した場合を例に説明しています。解凍先のフォルダを変更した場合は、変更後のフォルダを指定してください。

6　[更新] をクリックします。

7　[OK] をクリックします。

8 次の画面が表示されます。アップデートが完了するまでしばらくお待ちください。

画面が表示されている間は、絶対に本商品の電源を切らないでください。また、設定画面のほかの操作をしたり、アプリケーションを起動したりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗すると、本商品の故障の原因になります。

ファームウェアを更新しています。
更新中は電源を切らないでください。
更新完了まであと 110 　秒お待ちください。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なります。

9 アップデートが完了したら、本商品の初期化ボタンを 15 秒以上押して、工場出荷時の状態に戻します。

☞P.113「3.5.1　初期化ボタンで工場出荷時の状態に戻す」

ファームウェアのアップデート後は、必ず本商品の初期化ボタンを使用して、本商品を工場出荷時の状態に戻してください。設定画面で工場出荷時の状態に戻さないでください。

10 ファームウェアが更新されたことを確認するため、設定画面を表示します。

☞P.10「1.1　設定画面を表示する」

11 ファームウェアのバージョンを確認します。

確認します

※画面は例です。アップデートしたファームウェアのバージョンによって、表記が異なります。

以上で、ファームウェアのアップデートは完了です。

3.3 設定をバックアップする／元に戻す

現在の設定内容をバックアップすると、何らかの原因で設定内容が壊れた場合などに、保存してあるバックアップファイルを使用して設定を元に戻せます。

バックアップしたファイルは、同じバージョンのファームウェアでのみ使用できます。

3.3.1 設定をバックアップする

1 設定画面を表示します。

P.10「1.1 設定画面を表示する」

2 「管理」をクリックします。

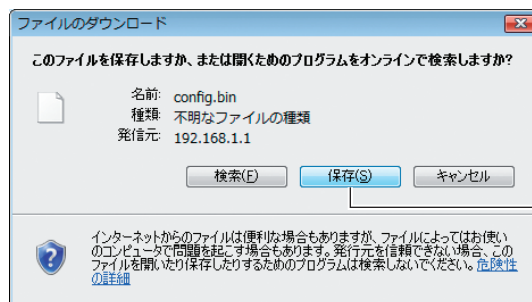
3 「設定保存」の［保存］をクリックします。

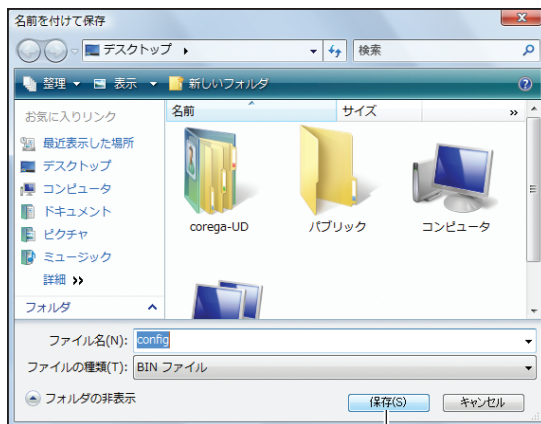
メモ

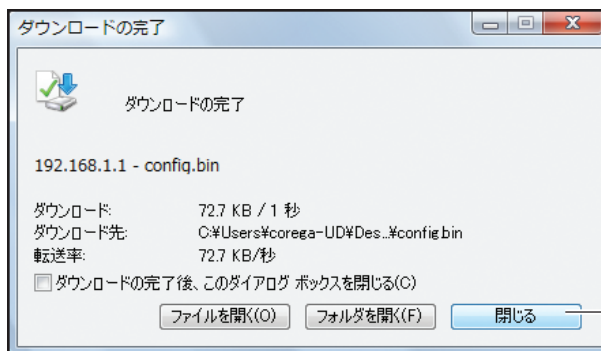
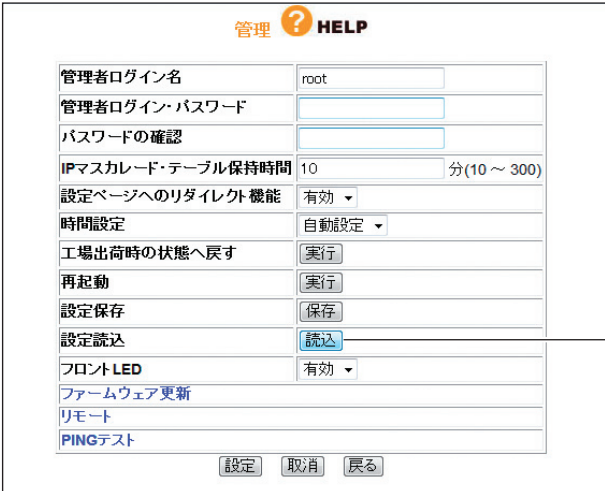
お使いの環境によっては次の画面が表示されます。

①［閉じる］をクリックします。

②画面の上に表示されたバーを右クリックして、「ファイルのダウンロード」をクリックします。

③画面が切り替わったら、P.106 手順 2 からやり直してください。

4　［保存］をクリックします。

5 ［保存］をクリックします。

クリックします

※画面は、Windows Vista でデスクトップに保存する例です。

6 ［閉じる］をクリックします。

以上で、本商品の設定内容がバックアップされました。

3.3.2 設定を元に戻す

1 設定画面を表示します。

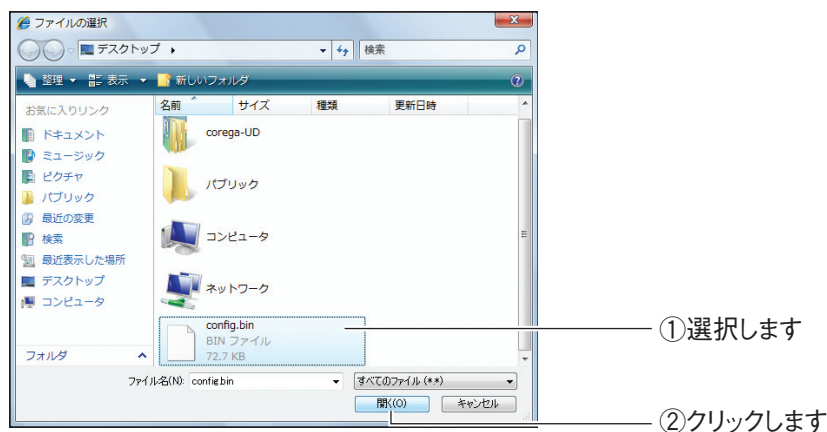
☞P.10「1.1　設定画面を表示する」

2 「管理」をクリックします。

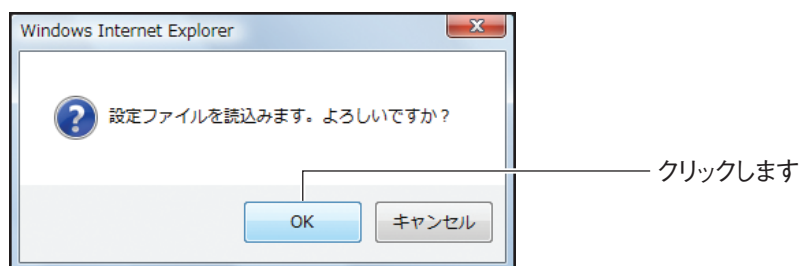
3 「設定読込」の［読込］をクリックします。

4 ［参照］をクリックします。

5 バックアップファイルを選択します。

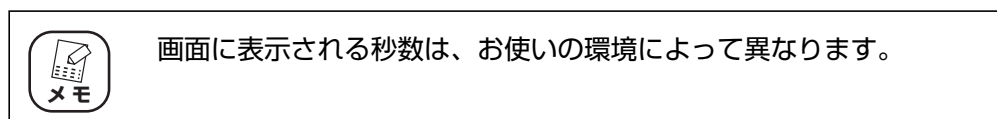
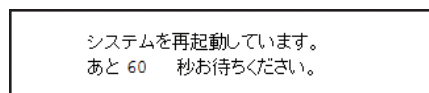
P.106 「3.3.1 設定をバックアップする」で保存したファイルを選択し、[開く]をクリックします。

※画面は例です。

6 [読込]をクリックします。

7 [OK]をクリックします。

8 設定が完了するまで待ちます。

次の画面が表示されます。設定が完了するとログイン画面が表示されます。

システムを再起動しています。
あと 60　秒お待ちください。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なります。

以上で、本商品の設定が元に戻りました。

3.4　再起動する

本商品の設定を変更した場合には、本商品を再起動して設定内容を反映させてください。本商品を再起動するには、次の 2 つの方法があります。

3.4.1　電源を入れ直して再起動する

AC アダプタの電源プラグを電源コンセントから抜き、1 分以上経過してから再び差し込みます。

本商品が起動するまで 30 秒ほどかかります。起動が完了するまでしばらくお待ちください。

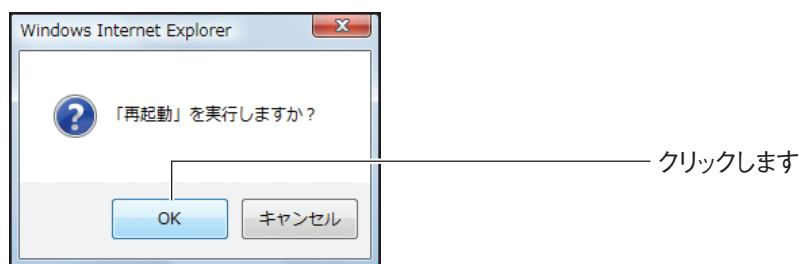
3.4.2　設定画面で再起動する

1　設定画面を表示します。

P.10「1.1　設定画面を表示する」

2　「管理」をクリックします。

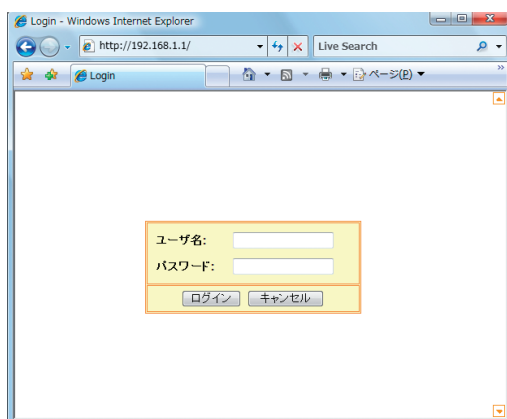
3　「再起動」の［実行］をクリックします。

4　［OK］をクリックします。

5 再起動が完了するまで待ちます。

次の画面が表示されます。

システムを再起動しています。
あと 60 秒お待ちください。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なります。

6 ログイン画面が表示されます。

以上で、本商品が再起動しました。

3.5 工場出荷時の状態（初期値）に戻す

本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の 2 つの方法があります。

工場出荷時の状態に戻すと、設定した内容がすべて初期値に戻ります。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに控えておいてください。

3.5.1 初期化ボタンで工場出荷時の状態に戻す

1 すべての LAN ケーブルを抜きます。

2 AC アダプタを電源コンセントから抜き、1 分以上経過してから再び差し込みます。

・ AC アダプタを電源コンセントに差し込み、電源 LED が点灯し、ステータス LED が点灯→消灯に変わると、本商品が正常に起動しています。
・ 本商品が起動するまで 30 秒ほどかかります。起動が完了するまでしばらくお待ちください。

3 初期化ボタンを 15 秒以上押してから離します。

押し始めてから 5 秒ほどでステータス LED がゆっくり点滅して、さらに 5 秒ほどでステータス LED が速く点滅します。速く点滅していることを確認してから、初期化ボタンを離します。

初期化ボタンは、クリップなどの硬くて先の細いもので押してください。

4 本商品が起動します。

電源 LED が点灯し、ステータス LED が点灯→消灯に変わり、無線 LAN LED が点灯して、本商品が起動したことを確認します。

・ 本商品が起動するまで 30 秒ほどかかります。起動が完了するまでしばらくお待ちください。
・ 初期化後に設定画面を表示する場合は、P.10「1.1　設定画面を表示する」をご覧ください。

以上で、本商品が工場出荷時の状態に戻りました。

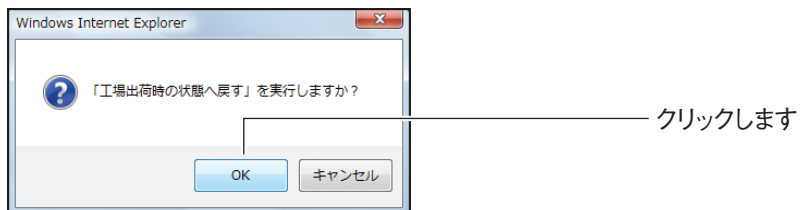
3.5.2 設定画面で工場出荷時の状態に戻す

1 設定画面を表示します。

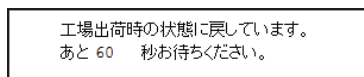
P.10「1.1 設定画面を表示する」

2 「管理」をクリックします。

3 「工場出荷時の状態へ戻す」の［実行］をクリックします。

4 ［OK］をクリックします。

5 工場出荷時の状態に戻るまで 1 分ほど待ちます。

次の画面が表示されます。

工場出荷時の状態に戻しています。
あと 60 秒お待ちください。

初期化後に設定画面を表示する場合は、P.10「1.1 設定画面を表示する」をご覧ください。

以上で、本商品が工場出荷時の状態に戻りました。

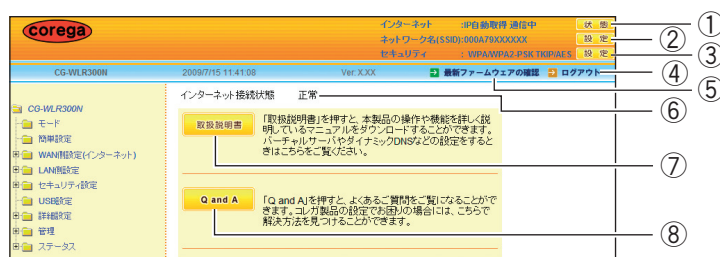
第 4 章
設定画面について

この章では、本商品の設定画面について説明します。本商品を使っていて「機能を使いこなしたい」、「設定画面の詳しい情報を知りたい」と思ったときは、この章で項目を探してください。

4

4.1　CG-WLR300N（トップページ）

・この章では例を使用して説明しています。実際にはお使いの環境に合った値を入力してください。
・各画面の「HELP」をクリックすると、設定項目の説明が表示されます。
・各画面の例は、DHCP（IP 自動取得）接続の画面です。PPPoE 接続やIP 固定接続では、画面が例と異なる場合があります。

インターネットに接続しているときの状態です。本商品を設定していないときは、P.118「4.3　簡単設定」が表示されます。

①インターネット［状態］

クリックすると、P.174「4.10　ステータス」を表示します。

②ネットワーク名（SSID）［設定］

クリックすると、P.139「■ 802.11n/g/b 設定」画面を表示します。

③セキュリティ［設定］

クリックすると、P.143「■ 802.11n/g/b セキュリティ設定」画面を表示します。

④ログアウト

クリックすると、設定画面からログアウトします。再度設定画面を操作する場合は、ログアウト後の画面で［再ログイン］をクリックします。

⑤最新ファームウェアの確認

インターネット接続時にクリックすると、本商品の最新ファームウェアの有無を確認します。

⑥インターネット接続状態

インターネットの接続状態を表示します。

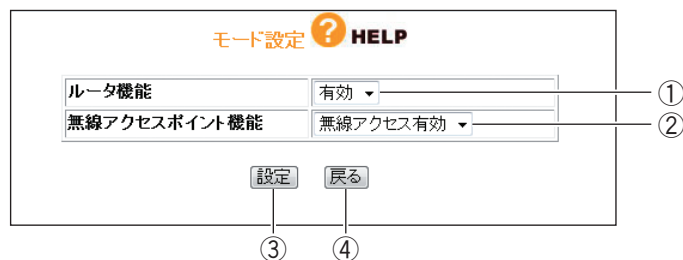
⑦［取扱説明書］

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページを表示して「詳細設定ガイド」（本書）など各取扱説明書の最新版をダウンロードできます。

⑧［Q and A］

インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページの「よくあるお問い合わせ」を表示します。

4.2　モード

ルータ機能および無線アクセスポイント機能の有効／無効を切り替えます。

①ルータ機能

ルータ機能を有効または無効に切り替えます。

・有効

ルータ機能を使用します（初期値）。

・無効

ルータ機能を使用しません。

ルータ機能を無効に設定した場合、LAN 側 IP アドレスは自動的に 192.168.1.220 に変更されます。

②無線アクセスポイント機能

無線アクセスポイント機能を有効または無効に切り替えます。

・無線アクセス有効

無線アクセスポイント機能を使用します（初期値）。

・無線アクセス無効

無線アクセスポイント機能を使用しません。

③［設定］

設定した内容を保存します。

④［戻る］

P.116「4.1　CG-WLR300N（トップページ）」に戻ります。

4.3 簡単設定

簡単にインターネット接続を設定できます。詳しくは、付属の「らくらく導入ガイド」をご覧ください。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

簡単設定

簡単設定によってインターネット接続への設定ができます。
インターネット接続に必要な資料を用意してください。

本製品とモデムが接続されているのを確認し、「次へ >」ボタンをクリックしてください。

次へ　キャンセル

4.4　WAN 側設定（インターネット）

WAN 側の通信方法を設定します。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

①リンク速度

WAN 側ポートのリンク方法を設定します。通常は自動のままでお使いください。

・自動、100M Full、100M Half、10M Full、10M Half

WAN 側ポートのリンク方法を自動、100Mbps の Full Duplex、100Mbps の Half Duplex、10Mbps の Full Duplex、10Mbps の Half Duplex から選択します（初期値：自動）。

② MDI 切替

MDI の切り替え方法を設定します。通常は「自動」のままで使用してください。

・自動

MDI または MDI-X を自動で設定します（初期値）。

・MDI

MDI 固定に設定します。

③接続方法

WAN 側の接続方法を設定します。お使いの回線に合わせて設定します。

・PPPoE

フレッツ・ADSL、B フレッツなどで接続する場合に選択します。詳しくは、**P.120**「4.4.1　PPPoE」をご覧ください。

PPPoE の設定方法は、付属の「らくらく導入ガイド」をご覧ください。

マルチ PPPoE の設定方法は、**P.44**「2.4　マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分ける」をご覧ください。

Unnumbered IP の設定方法は、**P.47**「2.5　複数固定 IP サービスを利用する」をご覧ください。

・IP 自動取得（DHCP）／IP 固定

Yahoo! BB、CATV など、IP アドレスを自動取得する場合や、IP アドレスを固定で割り当てられる場合に選択します。詳しくは、**P.127**「4.4.2　IP 自動取得（DHCP）／IP 固定」をご覧ください。

IP 自動取得（DHCP）の設定方法は、付属の「らくらく導入ガイド」をご覧ください。

4.4.1 PPPoE

PPPoE アカウント設定とセッション設定を管理します。

①アカウント名

アカウント名を表示します。アカウント名は **P.127** 「■アカウント名変更」で変更できます。

②［セッション -1 設定］

セッション -1 の設定をします。表示される画面の状態および設定項目については、**P.121** 「■セッション -1 設定」をご覧ください。

③［セッション -2 設定］

セッション -2 の設定をします。表示される画面の状態および設定項目については、**P.124** 「■セッション -2 設定」をご覧ください。

④アカウント選択

PPPoE アカウントとセッション -1、セッション -2 の組み合わせを設定します。

⑤接続先設定（セッション 2 のみ有効）

マルチ PPPoE を使用する場合にセッション -2 で通信する接続先を設定します。詳しくは、**P.125** 「■接続先設定」をご覧ください。

⑥［設定］

設定した内容を保存します。

⑦［戻る］

P.116 「4.1　CG-WLR300N（トップページ）」に戻ります。

■セッション -1 設定

セッション -1 で通信するアカウントを設定します。設定前にプロバイダから指定された「接続ユーザー ID」、「接続パスワード」などを確認してください。

①セッション選択

設定したいセッションを選択します。P.120 「4.4.1　PPPoE」で［セッション-1 設定］をクリックした場合はセッション -1 が選択されています。

②［接続］

無通信時にクリックすると接続します。

③［切断］

通信中にクリックすると切断します。

④接続状態

現在のセッションの接続状態を表示します。

⑤セッション ID

セッション ID を表示します。

⑥アカウント選択

使用するアカウントを選択・登録できます（「セッション -1」で使用したアカウントは、「セッション -2」では使用できません）。アカウントを選択し、⑨～⑯にプロパイダから指定された設定項目を設定します。

⑦［アカウント名変更］

P.120「4.4.1　PPPoE」のアカウント選択で表示される名称を変更できます。表示画面および設定項目については、P.127 「■アカウント名変更」をご覧ください。

⑧ MAC アドレス

本商品の WAN（インターネット）側の MAC アドレスを表示します。

⑨接続ユーザー ID

プロバイダから指定されたアカウントの接続ユーザー ID を入力します。

⑩接続パスワード／接続パスワードの確認

プロバイダから指定されたアカウントの接続パスワードを入力し、確認のため同じパスワードを「接続パスワードの確認」に入力します。

⑪接続方法

接続開始の方法を設定します。

- **常時接続**

  常時インターネットに接続します。何らかの原因で通信が切断された場合も自動的に再接続します（初期値）。

- **トリガ接続**

  インターネットへの通信が発生したときに自動的に接続します。何らかの原因で通信が切断された場合は、次にインターネットへの通信が発生したときに接続します。

- **手動接続**

  ②［接続］をクリックしないかぎり、インターネットに接続しません。

⑫無通信時間監視

インターネットへ通信をしなくなってから自動切断までの時間（分）を設定します（⑪「接続方法」で「トリガ接続」または「手動接続」を選択した場合のみ）。0 ～ 60 分の範囲で設定できます。

⑬ MTU 値

MTU の値を設定します。右側の「自動調整」にチェックを付けると MTU 値が自動的に調整されます。「自動調整」のチェックを外すと 576 ～ 1492 バイトの範囲で設定できます。

⑭ PPPoE サービス・タイプ

使用する PPPoE のサービスタイプを選択します。

- PPPoE

  通常の PPPoE 接続、またはセッション -2 を使用したマルチ PPPoE を利用する場合に設定します。⑮「ルータ IP ／サブネットマスク」は設定しません。

- Unnumbered IP

  複数のグローバル IP ※1 を割り当てるサービスを利用する場合に設定します。
  ⑮「ルータ IP ／サブネットマスク」に設定するグローバル IP は、本商品の IP アドレスとして WAN 側／ LAN 側 IP アドレスに設定されます。本商品に接続するパソコンにもグローバル IP を固定で設定します。

  ※ 1 インターネットで使用される IP アドレスのことです。グローバル IP アドレスとも呼びます。

☞ P.47 「2.5 複数固定 IP サービスを利用する」

・Unnumbered IP ＋ Private IP

複数のグローバル IP を割り当てるサービスとプライベート IP※2 を同時に利用する場合に設定します。

複数のグローバル IP を割り当てるサービスを利用しつつ、IP マスカレード機能※3 を利用してプライベート IP のパソコンをインターネットに接続できます。プライベート IP をパソコンで使用する場合は、IP 自動取得に設定します。

※ 2 イントラネットや LAN 組織内で自由に発行できる IP アドレスのことです。プライベートIP アドレスとも呼びます。

※ 3 1 つのグローバル IP を複数のパソコンで共有する機能（ルータ機能）です。プライベートIP とグローバル IP を相互に変換することで実現できます。

☞ P.47 「2.5　複数固定 IP サービスを利用する」

⑮ルータ IP ／サブネットマスク

複数固定 IP サービスでプロバイダから割り当てられたグローバル IP ／サブネットマスクを入力します（⑭「PPPoE　サービス・タイプ」で「Unnumbered　IP」および「Unnumbered IP ＋ Private IP」を選択した場合のみ）。

⑯ DNS サーバ

DNS サーバの設定方法を選択します。

・自動設定

プロバイダから DNS サーバが自動的に割り当てられる場合に選択します（初期値）。

IP アドレスは自動的に設定されます。

・マニュアル設定

プロバイダから DNS サーバが指定されている場合に選択し、IP アドレスを入力します。DNS サーバが複数指定されているときは、「DNS サーバ 1」および「DNS サーバ 2」に入力します。

⑰ ［設定］

設定した内容を保存します。

⑱ ［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑲ ［戻る］

P.120 「4.4.1　PPPoE」に戻ります。

■セッション -2 設定

セッション -2 で通信するアカウントを設定します。

①セッション選択

設定したいセッションを選択します。**P.120**「4.4.1 PPPoE」で［セッション -2 設定］をクリックした場合は、セッション -2 が選択されています。

※そのほかの項目はセッション -1 と同じ設定内容です。

■接続先設定

セッション 2 経由で通信するルールを設定します。P.120 「4.4.1　PPPoE」で⑤「接続先設定（セッション 2 のみ有効）」をクリックすると表示されます。
セッション 2 でフレッツ・スクウェアに接続する場合は、P.44 「2.4　マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分ける」をご覧ください。

①設定リスト

③～⑨で設定した内容を表示します。

②［戻る］

P.120 「4.4.1　PPPoE」に戻ります。

③接続アカウント

ルールを適用するアカウントを選択します。

④ルール選択

ルールを選択します。

・ドメイン名

接続先をドメインで指定する場合に選択します（初期値）。

⑤「ドメイン名」に入力します。

・IP アドレス

接続先を IP アドレスで指定する場合に選択します。

⑥「IP アドレス」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ポート番号

接続先をポート番号で指定する場合に選択します。

⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・**ネットワーク**

接続先をネットワークで指定する場合に選択します。

⑦「ネットワーク」に範囲を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・**IP アドレス＋ポート番号**

接続先を IP アドレスとポート番号で使用する場合に選択します。

⑥「IP アドレス」と⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・**ネットワーク＋ポート番号**

接続先をネットワークとポート番号で指定する場合に選択します。

⑦「ネットワーク」と⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

⑤ドメイン名

④「ルール選択」で「ドメイン名」を選択した場合に入力します。

⑥ IP アドレス

④「ルール選択」で「IP アドレス」および「IP アドレス＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑦ネットワーク

④「ルール選択」で「ネットワーク」および「ネットワーク＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑧開始ポート／終了ポート

④「ルール選択」で「ポート番号」、「IP アドレス＋ポート番号」、「ネットワーク＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

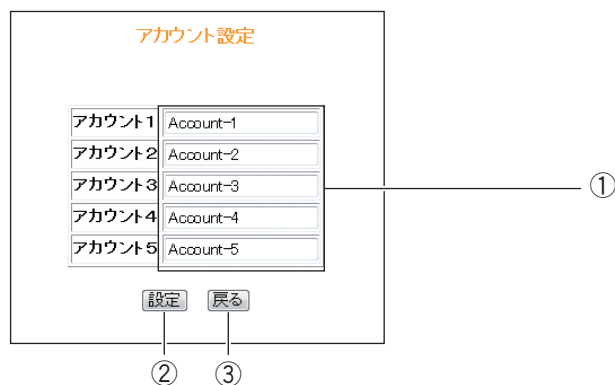
⑨プロトコル

④「ルール選択」で「ドメイン名」以外を選択した場合に、対象のプロトコルを「ALL（TCP/UDP/ICMP）」、「TCP」、「UDP」から選択します。

⑩［登録］

入力した内容を登録します。

■アカウント名変更

設定するアカウントに名称を付けられます。

①アカウント名

アカウント名を入力します。

② [設定]

設定した内容を保存します。

③ [戻る]

P.121 「■セッション -1 設定」に戻ります。

4.4.2 IP 自動取得（DHCP）／ IP 固定

IP アドレスの自動割り当て、または固定 IP を割り当てているプロバイダでのみ使用できます。

① MAC アドレス

本商品の WAN 側の MAC アドレスを表示します。

②タイプ

IP アドレスの取得方法を選択します。

・IP 自動取得（DHCP）

プロバイダから IP アドレスを指定されていない場合に選択すると、プロバイダから自動的に IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS アドレスなどのインターネットに必要な情報を取得します。

・IP 固定

プロバイダから IP アドレスを指定された場合に選択します。「WAN 側 IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルト・ゲートウェイ」を手動で設定します（「IP 固定」を選択した場合のみ表示されます）。

③ドメイン名

プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（②「タイプ」で「IP 自動取得（DHCP）」を選択した場合のみ設定できます）。

④コンピュータ名

プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（②「タイプ」で「IP 自動取得（DHCP）」を選択した場合のみ設定できます）。

⑤ MTU 値

MTU 値を設定します（初期値：1500 バイト）。576 〜 1500 バイトの範囲で設定できます。

⑥ DNS サーバ

DNS サーバの設定方法を選択します。

・自動設定

プロバイダから DNS サーバが自動的に割り当てられる場合に選択します（②「タイプ」で「IP 自動取得（DHCP）」を選択した場合のみ設定できます）。IP アドレスは自動的に設定されます。

・マニュアル設定

プロバイダから DNS サーバの IP アドレスが指定された場合に選択し、IP アドレスを入力します。DNS サーバが複数指定されているときは、「DNS サーバ 1」および「DNS サーバ 2」に入力します。

⑦［設定］

設定した内容を保存します。

⑧［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑨［戻る］

P.116 「4.1　CG-WLR300N（トップページ）」に戻ります。

4.4.3 ダイナミック DNS（DDNS）

ダイナミック DNS を設定できます。
詳しくは、**P.55** 「2.6　ダイナミック DNS を使用して URL で接続する」をご覧ください。

①ダイナミック DNS

利用する DNS サービスを選択します。

②ログイン名

ダイナミック DNS サービスに登録したログイン名を入力します。

③ログインパスワード

ダイナミック DNS サービスに登録したパスワードを入力します。

④ドメイン名

ダイナミック DNS サービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。

⑤ IP チェック時間

指定時間で取得したドメイン名と IP アドレスの整合性を、指定した時間で確認します。

⑥ ［設定］

設定した内容を保存します。

⑦ ［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑧ ［戻る］

P.119 「4.4　WAN 側設定（インターネット）」に戻ります。

⑨ ［更新］

ダイナミック DNS の状態を更新します。

4

4.4.4 パススルー

各パケットをルーティングせずに透過する場合に設定します。

①ダイレクト PPPoE

PPPoE パススルーの有効／無効を選択します。

- **有効**

  ダイレクト PPPoE を有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接 PPPoE 接続する場合に有効にします。

- **無効**

  ダイレクト PPPoE を無効にします（初期値）。

  P.60「2.9　ルータ機能を使わないで直接 PPPoE 接続する」

② VPN パススルー

VPN パススルーの有効／無効を選択します。

- **有効**

  VPN パススルーを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接 VPN 接続する場合に有効にします（初期値）。

- **無効**

  VPN パススルーを無効にします。

③ IPv6 ブリッジ

IPv6 ブリッジの有効／無効を選択します。

- **有効**

  IPv6 ブリッジを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接 IPv6 接続する場合に有効にします（初期値）。

- **無効**

  IPv6 ブリッジを無効にします。

  P.59「2.8　本商品に接続して IPv6 サービスに接続する」

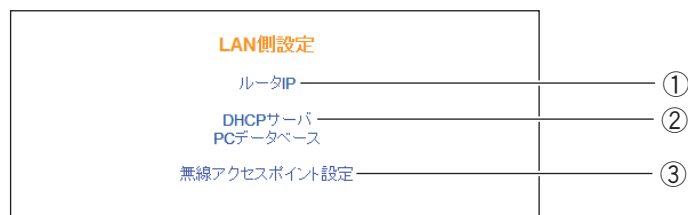
④ ［設定］

設定した内容を保存します。

⑤ ［戻る］

P.119「4.4　WAN 側設定（インターネット）」に戻ります。

4.5　LAN 側設定

LAN 側の詳細な設定をします。

①ルータ IP

本商品の LAN 側の IP アドレスなどを設定します。

P.132「4.5.1　ルータ IP」

② DHCP サーバ／ PC データベース

本商品の DHCP サーバや PC データベースを設定します。

P.133「■ DHCP サーバ」

P.134「■ PC データベース」

③無線アクセスポイント設定

本商品の無線アクセスポイント機能を設定します。

P.137「4.5.3　無線アクセスポイント設定」

4.5.1 ルータ IP

本商品の LAN 側の IP アドレスを設定します。

① MAC アドレス

本商品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。

② LAN 側 IP アドレス

本商品の LAN 側の IP アドレスを入力します（初期値：192.168.1.1）。
IP アドレスの値は 0 ～ 254 の数字で入力します。

③サブネットマスク

本商品の LAN 側のサブネットマスクを入力します（初期値：255.255.255.0）。
サブネットマスクの値は 0 ～ 255 の数字で入力します。

④ URL ホーム

設定した URL を Web ブラウザのアドレス欄に入力すると、本商品の設定画面を表示します（初期値：corega.home）。アドレスには「.」（ドット）を組み込んで 1 ～ 64 文字で設定します。ただし、「.」（ドット）はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。また、「.」（ドット）のあとに数字は使用できません。

⑤［設定］

設定した内容を保存します。

⑥［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑦［戻る］

P.131 「4.5　LAN 側設定」に戻ります。

4.5.2 DHCP サーバ／ PC データベース

■ DHCP サーバ

DHCP サーバを設定します。

① DHCP サーバ

DHCP サーバの有効／無効を選択します。

・有効

DHCP サーバ機能を使用します（初期値）。

・無効

DHCP サーバ機能を使用しません。

②リース期限継続方法

DHCP サーバが割り当てる IP アドレスのリース期限継続方法を選択します。

・期限指定

DHCP サーバが割り当てる IP アドレスを定期的に更新します（初期値）。

期限は③「リース期限」で設定します。

・無期限

DHCP サーバが割り当てる IP アドレスに期限を設定しません。

③リース期限

DHCP サーバが割り当てる IP アドレスのリース期限を分単位で指定します（初期値：2 日）。

※②「リース期限継続方法」で「期限指定」を選択している場合に設定できます。

④ DHCP 開始アドレス／ DHCP 終了アドレス

DHCP サーバが割り当てる IP アドレスの範囲を入力します（初期値：192.168.1.21 ～ 192.168.1.50）。

IP アドレスの設定範囲は、192.168.1.1 ～ 192.168.1.254 です。

⑤［設定］

設定した内容を保存します。

⑥［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑦［戻る］

P.131「4.5 LAN 側設定」に戻ります。

■ PC データベース

本商品に接続するパソコンを登録できます。IP アドレスを自動的に取得するパソコンは自動的に登録されます。PC データベースのリストに表示されていない場合や、IP アドレスを固定設定しているパソコンの場合は、手動で PC データベースに登録します。

① PC 登録リスト

本商品に登録しているパソコンのリストが表示されます。

・編集

登録されたパソコンの設定を変更できます。

・削除

登録されたパソコンを削除します。

②［追加］

P.135「■ PC データベース（詳細設定）」を表示し、パソコンを手動で PC データベースに登録できます。

③［再読み込み］

現在の情報を更新します。

■ PC データベース（詳細設定）

手動で PC データベースに登録できます。

①パソコン名

パソコンの「ホスト名」を入力します。

② IP アドレス

IP アドレスの取得方法を選択します。

・自動取得（DHCP クライアント）

パソコンが DHCP クライアント（Windows では「IP アドレスを自動的に取得」）に設定されている場合に、本商品は、**P.133**「4.5.2　DHCP サーバ／ PC データベース」で設定した内容でパソコンに IP アドレスを割り当てます（初期値）。IP アドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合や、長時間ネットワークから切断していたあとで再接続した場合に変わることがあります。

・固定取得（DHCP クライアント）

パソコンが DHCP クライアント（Windows では「IP アドレスを自動的に取得」）に設定されている場合に、本商品は、**P.133**「4.5.2　DHCP サーバ／ PC データベース」で設定した内容でパソコンに IP アドレスを割り当てます。パソコンに毎回決まった IP アドレスを割り当てたい場合に選択します。最後の空欄に、本商品の DHCP サーバ機能で設定した範囲内で任意の数字を入力します。

・固定設定（DHCP 範囲以外）

パソコンが固定 IP アドレスを使用している場合に選択します。パソコンに設定している IP アドレスを入力します。

・接続タイプ

本商品とパソコンの接続方法を選択します。有線 LAN で接続しているパソコンは「LAN」を、無線 LAN で接続しているパソコンは「WLAN」を選択します。

③ MAC アドレス

MAC アドレスの登録方法を選択します。

・自動検索（パソコンが接続されている状態）

①「パソコン名」と②「IP アドレス」の設定から登録したいパソコンの MAC アドレスを自動取得します（初期値)。本商品にパソコンを接続している状態で自動検索できます。自動検索が完了すると、MAC アドレス欄に検索された MAC アドレスが表示されます。

・MAC アドレス

登録したいパソコンの MAC アドレスがわかる場合に直接入力します。本商品にパソコンを接続していない状態でも登録できます。MAC アドレスは「ハードウェアアドレス」、「物理アドレス」または「ネットワークアダプタアドレス」と呼ばれることもあります。本商品はパソコンを識別するために MAC アドレスを使用します。入力欄を空白にしたままでは登録できません。

④［PC データ追加］

本商品のリストに新しいパソコンを追加します。

⑤［データの削除］

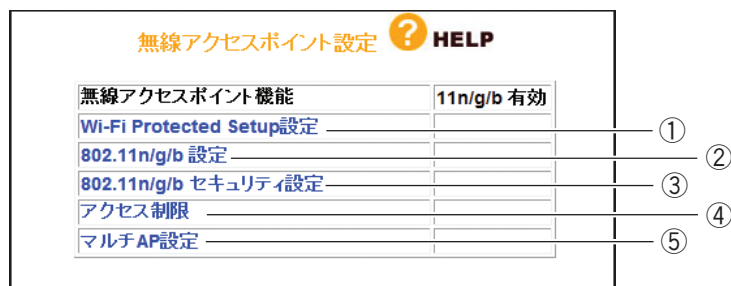
画面上で入力した値を削除します。

⑥［戻る］

P.133「4.5.2 DHCP サーバ／ PC データベース」に戻ります。

4.5.3 無線アクセスポイント設定

無線 LAN のネットワーク名（SSID）や、セキュリティなどの詳細な内容を設定します。

本商品の無線アクセスポイント機能が無効の場合は表示されません。

① **Wi-Fi Protected Setup 設定**

Wi-Fi Protected Setup を設定します。

P.138 「■ Wi-Fi Protected Setup」

② **802.11n/g/b 設定**

802.11n/g/b の無線 LAN を設定します。

P.139 「■ 802.11n/g/b 設定」

③ **802.11n/g/b セキュリティ設定**

802.11n/g/b の無線 LAN セキュリティを設定します。

P.143 「■ 802.11n/g/b セキュリティ設定」

④**アクセス制限**

無線 LAN のアクセス制限を設定します。

P.147 「■アクセス制限」

⑤**マルチ AP 設定**

マルチ AP のセカンド SSID を設定します。

P.149 「■マルチ AP 設定」

■ Wi-Fi Protected Setup

無線機器間のセキュリティを簡単に設定できる Wi-Fi Protected Setup の設定を表示します。
Wi-Fi Protected Setup は対応機種のみ使用できます。通常は設定画面で設定を変更する必要はありません。Wi-Fi Protected Setup で無線セキュリティを設定する場合は、付属の「お使いの手引き」、または Wi-Fi Protected Setup 対応機種に付属のユーティリティディスク（CD-ROM）に収録されている「無線クライアントユーティリティ　詳細設定ガイド」（PDF マニュアル）をご覧ください。

Wi-Fi Protected Setup に対応する無線 LAN アダプタについての最新情報は、コレガホームページ（http://corega.jp/）をご覧ください。

・Wi-Fi Protected Setup 有効時

・Wi-Fi Protected Setup 無効時

■ 802.11n/g/b 設定

802.11n/g/b の無線 LAN を設定します。

①ネットワーク名（SSID）

無線 LAN に接続する機器を識別するネットワークグループ名です。接続するすべてのパソコン（無線 LAN アダプタ）に同じ名前を設定します。

工場出荷時の SSID は、本体側面の「ネットワーク名（SSID/MAC）」に記載されています。

②モード

802.11 の動作モードを設定できます。

- **自動設定**

  802.11n（ドラフト）、802.11g、802.11b をお使いの環境に合わせて設定します（初期値）。
- **802.11g/b**

  802.11g、802.11b に対応したパソコンが接続できます。
- **802.11g**

  802.11g に対応したパソコンが接続できます。
- **802.11b**

  802.11b に対応したパソコンが接続できます。

③チャンネル

使用する電波の周波数（無線チャンネル）を「自動設定」、「1 ～ 13」チャンネルで選択できます。

・自動設定

空きチャンネル自動検索機能で最適なチャンネルを自動で設定します（初期値）。

・1 ～ 13

チャンネルを指定・固定したい場合に 1 ～ 13 チャンネルのいずれかを選択します。

通常は変更する必要はありません。

④ダブルチャンネル

2 つのチャンネルを束ねて使う 40MHz幅のダブルチャンネルの有効、無効を設定します。

ダブルチャンネルおよびショートガードインターバルを使うことで、ほかの通信機器の通信速度などのパフォーマンスが低下する可能性があります。

・自動設定

お使いの無線 LAN 通信環境が 40MHz 幅のダブルチャンネルに対応している場合は、自動的に 40MHz に設定されます。チャンネルは③「チャンネル」で値を設定すると、自動的にもう 1 つのチャンネルが設定されます。設定された値は、「拡張チャンネル」に表示されます。③「チャンネル」が「自動設定」の場合は拡張チャンネルも「自動」と表示されます。

・20MHz 固定

無線 LAN 通信周波数帯域を 20MHz に固定します（初期値）。

⑤ Tx バースト

Tx バーストに対応した無線機器と通信した場合、バースト転送およびデータ転送して、通信速度を向上させます。

・有効

Tx バーストを使用します（初期値）。

・無効

Tx バーストを使用しません。

⑥転送レート

転送レート（無線 LAN の通信速度）を「自動設定」、「1 ～ 54Mbps」で変更できます（初期値：自動設定）。

・通常は変更する必要はありません。
・②「モード」で選択したモードによって、設定できる値が異なります。

⑦ショートガードインターバル

ガードインターバルを短くすることで、対応機器の通信効率を向上させます。

ダブルチャンネルおよびショートガードインターバルを使うことで、ほかの通信機器の通信速度などのパフォーマンスが低下する可能性があります。

・有効

ショートガードインターバル対応の子機との通信時に、ショートガードインターバルを使用します。

・無効

ショートガードインターバルを使用しません（初期値）。

⑧ IPv6 マルチキャスト通信

IPv6 マルチキャスト通信の有効／無効を設定できます。

・有効

IPv6 マルチキャスト通信サービス（ひかり TV など）を使用する場合に選択します。

・無効

IPv6 マルチキャスト通信を使用しません（初期値）。

⑨ステルス AP

無線 LAN アダプタを持つパソコンから本商品の SSID を検索されないようにしたり、SSID を「ANY」や空白にしているパソコンからのアクセスを拒否したりできます。

・有効

ステルス AP を有効にします。

・無効

ステルス AP を無効にします（初期値）。

ステルス AP を使用すると、WPS は無効になります。すでに WPS で接続している機器に影響はありません。

⑩ WMM（wireless Qos）

映像や音声のストリーミングデータの通信帯域を確保し、ストリーミングデータの受信効率を向上させるWMM（Wi-Fi Multimedia）の有効／無効を設定できます。

・有効

WMMを使用します。

・無効

WMMを使用しません（初期値）。

⑪電波強度

本商品の電波出力の強度を「最大」、「50%」、「25%」、「12.5%」、「最小」から選択できます（初期値：最大）。

通常は変更する必要はありません。

⑫ビーコン間隔

アクセスポイントが常に発信する、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット（ビーコン）の送信間隔を「20 ～ 1000」で設定できます（初期値：100）。

⑬ RTSしきい値

無線LANのパケットを送信する前に送信するRTS（送信要求）パケットのしきい値を「256 ～ 2346」で設定できます（初期値：2346）。

通常は変更する必要はありません。

⑭パケット分割のしきい値

無線 LAN のパケットを分割するしきい値を「256 ～ 2346」で設定できます（初期値：2346）。

通常は変更する必要はありません。

⑮［設定］

設定した内容を保存します。

⑯［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑰［戻る］

P.137「4.5.3 無線アクセスポイント設定」に戻ります。

■ 802.11n/g/b セキュリティ設定

802.11n/g/b の無線 LAN セキュリティを設定します。

①認証方式

無線セキュリティの認証方式を選択します。

- **Open System**
  無線セキュリティを使用しない、または WEP を使用する場合に選択します。
- **Shared Key**
  WEP を使用する場合に選択します。
- **WPA/WPA2-EAP**
  WPA2-EAP または WPA-EAP を使用する場合に選択します。
- **WPA/WPA2-PSK**
  WPA2-PSK または WPA-PSK を使用する場合に選択します（初期値）。
- **WPA2-PSK**
  WPA2-PSK のみを使用する場合に選択します。
- **WPA2-EAP**
  WPA2-EAP のみを使用する場合に選択します。
- **WPA-PSK**
  WPA-PSK のみを使用する場合に選択します。
- **WPA-EAP**
  WPA-EAP のみを使用する場合に選択します。

Shared Key、WPA/WPA2-EAP、WPA2-EAP、WPA-EAP を使用すると、WPS は無効になります。

②暗号方式

無線セキュリティの暗号方式を設定します。①「認証方式」によって、選択できる暗号方式が変わります。

・無効

Open System を使用する場合に選択できます。

無線セキュリティを使用しません。

・WEP

Open System または Shared Key を使用する場合に選択できます。

暗号化に WEP を使用します。

・自動（AES/TKIP）

WPA/WPA2-EAP、WPA/WPA2-PSK、WPA2-PSK、WPA-EAP、WPA-PSK を使用する場合に選択できます。

暗号化に AES または TKIP を使用します（初期値）。

・AES

WPA/WPA2-EAP、WPA/WPA2-PSK、WPA2-EAP、WPA2-PSK、WPA-EAP、WPA-PSK を使用する場合に選択できます。

暗号化に AES を使用します。

・TKIP

WPA/WPA2-EAP、WPA/WPA2-PSK、WPA2-PSK、WPA-EAP、WPA-PSK を使用する場合に選択できます。

暗号化に TKIP を使用します。

※ AES ＞ TKIP ＞ WEP の順番で暗号が強固になっています。

③暗号化

②「暗号方式」で「WEP」を選択した場合に、暗号強度を 64Bit、128Bit の 16 進数または ASCII 文字列から選択します。

④ WEP キー

②「暗号方式」で「WEP」を選択し、③「暗号化」を選択したあと、任意の WEP キー（暗号キー）を入力します。「キー 1 〜 4」に暗号キーを入力しておき、選択した 1 つの暗号キーを使用できます。

⑤ WPA 共有キー

①「認証方式」で「WPA/WPA2-PSK」、「WPA2-PSK」、「WPA-PSK」のいずれかを選択した場合に、初回アクセス時に使用する任意のキーを「ASCII 文字（8 〜 63 文字）」（初期値）または「16 進数（64 文字）」で入力します。

⑥ DTIM

DTIM（配信トラフィック・インディケータ・メッセージ）の通信間隔の値を「1 〜 10」で設定します（初期値：1）。

⑦プリアンブル・モード

プリアンブルモードを「自動」、「短いプリアンブル」、「長いプリアンブル」で設定できます（初期値：自動）。

通常は変更する必要はありません。

⑧更新間隔

WPA 共有キーの更新間隔を「0、300 ～ 1800 秒」で設定します（初期値：300）。

更新間隔を 0 にした場合は、WPA 共有キーを更新しません。

⑨セキュリティサーバ

①「認証方式」で「WPA/WPA2-EAP」、「WPA2-EAP」、「WPA-EAP」のいずれかを選択した場合に、［RADIUS サーバ設定］がクリックできるようになります。［RADIUS サーバ設定］をクリックすると、P.146 「■ RADIUS サーバ設定」が表示されます。

⑩［設定］

設定した内容を保存します。

⑪［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑫［戻る］

P.137 「4.5.3　無線アクセスポイント設定」に戻ります。

⑬［セキュリティ情報書出し］

現在のセキュリティ設定をテキストで表示します。

4

■ RADIUS サーバ設定

RADIUS サーバを設定します。

① RADIUS サーバ IP

RADIUS サーバ IP アドレスを設定します。

② RADIUS で使用するポート

RADIUS サーバで使用するポート番号を設定します（初期値：1812）。

③シークレット

RADIUS サーバと本商品の間で使用する共有キー（共有パスワード）を設定します。

④［設定］

設定した内容を保存します。

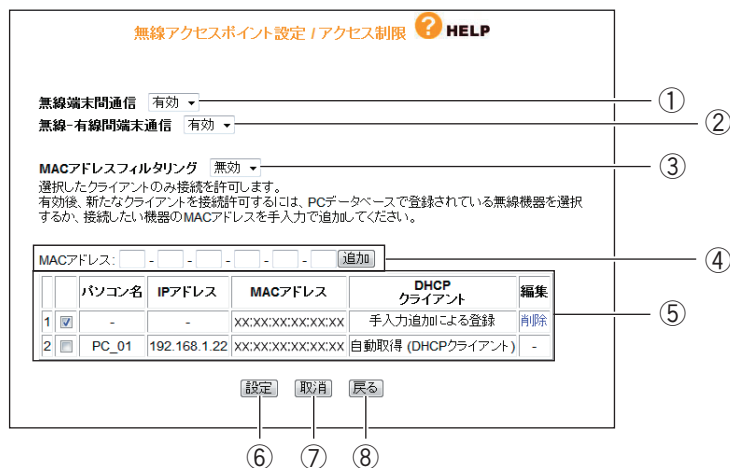
⑤［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑥［戻る］

P.143「■ 802.11n/g/b セキュリティ設定」に戻ります。

■アクセス制限

接続を許可する無線クライアントなどを設定します。

①無線端末間通信

無線端末（パソコンなどのクライアント）同士の通信の制限を設定できます。

・有効

無線端末の通信を有効にします（初期値）。

・無効

無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の無線端末がアクセスするような環境でお互いのプライバシーを守れます。

②無線－有線間端末通信

有線端末と無線端末間の通信の制限を設定できます。

・有効

有線端末と無線端末間の通信を有効にします（初期値）。

・無効

有線端末と無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の無線端末がアクセスするような環境で有線端末のプライバシーを守れます。

③ MAC アドレスフィルタリング

MAC アドレスを登録した無線端末のみ通信を許可します。

・有効

MAC アドレスフィルタリングを有効にします。

・無効

MAC アドレスフィルタリングを無効にします（初期値）。

④ MAC アドレス

通信を許可したい MAC アドレスを手動でリストに登録できます。

4

⑤リスト

PC データベースに登録されたクライアントの中から無線端末を表示します。
リストでチェックを付けたクライアントのみ通信を許可します。

・削除

登録された PC をリストから削除します。

⑥［設定］

設定した内容を保存します。

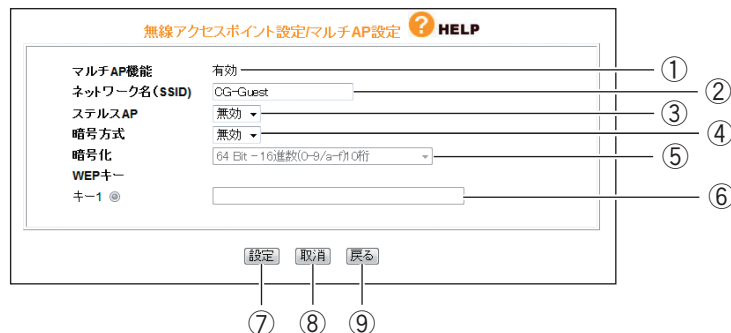
⑦［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑧［戻る］

P.137「4.5.3 無線アクセスポイント設定」に戻ります。

■マルチ AP 設定

本体背面の「マルチ AP 機能スイッチ」を使用して作成されたセカンド SSID を設定します。
詳しくは、**P.25** 「1.5　マルチ AP 機能を使用する」をご覧ください。

①マルチ AP 機能

マルチ AP 機能の状態を表示します。

マルチ AP 機能の ON/OFF は本体背面の「マルチ AP 機能スイッチ」で操作します。

・有効

マルチ AP 機能が有効になっています（初期値）。

セカンド SSID を使用できます。

・無効

マルチ AP 機能が無効になっています。

セカンド SSID が使用できません。

②ネットワーク名（SSID）

セカンド SSID のネットワーク名が表示されます（初期値：CG-Guest）。

③ステルス AP

無線 LAN アダプタをもつパソコンから本商品の SSID を検索されないようにしたり、SSID を「ANY」や空白にしているパソコンからのアクセスを拒否したりできます。

・無効

ステルス AP を無効にします（初期値）。

・有効

ステルス AP を有効にします。

④暗号方式

無線セキュリティの暗号方式を設定します。

・無効

無線セキュリティを使用しません（初期値）。

・WEP

暗号化に WEP を使用します。

⑤暗号化

④「暗号方式」で「WEP」を選択した場合に、暗号強度を 64Bit、128Bit の 16 進数または ASCII 文字列から選択します。

⑥ WEP キー

④「暗号方式」で「WEP」を選択し、⑤「暗号化」を選択したあと、任意の WEP キー（暗号キー）を入力します。

⑦［設定］

設定した内容を保存します。

⑧［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑨［戻る］

P.137「4.5.3 無線アクセスポイント設定」に戻ります。

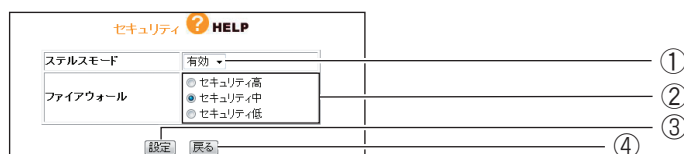
4.6　セキュリティ設定

WAN 側からのアクセスに対するセキュリティ、無線ストップ機能を設定します。

4.6.1　セキュリティ

ステルスモード、ファイアウォールを設定します。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

■ルータ機能が有効の場合

①ステルスモード

WAN（インターネット）側への PING リクエスト（通信確認リクエスト）の応答を設定できます。

・有効

WAN 側からの PING に応答しなくなり、本商品の存在を隠します（初期値）。

・無効

WAN 側からの PING に応答し、本商品の存在を確認できます。

②ファイアウォール

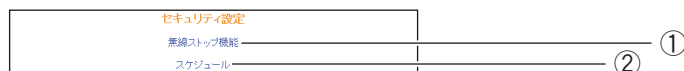
ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して自動的にポートを開放・閉鎖します。セキュリティが高いほど安全ですが、通信速度が遅くなる場合があります（初期値：セキュリティ中）。

③［設定］

設定した内容を保存します。

④［戻る］

P.116「4.1　CG-WLR300N（トップページ）」に戻ります。

■ルータ機能が無効の場合

①無線ストップ機能

P.155「4.6.4　無線ストップ機能」

②スケジュール

P.63「2.12　スケジュールを登録する」

4.6.2 アクセス制限

本商品に接続しているパソコンから、インターネットへのアクセスの許可または禁止を設定します。
詳しくは、**P.67** 「2.14 インターネットアクセス制限機能を設定する」をご覧ください。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

①制限する IP アドレス

アクセスを制限したい IP アドレスの範囲を登録します。

②制限するサービス

アクセスを制限するサービスを「WWW(ウェブブラウズ)」、「E-mail 送信」、「E-mail 受信」、「Secure HTTP」、「FTP」、「全ての TCP ポート」、「全ての UDP ポート」、「ユーザ定義」から選択します(初期値:ユーザ定義)。

③プロトコル

制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合に、プロトコルを「TCP」、「UDP」から選択します(初期値:TCP)。

④制限するポート範囲

制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合に、任意のポートを指定できます。

⑤スケジューリング(スケジュール設定を使用します)

制限する時間を選択できます。

- **常に制限**
  常時アクセスを制限します(初期値)。
- **スケジュール**
  P.157 「4.6.5 スケジュール」で登録した時間でインターネットへのアクセスを制限します。

⑥［登録］

設定した内容で登録します。

⑦アクセス制限テーブル（最大 10 まで）

登録されたアクセス制限を表示します。

⑧［有効］／［無効］

アクセス制限を使用しているかどうかを表示します。

［有効］をクリックすると、表示が［無効］に変わり、アクセス制限を使用しません。

［無効］をクリックすると、表示が［有効］に変わり、アクセス制限を使用します。

⑨修正

登録されたアクセス制限の内容を修正します。

⑩削除

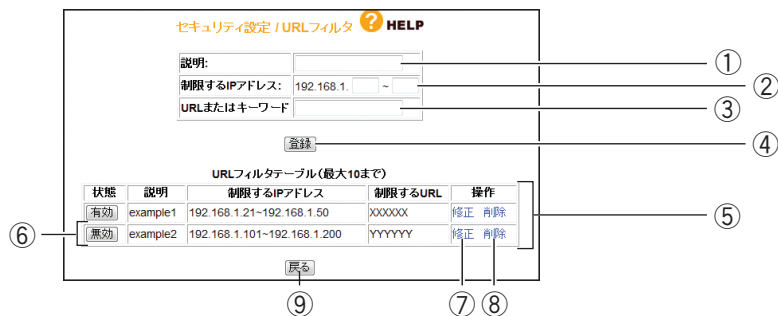
登録されたアクセス制限を削除します。

⑪［戻る］

P.151「4.6　セキュリティ設定」に戻ります。

4.6.3 URL フィルタ

本商品に接続しているパソコンから、特定の URL や URL に特定のキーワードを含むインターネットへの接続の禁止を設定します。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

①説明

設定する URL フィルタに名前を付けます。

②制限する IP アドレス

接続を禁止するパソコンの IP アドレスを範囲で設定します。

③ URL またはキーワード

接続を禁止する URL またはキーワードを設定します。

④［登録］

設定した内容で登録します。

⑤ URL フィルタテーブル（最大 10 まで）

登録した URL フィルタをリストで表示します。

⑥［有効］／［無効］

URL フィルタを使用しているかどうかを表示します。

［無効］をクリックすると、表示が［有効］に変わり、URL フィルタを使用します。
［有効］をクリックすると、表示が［無効］に変わり、URL フィルタを使用しません。

⑦修正

登録された URL フィルタの内容を修正します。

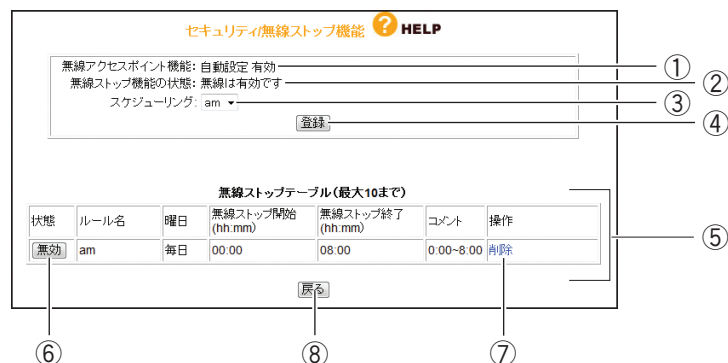
⑧削除

登録された URL フィルタを削除します。

⑨［戻る］

P.151「4.6 セキュリティ設定」に戻ります。

4.6.4 無線ストップ機能

P.157「4.6.5　スケジュール」で設定したスケジュールを利用して無線 LAN を一時的に停止できます。詳しくは、P.65 「2.13　無線スケジュール停止機能を使用する」をご覧ください。

①無線アクセスポイント機能

無線アクセスポイント機能の状態を表示します。

・有効

無線アクセスポイント機能が有効になっています（初期値）。

・無効

無線アクセスポイント機能が無効になっています。

②無線ストップ機能の状態

・無線は有効です

無線スケジュール停止機能が動作していません（初期値）。

・無線をストップしています（無線ストップ終了時間 XX:XX）

無線スケジュール停止機能が動作しています。XX:XX は設定したスケジュールの終了時間が表示されます。

・無効

無線アクセスポイント機能が無効になっています。

③スケジューリング

P.63 「2.12　スケジュールを登録する」で設定したスケジュールを選択します。

④［登録］

③「スケジューリング」で選択したスケジュールを登録します。

⑤無線ストップテーブル（最大 10 まで）

登録したスケジュール設定を表示します。

⑥［有効］／［無効］

無線ストップ機能を使用しているかどうかを表示します。

［有効］をクリックすると、表示が［無効］に変わり、無線ストップ機能を使用しません。

［無効］をクリックすると、表示が［有効］に変わり、無線ストップ機能を使用します。

⑦削除

登録された無線ストップ設定を削除します。

⑧［戻る］

P.151「4.6 セキュリティ設定」に戻ります。

4.6.5 スケジュール

登録したスケジュールを、P.65「2.13　無線スケジュール停止機能を使用する」、または P.67「2.14 インターネットアクセス制限機能を設定する」で指定できます。

①名前

スケジュールに名前を付けます。
登録した名前は、P.152 「4.6.2 アクセス制限」の⑤「スケジューリング」と P.155「4.6.4 無線ストップ機能」の③「スケジュールリング」に表示されます。

②コメント

スケジュールに説明を付けます。

③スケジュール

時間帯を設定します。24 時間表記で入力します。

- **曜日**
  制限したい曜日の「開始時間」と「終了時間」に数値を入力します。
- **開始時間**
  制限を開始する時間を入力します。
- **終了時間**
  制限を終了する時間を入力します。

④ [登録]

設定した内容で登録します。

⑤スケジュールテーブル（最大 10 まで）

登録されたスケジュールを表示します。

⑥修正

登録されたスケジュールの内容を修正します。

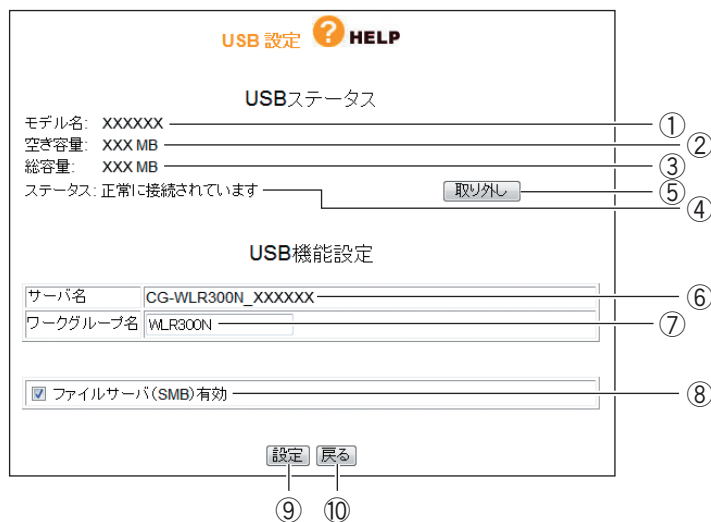
⑦削除

登録されたスケジュールを削除します。

⑧［戻る］

P.151 「4.6　セキュリティ設定」に戻ります。

4.7 USB 設定

USB 共有機能を設定します。
詳しくは、P.69 「2.15 USB で共有する」をご覧ください。

①モデル名

接続した USB ストレージのモデル名を表示します。

②空き容量

接続した USB ストレージの空き容量を表示します。

③総容量

接続した USB ストレージの総容量を表示します。

④ステータス

USB ポートの状態を表示します。

- **正常に接続されています**
  USB ストレージが接続されています。
- **接続されていません**
  USB ストレージが接続されてません。

⑤ ［取り外し］

クリックすると、USB ストレージを取り外します。

⑥サーバ名

本商品の名称を表示します（初期値 : CG-WLR300N_XXXXXX（末尾の 6 桁は本商品の LAN 側の MAC アドレスの下 6 桁））。

⑦ワークグループ名

ワークグループ名を設定します（初期値：WLR300N）。
Windows でお使いの場合には、お使いのパソコンに設定されたワークグループと同じ名称を設定します。

☞ P.71 「2.15.2 ワークグループを確認する」

⑧ファイルサーバ（SMB）有効

チェックボックスにチェックを付けると、ファイルサーバ機能が有効になります（初期値：有効）。

⑨［設定］

設定した内容を保存します。

⑩［戻る］

P.116 「4.1 CG-WLR300N（トップページ）」に戻ります。

4.8　詳細設定

本商品の詳細な設定ができます。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

①バーチャル・サーバ（ポート開放）

インターネットにサーバを公開する場合などに設定します。開放するポートがわかる場合はバーチャルサーバを設定します。

☞ P.162「4.8.1　バーチャル・サーバ（ポート開放）」

② DMZ

インターネットにサーバを公開する場合などに設定します。開放するポートがわからない場合は DMZ を設定します。

☞ P.164「4.8.2　DMZ」

③ UPnP

UPnP に対応したソフトウェアを使用する場合に設定します。

☞ P.165「4.8.3　UPnP」

4.8.1 バーチャル・サーバ（ポート開放）

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。詳しくは、**P.42**「2.3 ポートを開放する（バーチャルサーバ機能）」をご覧ください。

・パソコンをサーバとして使用するには、パソコン上でサーバソフトを実行している必要があります。
・ダイナミック DNS（DDNS）を使用することで、より簡単に WAN 側から LAN 側のサーバに接続できます。詳しくは、**P.55**「2.6 ダイナミック DNS を使用して URL で接続する」をご覧ください。

①接続先

バーチャルサーバ機能を使用するパソコンをリストから選択します。
PC データベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。表示されない場合は、**P.134**「■ PC データベース」でパソコンを手動で登録してください。

②サービス

使用するサービスを選択します。

③ポート範囲

使用するポートの範囲を入力します。「詳細設定」にチェックを付けると、WAN 側と LAN 側のポート範囲を入力できます。

④プロトコル

使用するプロトコルを設定します。

⑤備考

サーバに説明を付けます。空欄のままでも使用できます。

⑥［登録］

設定した内容で登録します。

⑦バーチャルサーバテーブル

登録されたバーチャルサーバを表示します。

⑧［有効］／［無効］

バーチャルサーバの現在の状態を表示します。
［有効］をクリックすると、［無効］に変わり、バーチャルサーバを使用しません。
［無効］をクリックすると、［有効］に変わり、バーチャルサーバを使用します。

⑨修正

登録されたバーチャルサーバの内容を修正します。

⑩削除

登録されたバーチャルサーバを削除します。

⑪［戻る］

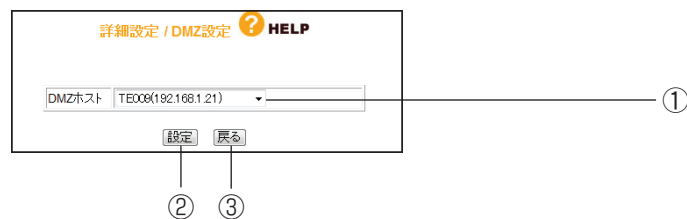
P.161「4.8　詳細設定」に戻ります。

4

4.8.2 DMZ

インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合で、UPnP に対応していないソフトウェアを使うとき、開放するポートがわからないとき、または **P.162**「4.8.1 バーチャル・サーバ（ポート開放）」を使って接続できないときに設定します。

DMZ の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ使用してください。

・DMZ は LAN 内の 1 台のパソコンでのみ使用できます。
・バーチャルサーバで使用されているポートは、DMZ では使用できません。

① **DMZ ホスト**

DMZ 機能を使用するパソコンを選択します。
PC データベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。表示されない場合は、**P.134**「■ PC データベース」でパソコンを手動で登録してください。

② **［設定］**

設定した内容を保存します。

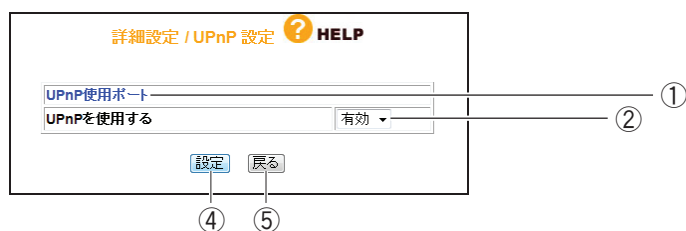
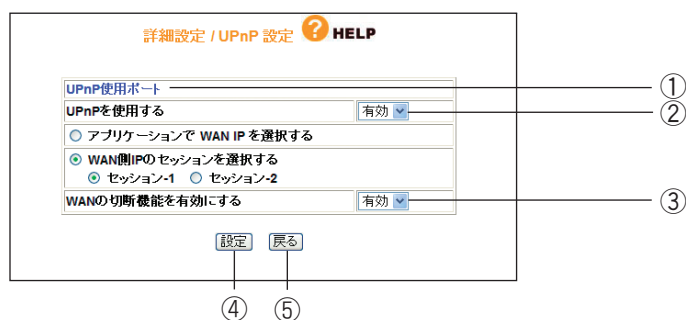
③ **［戻る］**

P.161「4.8 詳細設定」に戻ります。

4.8.3 UPnP

UPnP に対応したソフトウェアを使用する場合に設定します。

UPnP 機能は Windows Vista/XP で使用できます。

■ DHCP 接続の場合

■ PPPoE 接続の場合

① UPnP 使用ポート

UPnP で使用しているポートを確認できます。クリックすると、**P.166**「■ UPnP 使用ポート」を表示します。

② UPnP を使用する

UPnP を使用するかどうかを選択します。

- **有効**

  UPnP を使用します（初期値）。

- **無効**

  UPnP を使用しません。

- **アプリケーションで WAN IP を選択する**

  UPnP 対応アプリケーションで WAN 側の IP アドレスを取得するときに選択します。PPPoE 接続時のみ表示されます。

- **WAN 側 IP のセッションを選択する**

  UPnP を使用するセッションを選択します。お使いの環境に合わせて、「セッション -1」（初期値）または「セッション -2」のどちらかを選択します。PPPoE 接続時のみ表示されます。

③ WAN の切断機能を有効にする

UPnP 機能を使用して WAN（インターネット）側を切断するかどうか選択します。PPPoE 接続時のみ表示されます。

- **有効**

  切断機能を使用します（初期値）。

- **無効**

  切断機能を使用しません。

④［設定］

設定した内容を保存します。

⑤［戻る］

P.161「4.8 詳細設定」に戻ります。

■ UPnP 使用ポート

UPnP で使用しているポートを確認できます。

① UPnP ポートリスト

使用している UPnP の内容を表示します。

②［戻る］

P.165「4.8.3 UPnP」に戻ります。

4.9　管理

本商品のログイン名やパスワードなどを設定できます。

①管理者ログイン名

設定画面へのログイン名を変更します（初期値：root）。

②管理者ログイン・パスワード

設定画面へのログイン・パスワードを設定できます（初期値：空欄）。

③パスワードの確認

管理者ログイン・パスワードを変更する場合は、確認のため②「管理者ログイン・パスワード」で入力したパスワードを入力します（初期値：空欄）。

④ IP マスカレード・テーブル保持時間

IP マスカレードのテーブル保持時間を 10 ～ 300 分の範囲で設定できます（初期値：10 分）。保持時間を長くすることで、FTP サーバなどへの長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続などでは設定する必要はありません。

⑤設定ページへのリダイレクト機能

お使いの環境がインターネットに接続されていない場合、Web ブラウザを起動すると、自動的に本商品の設定画面が表示される機能です。

・有効

リダイレクト機能を使用します（初期値）。

・無効

リダイレクト機能を使用しません。

⑥時間設定

本商品の時間を設定できます。

・自動設定

NTP サーバを検出して自動で時刻を設定します（初期値）。

・手動設定

「年／月／日」「時：分：秒」を入力します。

⑦工場出荷時の状態へ戻す

［実行］をクリックすると、本商品に設定されている内容をすべて工場出荷時の状態（初期値）に戻します。詳しくは、P.113 「3.5 工場出荷時の状態（初期値）に戻す」をご覧ください。

工場出荷時の状態に戻すと、設定した内容がすべて初期値に戻ります。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに控えておいてください。

⑧再起動

［実行］をクリックすると、本商品を再起動します。詳しくは、P.111 「3.4.2 設定画面で再起動する」をご覧ください。

⑨設定保存

［保存］をクリックすると、現在の設定内容をファイルに保存できます。詳しくは、P.106「3.3.1 設定をバックアップする」をご覧ください。

⑩設定読込

［読込］をクリックすると、保存した設定内容を読み込みます。詳しくは、P.109「3.3.2 設定を元に戻す」をご覧ください。

⑪フロント LED

エコピタ LED 消灯モードを設定します。

・有効

エコピタ LED 消灯モードに設定されていません（初期値）。本商品の状態に応じて LED が動作します。

・無効

エコピタ LED 消灯モードに設定されています。本商品の前面の LED が電源 LED（橙）を残して、すべて消灯します。再起動など一部の機能を除き、LED は動作しません。

⑫ファームウェア更新

P.170 「4.9.1 ファームウェア更新」を表示します。

本商品のファームウェアを更新します。

⑬リモート

P.171「4.9.2　リモート」を表示します。

WAN（インターネット）側から本商品の設定画面を表示する場合に設定します。

⑭ PING テスト

P.172「4.9.3　PING テスト」を表示します。

本商品から PING テストを実行する場合に表示します。

⑮［設定］

設定した内容を保存します。

⑯［取消］

［設定］をクリックする前にかぎり、現在の設定を変更する前の状態に戻します。

⑰［戻る］

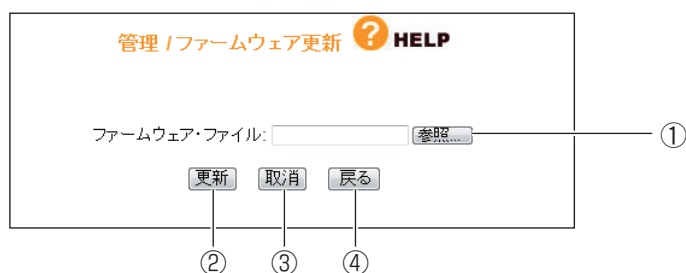
P.116「4.1　CG-WLR300N（トップページ)」に戻ります。

4

4.9.1 ファームウェア更新

コレガホームページからダウンロードした最新のファームウェアを使用して、ファームウェアを更新します。

詳しくは、P.89「3.2 最新のファームウェアを入手してアップデートする」をご覧ください。

・ファームウェア更新中は、絶対に本商品の電源を切らないでください。
・ファームウェアの更新中にブラウザの操作をすると、ファームウェアの更新は中断されます。

① [参照]

ダウンロードしたファームウェアの保存先を選択します。

② [更新]

ファームウェアファイルを選択後、[更新] をクリックするとファームウェアの更新を開始します。

③ [取消]

ファームウェアの更新を中断します。

④ [戻る]

P.167「4.9 管理」に戻ります。

4.9.2 リモート

WAN（インターネット）側から本商品の設定画面を表示する場合に設定します。

①リモート設定

リモート設定の有効／無効を選択します。

・有効

WAN 側から本商品を設定画面を表示できます。

・無効

WAN 側から本商品を設定画面を表示できません（初期値）。

②ポート

リモート設定を有効にした場合に、1 ～ 9600 の範囲でポート番号を入力します（初期値：8080）。

③［設定］

設定した内容を保存します。

④［戻る］

P.167「4.9　管理」に戻ります。

・リモート機能で設定したポート番号は、バーチャルサーバなどでは使用できません。

・インターネット側（WAN 側）から接続する場合は、次の例のように WAN 側 IP アドレスの後ろにポート番号を指定します。WAN 側の IP アドレスは P.174 「4.10　ステータス」で確認できます。

・ダイナミック DNS（DDNS）を使用することで、IP アドレスではなくダイナミック DNS 名で接続できます。

4.9.3 PING テスト

本商品に接続しているほかのパソコンが、通信できる状態かどうかを確認できます。

①宛先アドレス

テストを実行するパソコンの IP アドレスを入力します。

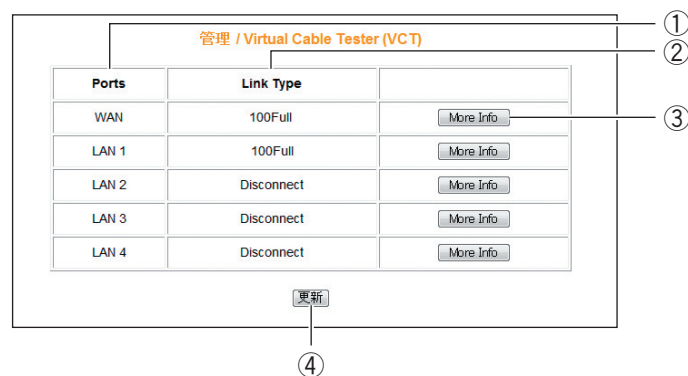
②［実行］

①「宛先アドレス」で IP アドレスを入力したあと、［実行］をクリックすると PING テストを開始します。

③宛先／実行結果

PING テストの結果が表示されます。

4.9.4 Cable Test

使用しているポートのリンク速度を表示します。

① Ports

WAN、LAN1 ～４それぞれの状態を確認できます。

② Link Type

接続状態から、リンク速度とデュプレックス表示します。

③ ［More Info］

詳細情報を表示します。

④ ［更新］

表示内容を更新します。

4.10 ステータス

本商品のステータスを表示します。

■ IP 自動取得（DHCP）の場合

① ② ③

①［開放］

WAN 側 IP アドレスを開放します。

②［再取得］

WAN 側 IP アドレスを再取得します。

③［更新］

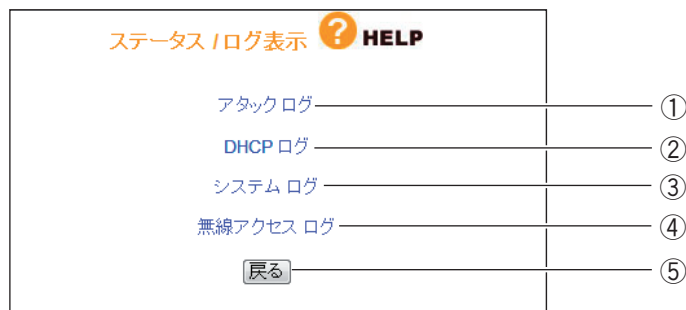
表示している情報を更新します。

■ PPPoE の場合

① ［更新］

表示している情報を更新します。

4.10.1　ログ表示

本体のログ情報を表示します。

①アタックログ

DoS アタック※が発生したときに、そのログを保存します。

※インターネットに接続しているパソコンやルータなどに大量の不正なデータを送り、使用不能にさせる不正アクセスの 1 つです。

② DHCP ログ

本商品の DHCP サーバ機能の稼働状況を表示します。

③システムログ

本商品のアクセス履歴などを表示します。

④無線アクセスログ

本商品の無線のアクセス履歴などを表示します。

⑤［戻る］

P.174「4.10 ステータス」に戻ります。

第 5 章
パソコンのネットワーク設定

この章では、パソコンのネットワーク設定、Web ブラウザの設定について説明します。

5

5.1　パソコンの IP アドレスを確認する

ネットワークやインターネットに接続できないときは、パソコンに IP アドレスが割り当てられていないか、設定されていない可能性があります。ここでは、パソコンの IP アドレスを確認する方法を説明します。

☞P.178 「5.1.1　Windows Vista の場合」

☞P.179 「5.1.2　Windows XP の場合」

☞P.180 「5.1.3　Windows 2000 の場合」

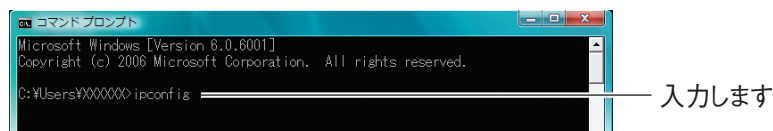
☞P.181 「5.1.4　Windows Me/98SE の場合」

☞P.182 「5.1.5　Macintosh の場合」

5.1.1　Windows Vista の場合

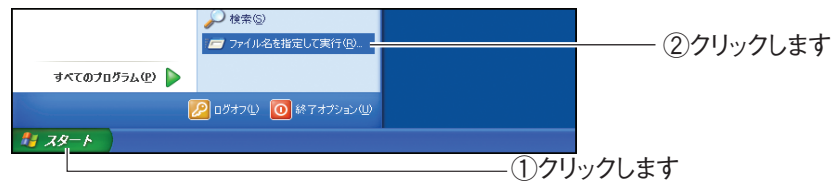
次の手順で、パソコンに設定されている IP アドレスを確認できます。

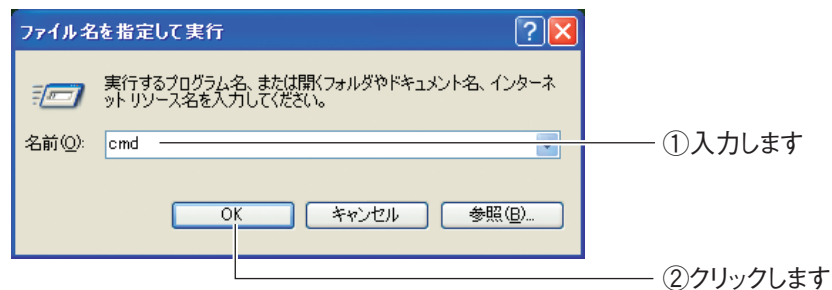
1　［スタート］をクリックし、キーボードで「cmd」と入力して、Enter キーを押します。

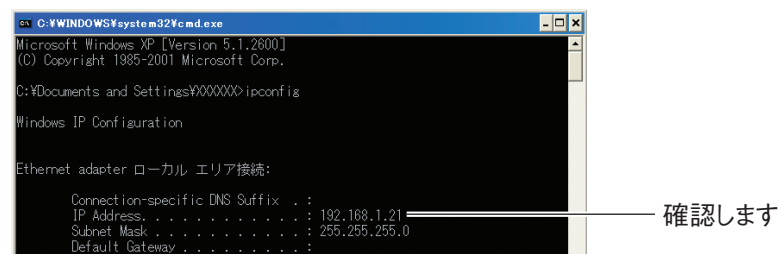
2　コマンドプロンプトが表示されます。キーボードで「ipconfig」と入力し、Enter キーを押します。

3　パソコンに設定されている IP アドレスが表示されます。

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

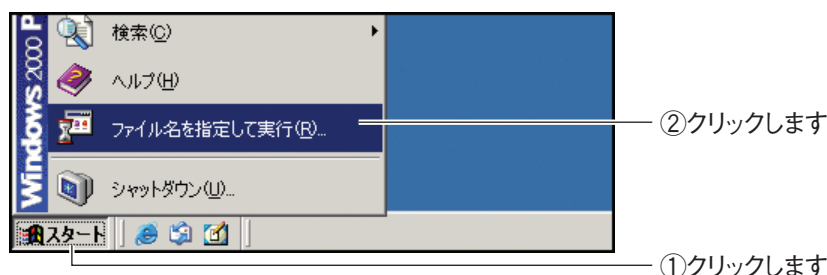
5.1.2 Windows XP の場合

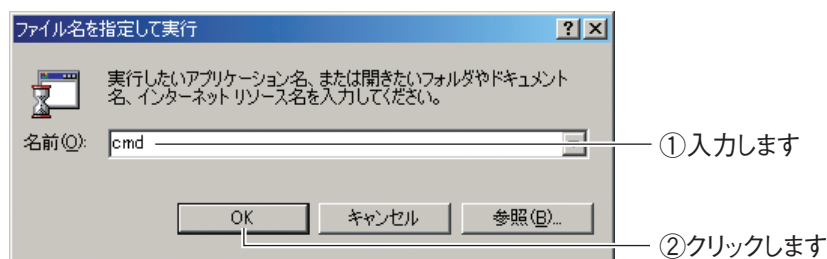
次の手順で、パソコンに設定されている IP アドレスを確認できます。

1　［スタート］－「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

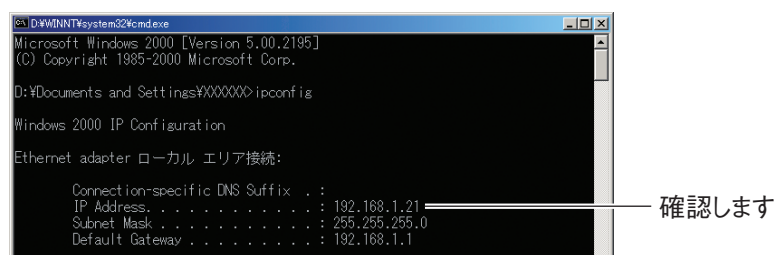
2　キーボードで「cmd」と入力し、［OK］をクリックします。

3　コマンドプロンプトが表示されます。キーボードで「ipconfig」と入力し、Enter キーを押します。

4　パソコンに設定されている IP アドレスが表示されます。

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

5.1.3 Windows 2000 の場合

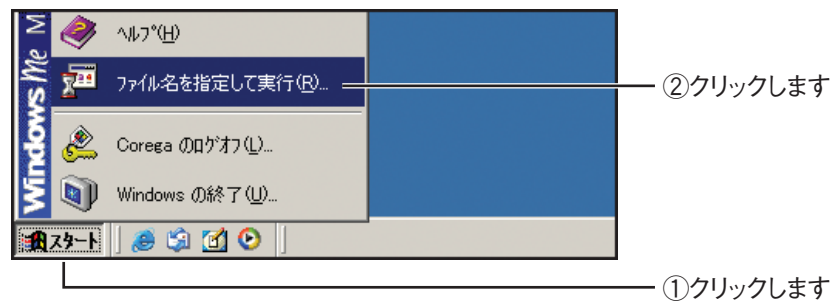
次の手順で、パソコンに設定されている IP アドレスを確認できます。

1 ［スタート］－「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 キーボードで「cmd」と入力し、［OK］をクリックします。

3 コマンドプロンプトが表示されます。キーボードで「ipconfig」と入力し、Enter キーを押します。

4 パソコンに設定されている IP アドレスが表示されます。

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

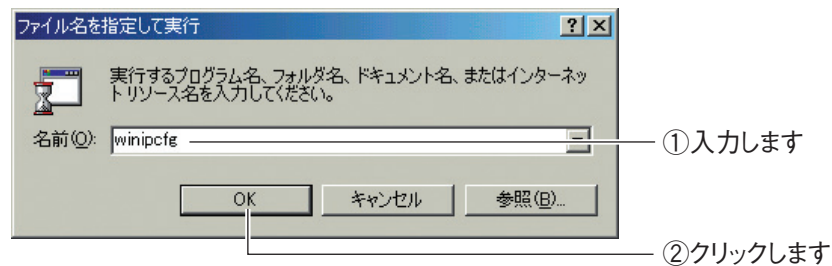
5.1.4 Windows Me/98SE の場合

次の手順で、パソコンに設定されている IP アドレスを確認できます。

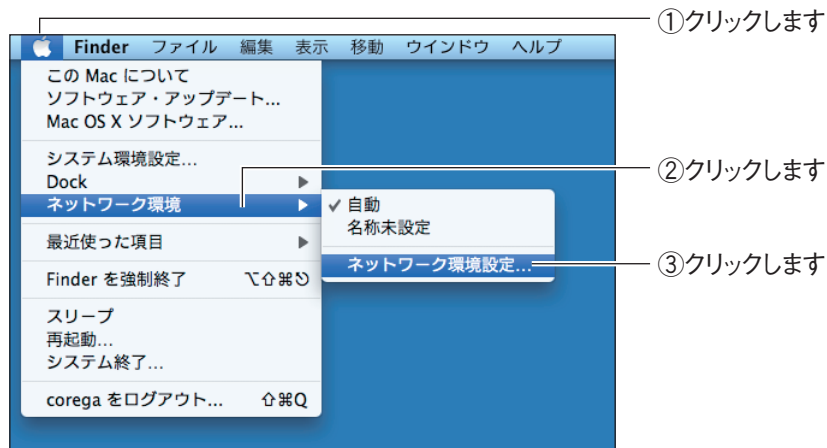
1 ［スタート］－「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 キーボードで「winipcfg」と入力し、［OK］をクリックします。

3 パソコンに設定されている IP アドレスが表示されます。

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

5

5.1.5 Macintosh の場合

次の手順で、パソコンに設定されている IP アドレスを確認できます。

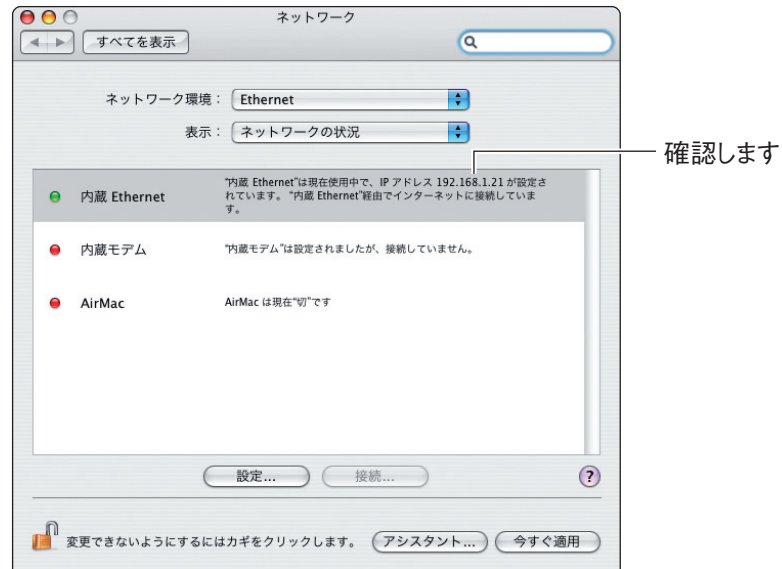
1 「アップルメニュー」－「ネットワーク環境」－「ネットワーク環境設定」の順にクリックします。

2 パソコンに設定されている IP アドレスが表示されます。お使いの環境によって、次のように異なります。

Mac OS X 10.5 の場合

「Ethernet」を選択し、「IP アドレス」を確認します。

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

Mac OS X 10.4 の場合

「内蔵 Ethernet」に表示されている「IP アドレス」を確認します。

※画面は、「192.168.1.21」に設定されている例です。

5.2 パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認する

本商品の設定画面が開かないときは、IP アドレスが自動取得になっていることを確認する必要があります。ここでは、IP アドレスが自動取得になっていることを確認する手順を説明します。

☞P.184 「5.2.1 Windows Vista の場合」

☞P.188 「5.2.2 Windows XP の場合」

☞P.191 「5.2.3 Windows 2000 の場合」

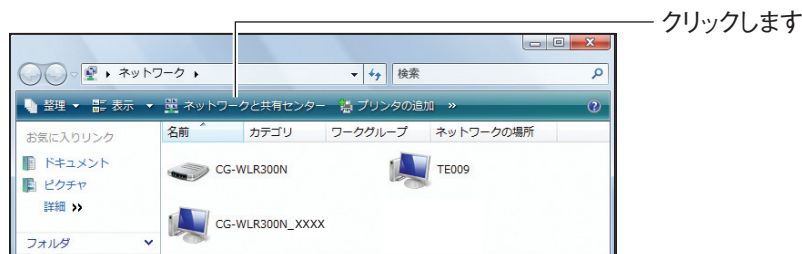
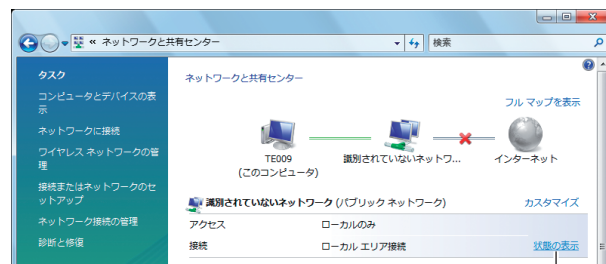
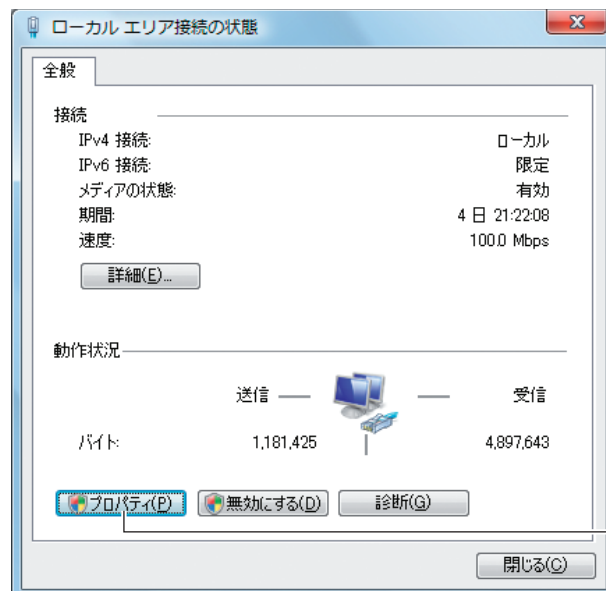
☞P.193 「5.2.4 Windows Me/98SE の場合」

☞P.196 「5.2.5 Macintosh の場合」

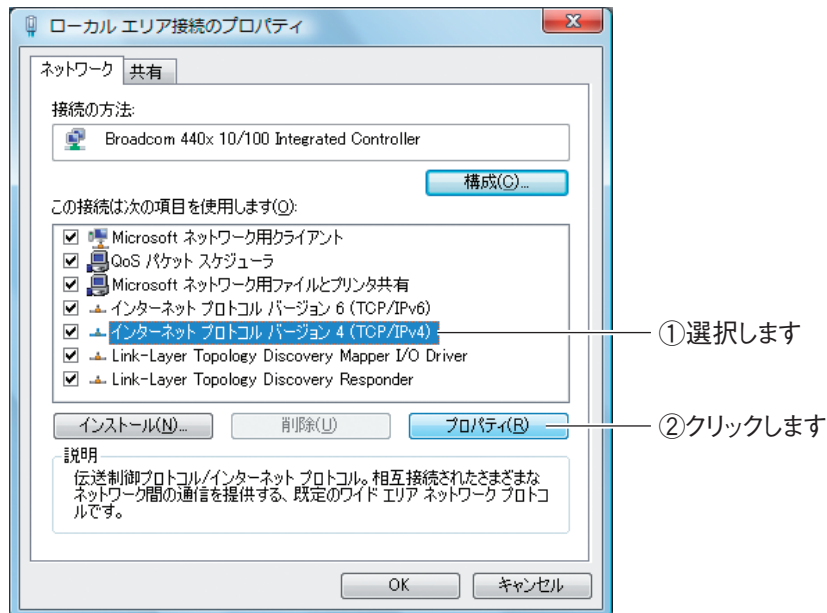
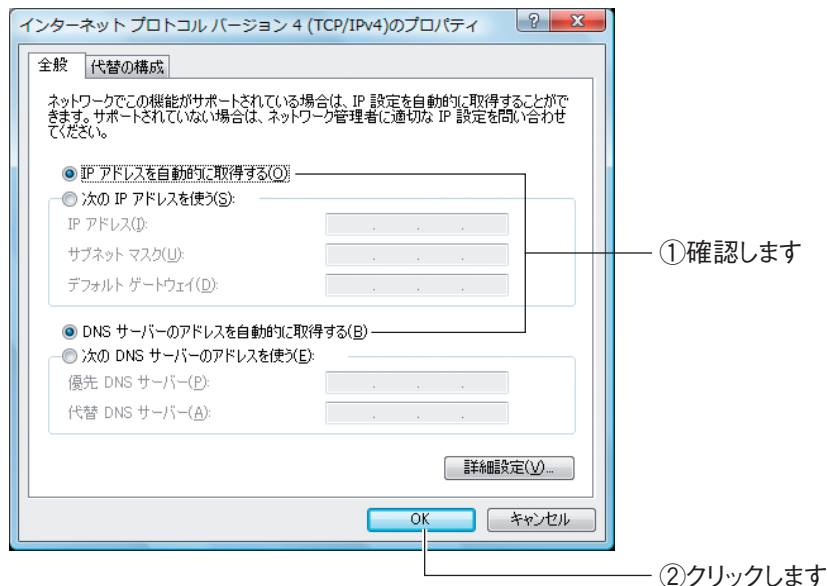
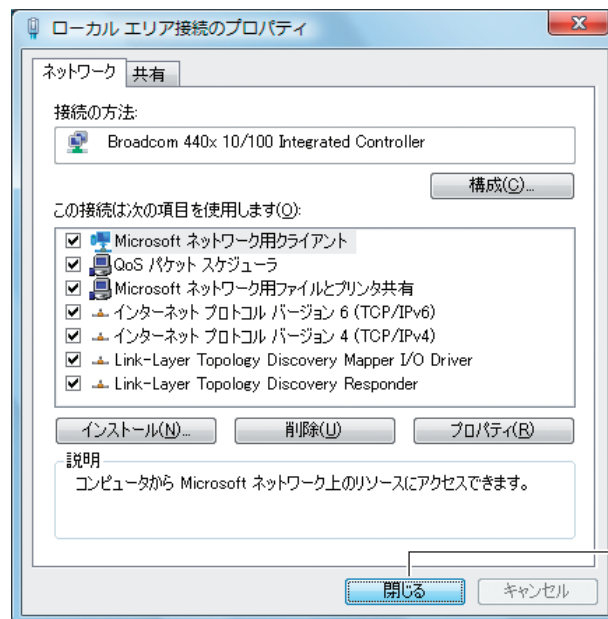
5.2.1 Windows Vista の場合

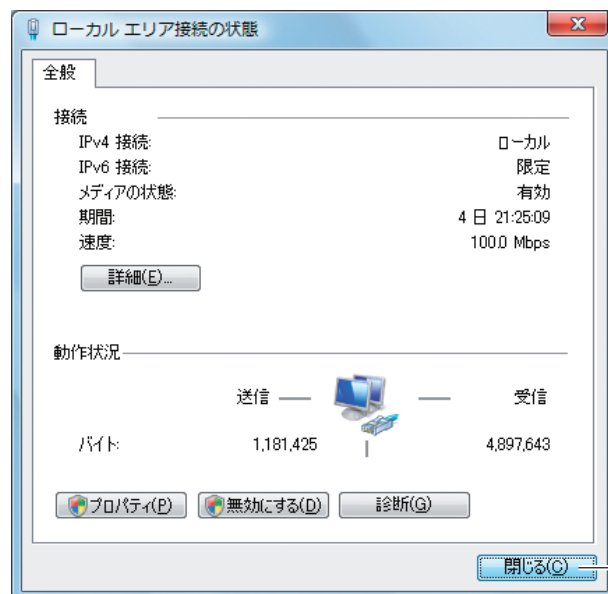
次の手順で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認できます。

1 ［スタート］－「ネットワーク」の順にクリックします。

2 「ネットワークと共有センター」をクリックします。

3　ローカルエリア接続の「状態の表示」をクリックします。

4　［プロパティ］をクリックします。

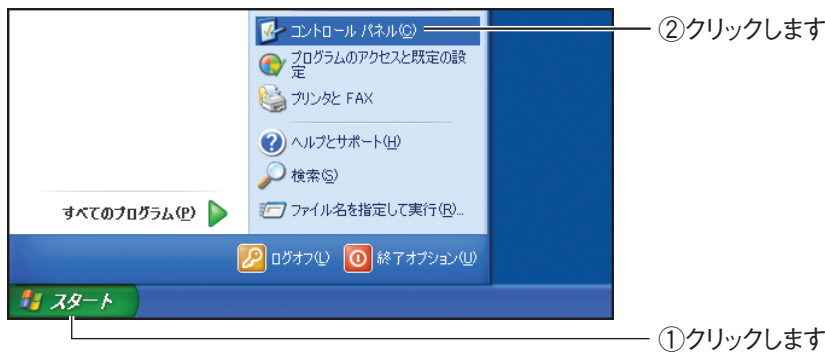
5　「ユーザーアカウント制御」で、［続行］をクリックします。

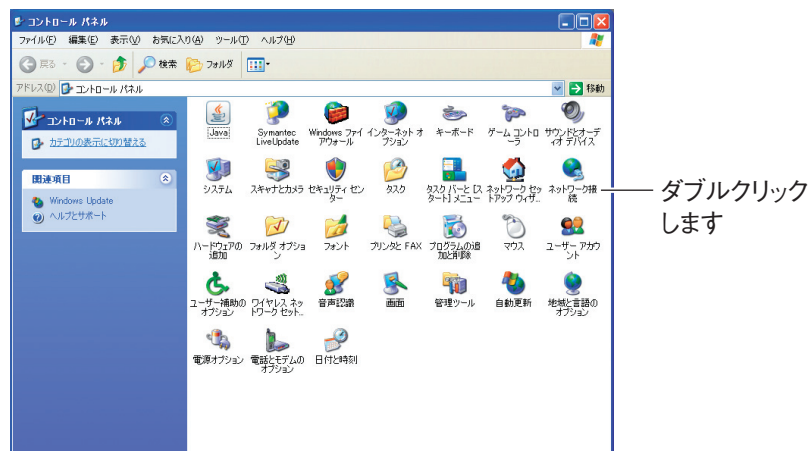
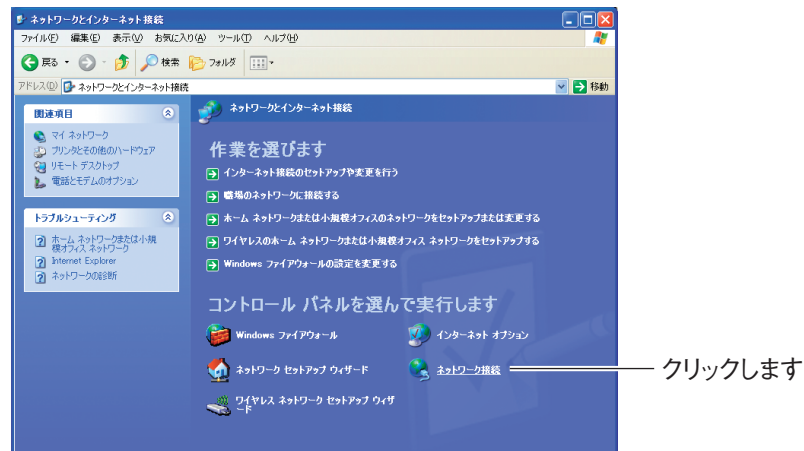
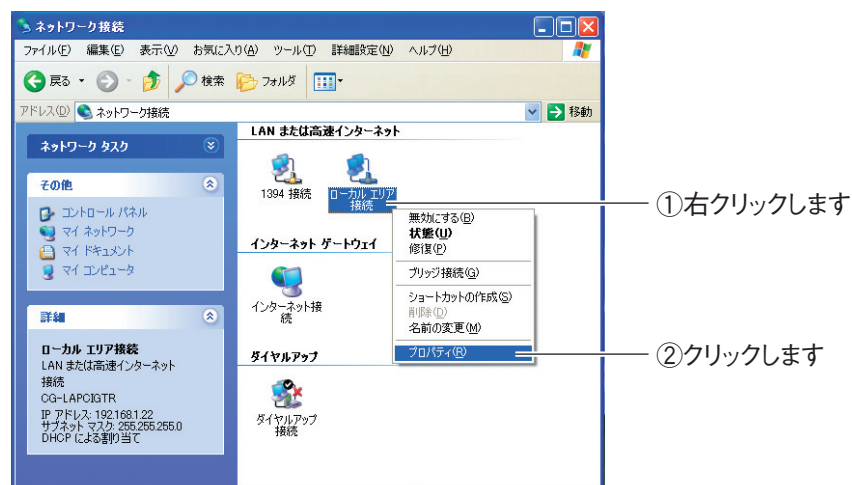
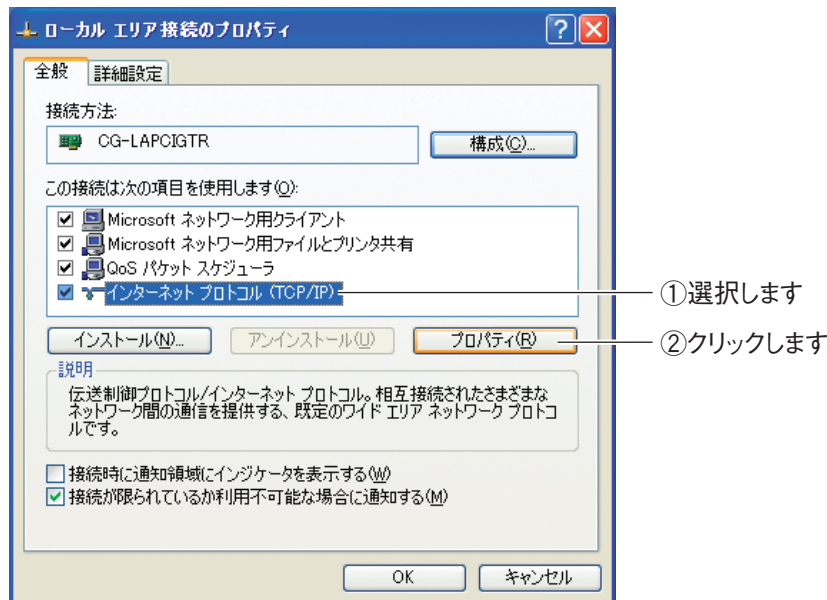
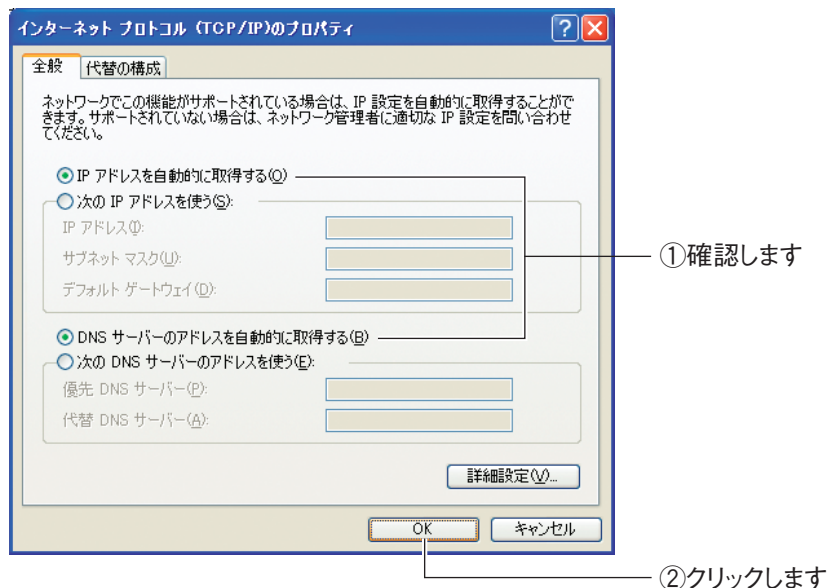
6 「インターネットプロトコルバージョン４（TCP/IPv4）」を選択して、［プロパティ］をクリックします。

7 「IP アドレスを自動的に取得する」および「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認し、［OK］をクリックします。

8　［閉じる］をクリックします。

9　［閉じる］をクリックします。

以上で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることが確認できました。

5.2.2 Windows XP の場合

次の手順で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認できます。

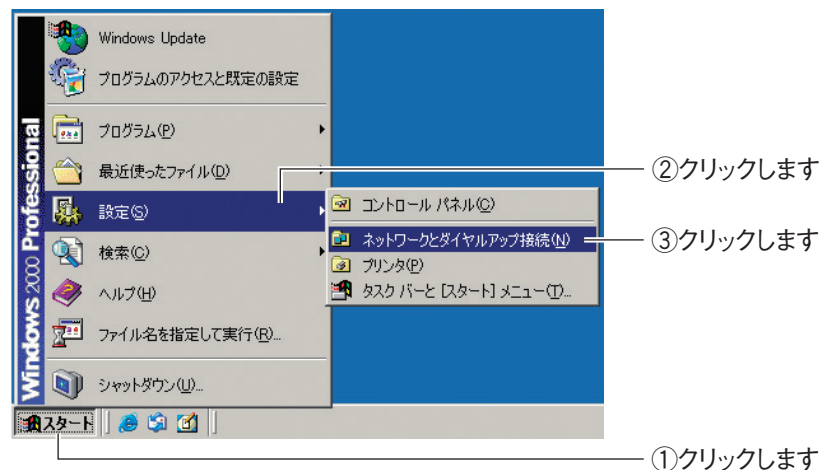
1 ［スタート］－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

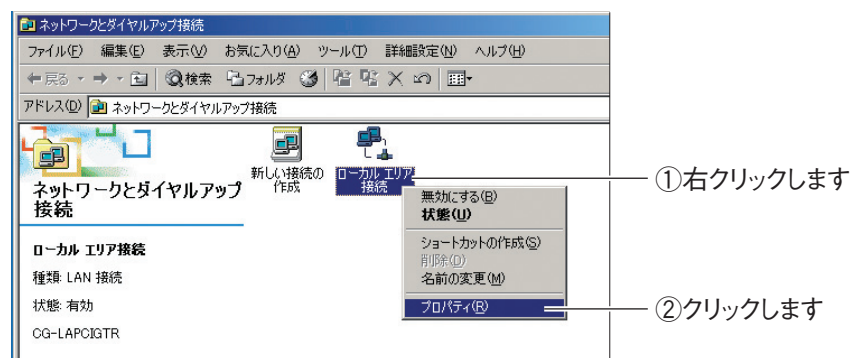
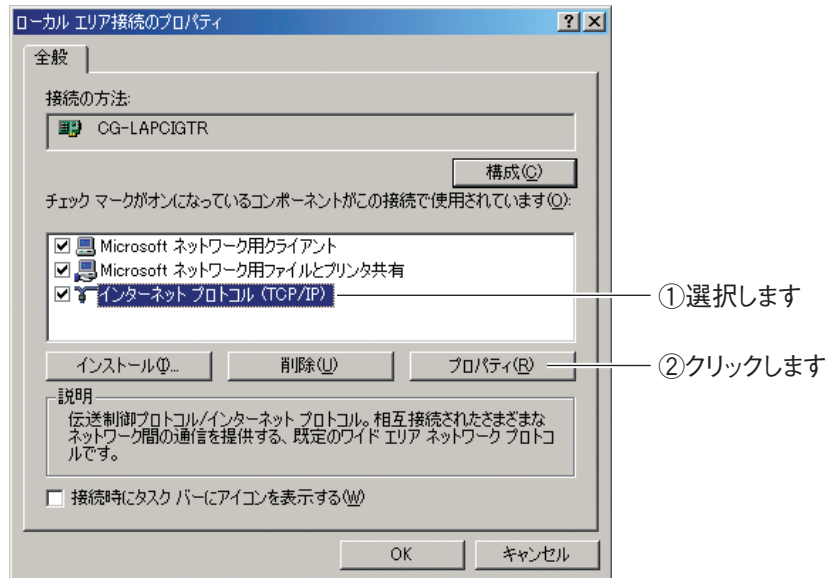
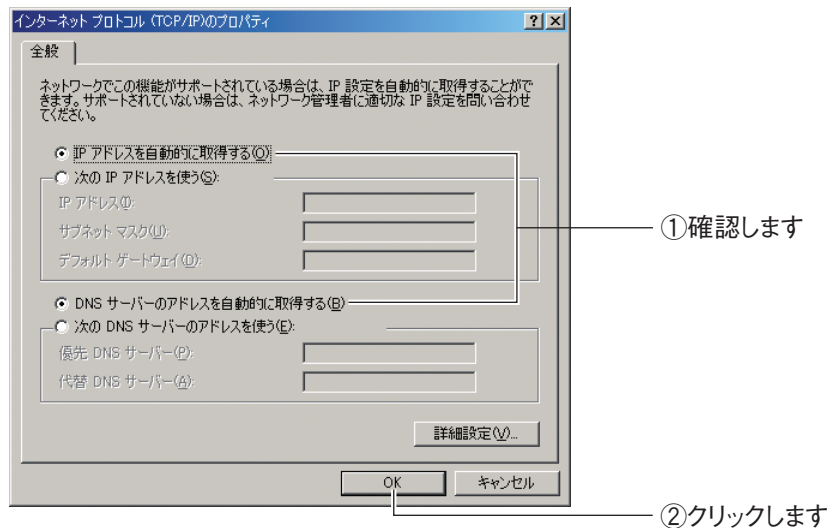
下記のようにクラシック表示の場合は、「ネットワーク接続」をダブルクリックすると手順４の画面が表示されます。

3　「ネットワーク接続」をクリックします。

4　「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

5　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

6　「IP アドレスを自動的に取得する」および「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。

7　手順 5 の画面が表示されます。［OK］をクリックします。

以上で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることが確認できました。

5.2.3 Windows 2000 の場合

次の手順で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認できます。

1 ［スタート］－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順にクリックします。

2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

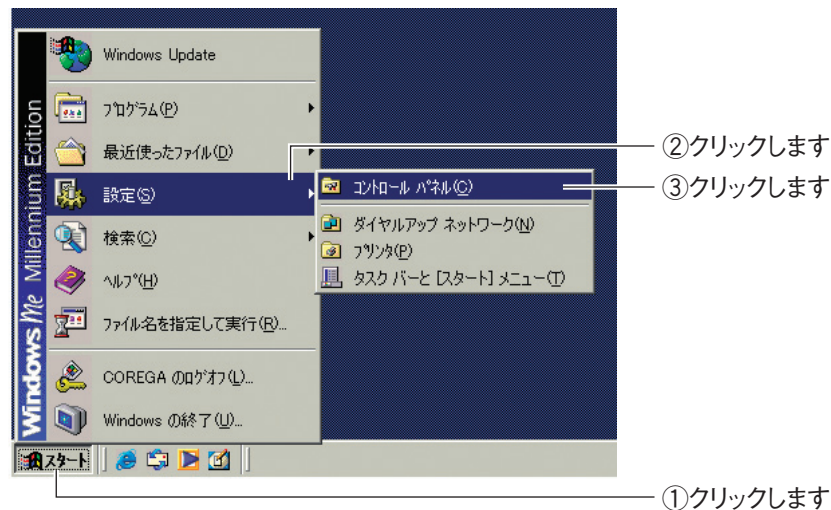
5

3　「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、[プロパティ］をクリックします。

4　「IP アドレスを自動的に取得する」および「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認し、[OK］をクリックします。

5　手順 3 の画面が表示されます。[OK］をクリックします。

以上で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることが確認できました。

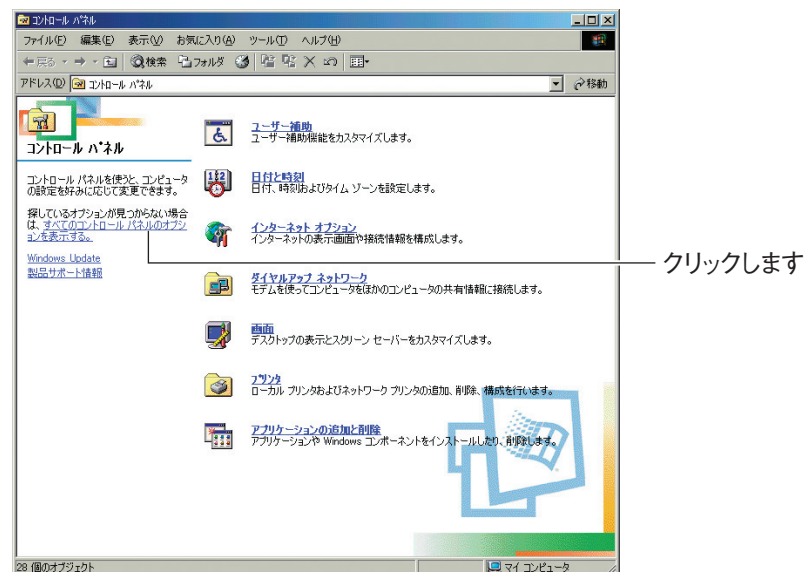
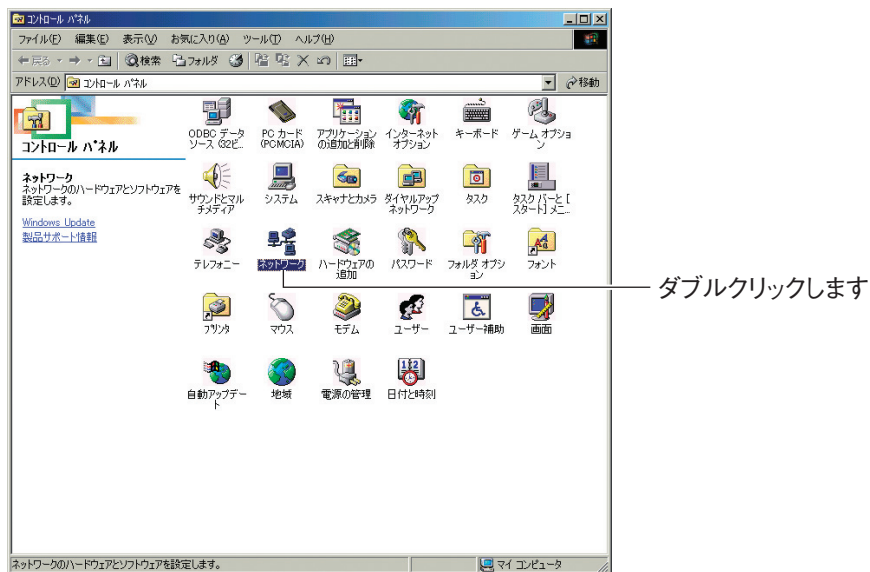
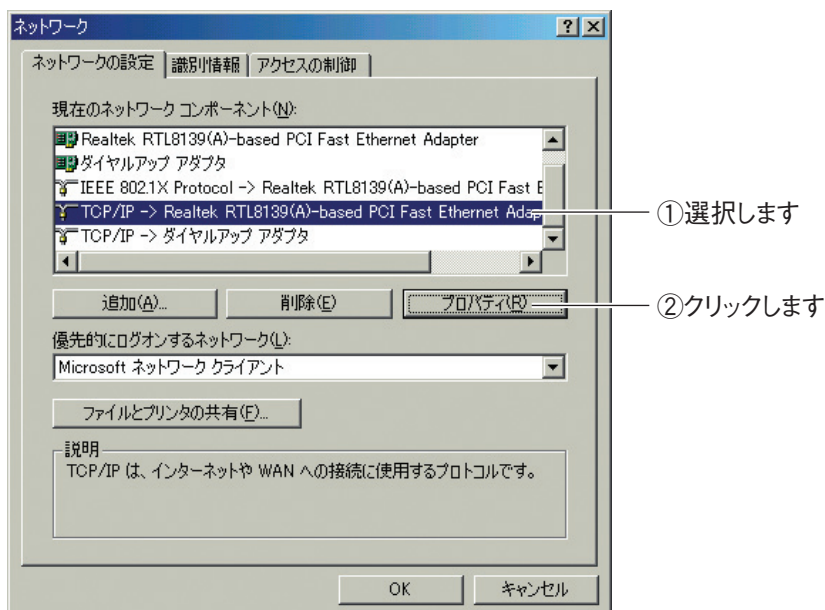
5.2.4 Windows Me/98SE の場合

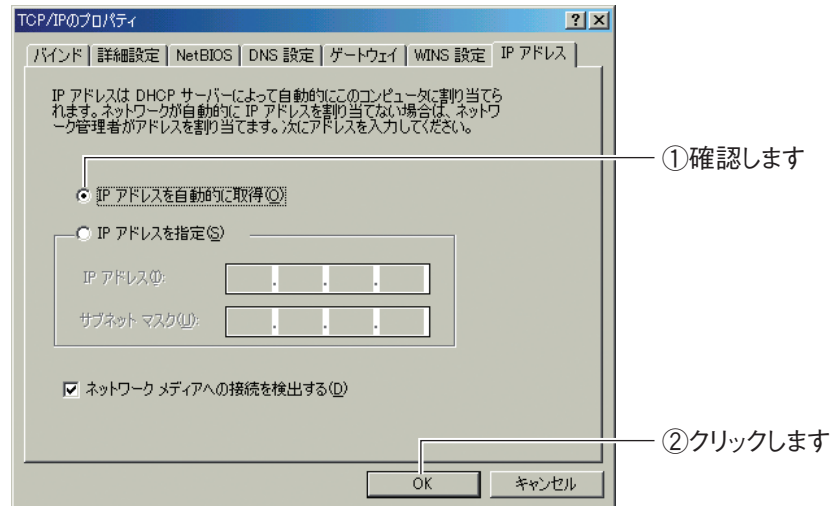
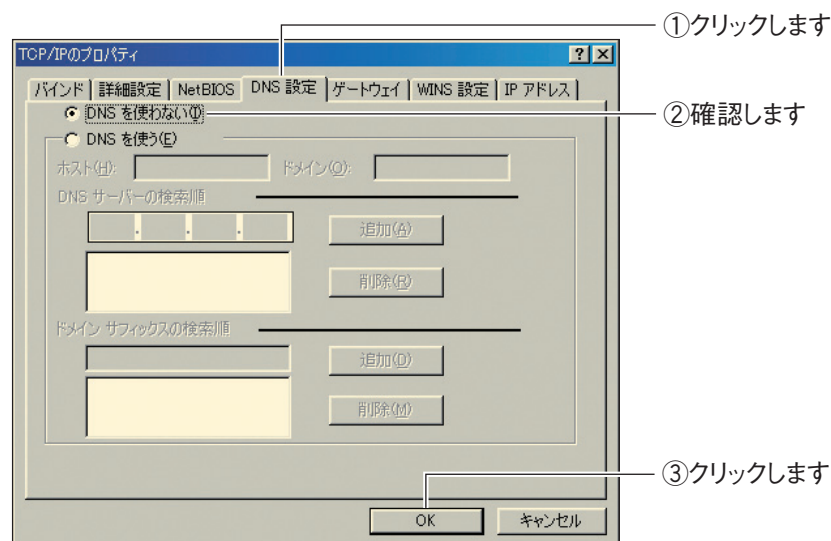
次の手順で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認できます。

※画面は Windows Me の例です。

1 ［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」の順にクリックします。

Windows 98SE をお使いの場合は、手順３に進みます。

2 【Windows Me のみ】「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックします。

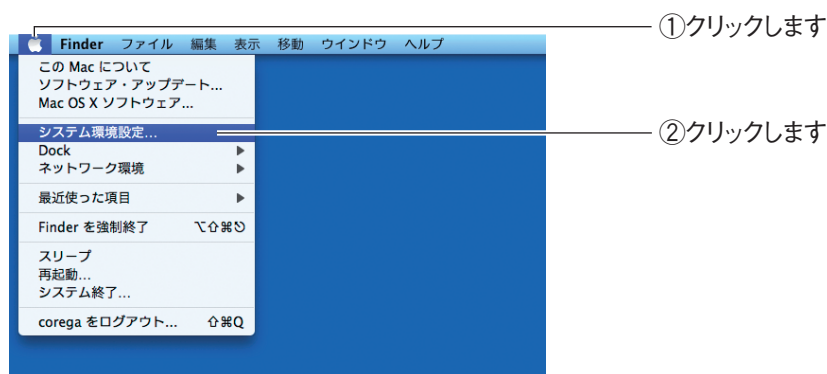
この画面が表示されない場合は、手順３に進みます。

3 「ネットワーク」をダブルクリックします。

4 「TCP/IP － ＞ （お使いのネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

※画面は例です。お使いのネットワークアダプタによって異なります。

5　「IP アドレスを自動的に取得」が選択されていることを確認し、［OK］をクリックします。

6　DNS 設定タブをクリックし、「DNS を使わない」が選択されていることを確認し、［OK］をクリックします。

7　手順４の画面が表示されます。［OK］をクリックします。

以上で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることが確認できました。

5.2.5 Macintosh の場合

次の手順で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることを確認できます。

1 「アップルメニュー」－「システム環境設定」の順にクリックします。

2 「ネットワーク」をクリックします。

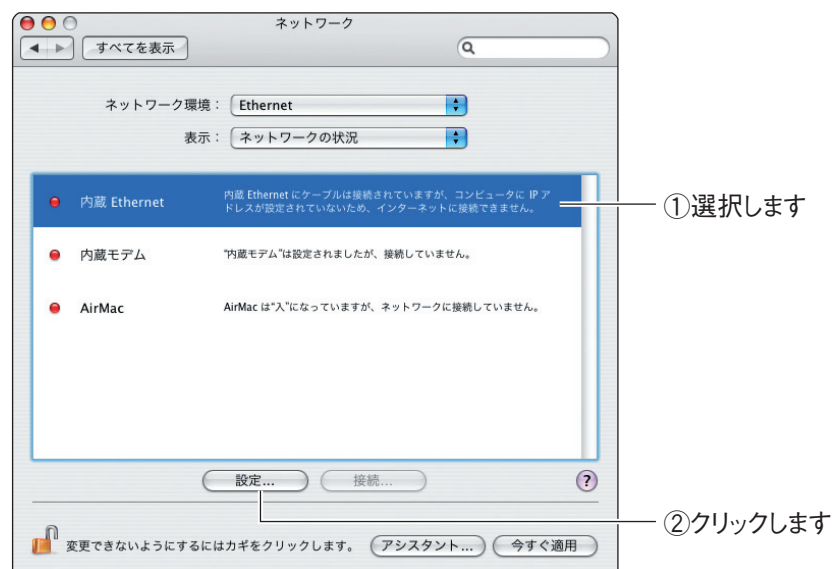
3　お使いの環境によって次のように異なります。

Mac OS X 10.5 の場合

「Ethernet」を選択し、「DHCP サーバを使用」が選択されていることを確認します。選択されていない場合は、「DHCP サーバを使用」を選択し、［適用］をクリックします。

Mac OS X 10.4 の場合

①「内蔵 Ethernet」を選択し、［設定］をクリックします。

5

②「IPv4 の設定」項目で、「DHCP サーバを参照」が選択されていることを確認します。選択されていない場合は、「DHCP サーバを参照」を選択し、[今すぐ適用] をクリックします。

以上で、パソコンの IP アドレスが自動取得になっていることが確認できました。

5.3　OS のファイアウォール機能を無効にする

OS のファイアウォール機能を使用していると、本商品の設定画面が表示されなかったり、正しく設定されなかったりする可能性があります。次の手順で、OS のファイアウォール機能を無効にしてください。

本商品の設定が終了したら、必ずファイアウォールの設定を元に戻してください。

P.199「5.3.1　Windows Vista の場合」

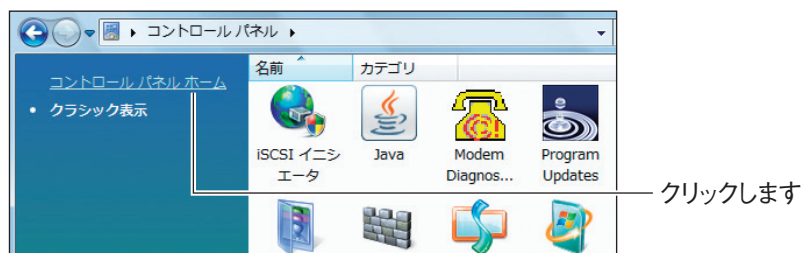
P.201「5.3.2　Windows XP（SP2）の場合」

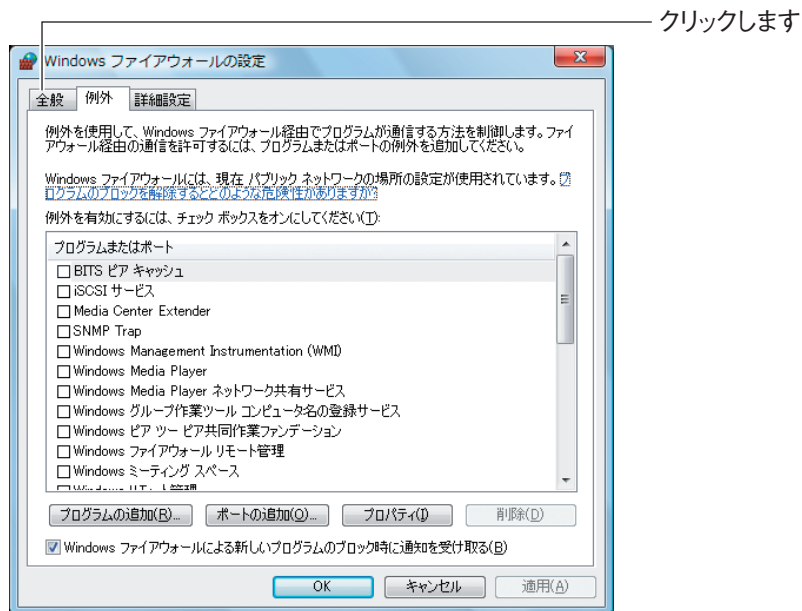
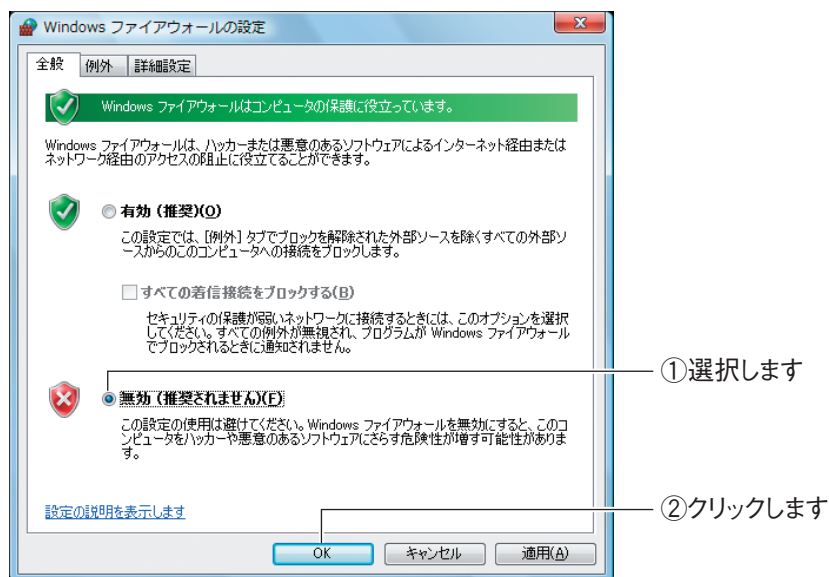
5.3.1　Windows Vista の場合

次の手順で、OS のファイアウォール機能を無効にできます。

1　**［スタート］－「コントロールパネル」の順にクリックします。**

2　**「Windows ファイアウォールによるプログラムの許可」をクリックします。**

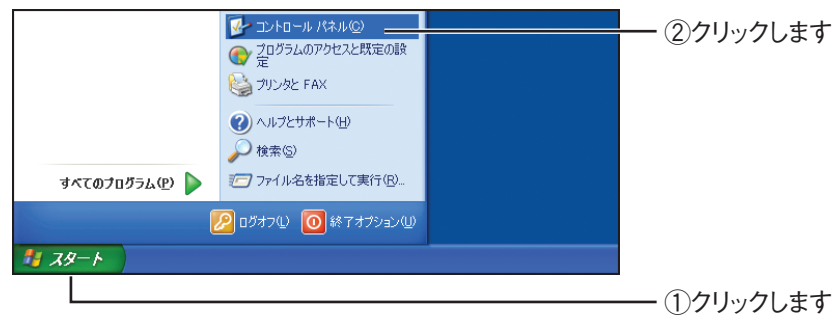
下記のようにクラシック表示の場合は、「コントロールパネルホーム」をクリックすると手順２の画面が表示されます。

3　「ユーザーアカウント制御」画面で、[続行] をクリックします。

4　全般タブをクリックします。

5　「無効（推奨されません)」を選択し、[OK] をクリックします。

以上で、ファイアウォールが無効になりました。

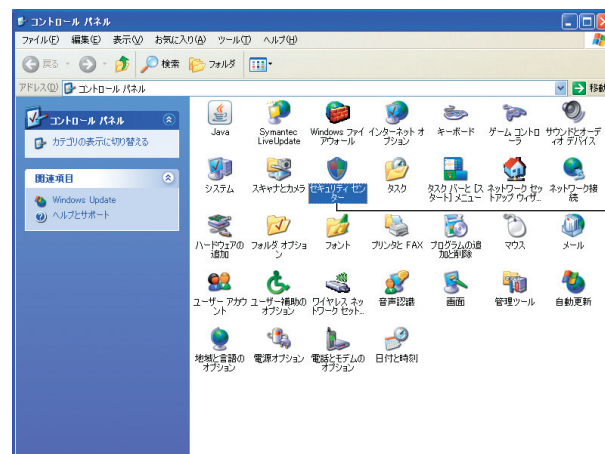
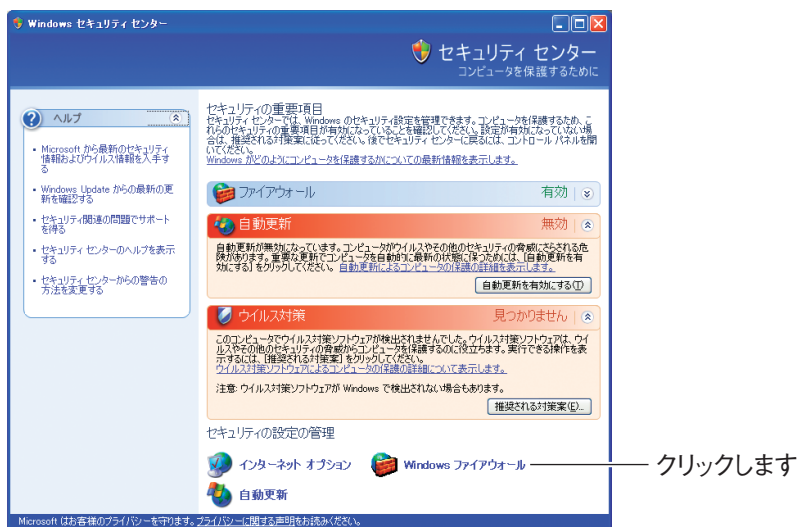
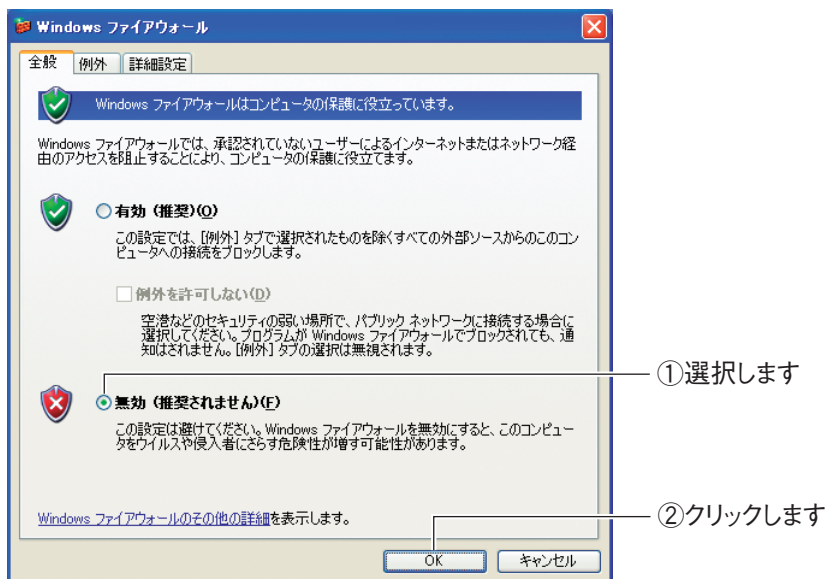
本商品の設定が終了したら、必ずファイアウォールの設定を元に戻してください。

5.3.2 Windows XP（SP2）の場合

次の手順で、OS のファイアウォール機能を無効にできます。

1　［スタート］－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2　「セキュリティセンター」をクリックします。

メモ

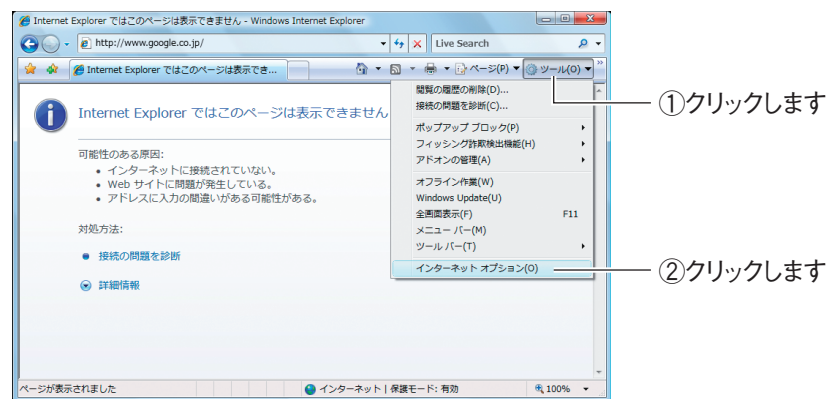
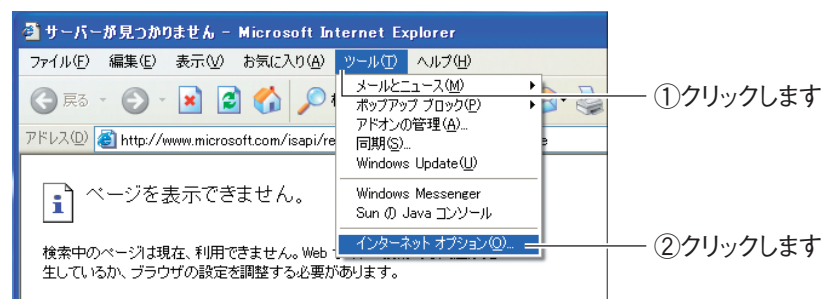
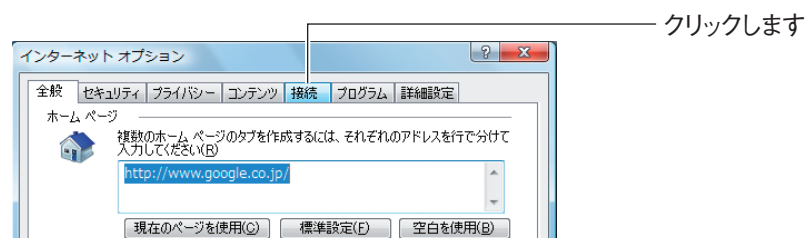
下記のようにクラシック表示の場合は、「セキュリティセンター」をダブルクリックします。

3 「Windows ファイアウォール」をクリックします。

4 「無効（推奨されません）」を選択し、［OK］をクリックします。

以上で、ファイアウォールが無効になりました。

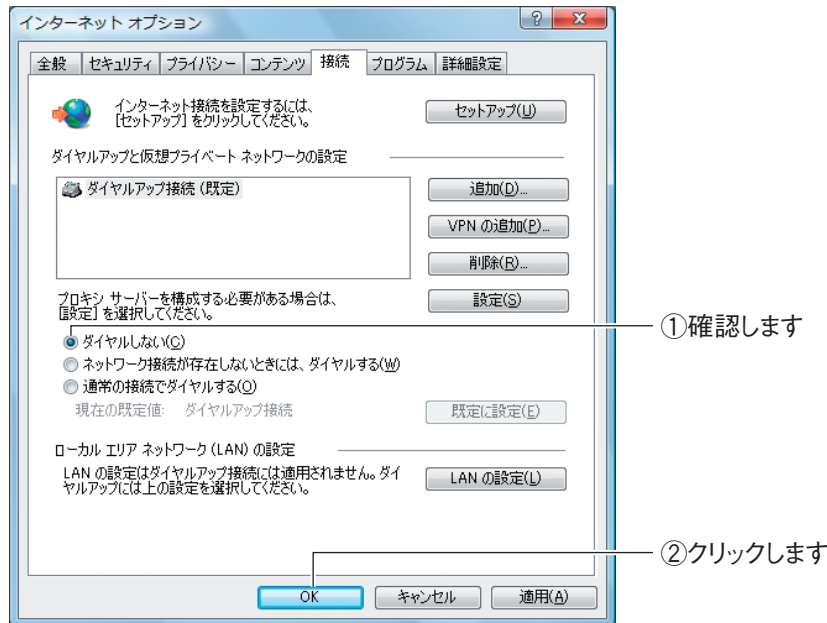
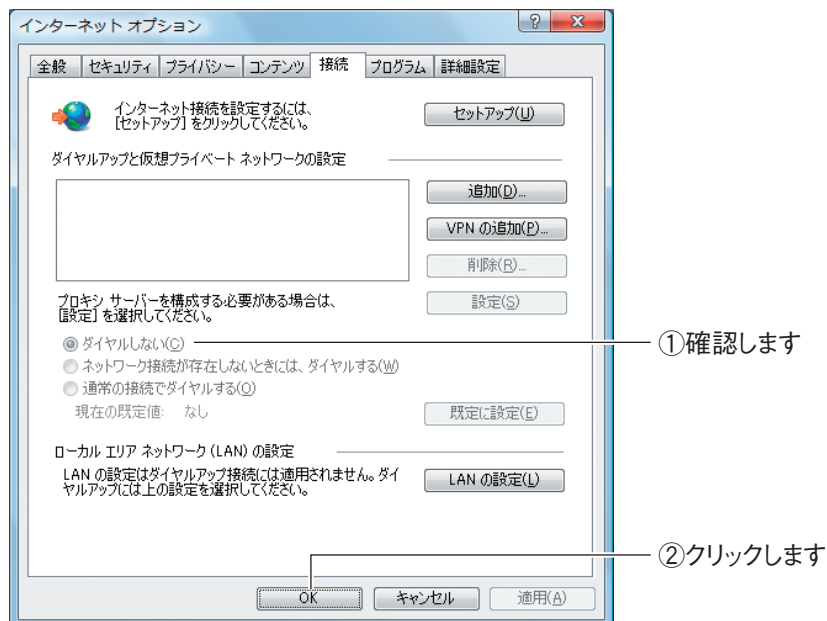
本商品の設定が終了したら、必ずファイアウォールの設定を元に戻してください。

5.4 ダイヤルアップ接続を使用していないことを確認する

ダイヤルアップ接続を使用していると、本商品を使わずにダイヤルアップ接続でインターネット接続してしまいます。本商品を使ってインターネットに常時接続するには、次の手順でダイヤルアップ接続を使用していないことを確認します。

1 Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」の順にクリックします。

Internet Explorer 7 の場合

Internet Explorer 6 の場合

2 接続タブをクリックします。

3 「ダイヤルしない」が選択されているか、またはグレーアウトされて選択できないことを確認し、［OK］をクリックします。

「ダイヤルしない」を選択している場合

グレーアウトしている場合

以上で、ダイヤルアップ接続を使用していないことを確認できました。

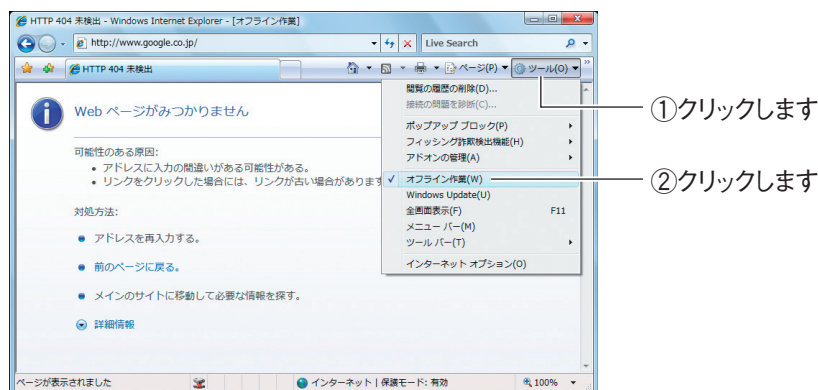
5.5　Internet Explorer がオフラインになっていないことを確認する

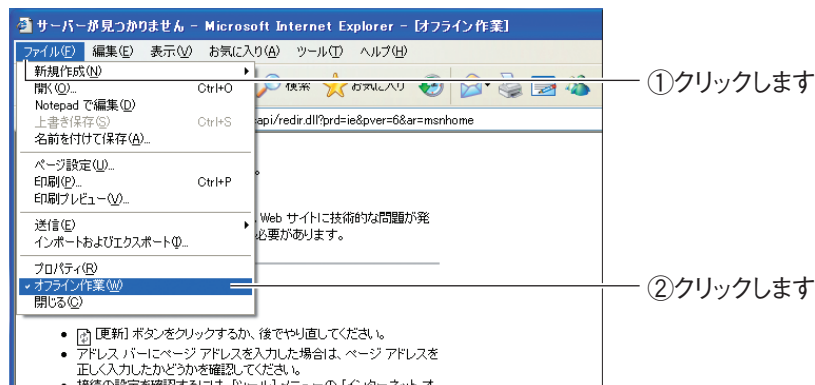
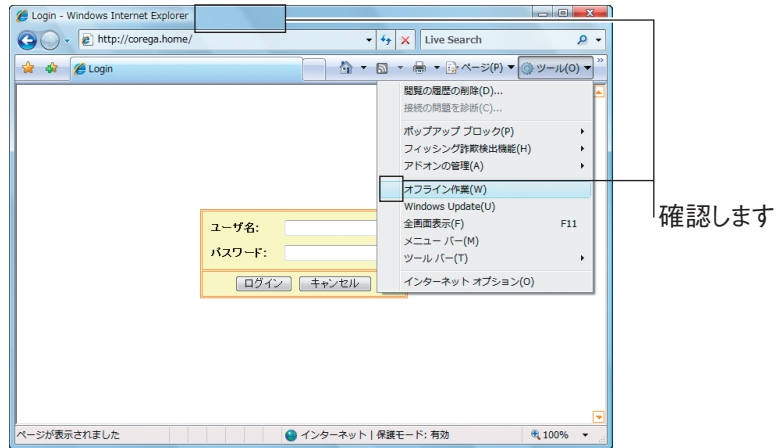
Internet Explorer がオフラインになっているときは、インターネットに接続できません。次の手順で、Internet Explorer がオフラインになっていないことを確認します。

1　**Internet Explorer を起動します。オフラインになっていると、タイトルバーに［オフライン作業］と表示されます。**

2　**「オフライン作業」のチェックを外します。**

Internet Explorer 7 の場合

「ツール」－「オフライン作業」の順にクリックして、チェックを外します。

Internet Explorer 6 の場合

「ファイル」－「オフライン作業」の順にクリックして、チェックを外します。

3 「オフライン作業」のチェックが外れ、タイトルバーに［オフライン作業］が表示されていないことを確認します。

以上で、Internet Explorer がオフラインになっていないことが確認できました。

5.6　プロキシサーバを使用していないことを確認する

プロキシサーバを使用するようにブラウザで設定していると、本商品の設定画面が表示されなかったり、正しく設定されなかったりする可能性があります。次の手順で、プロキシサーバを使用していないことを確認してください。

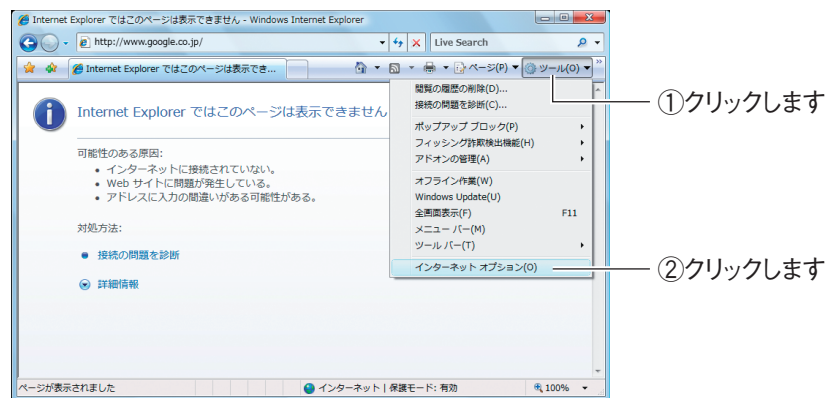
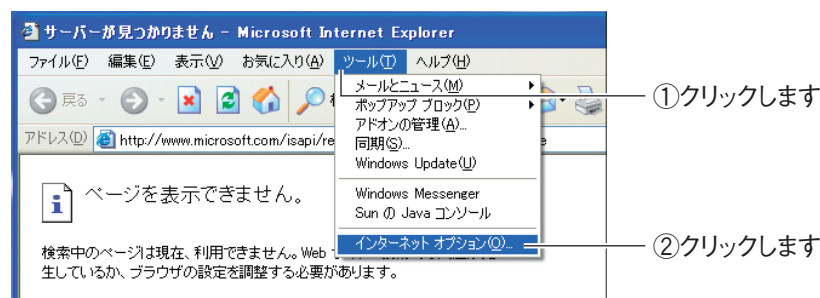
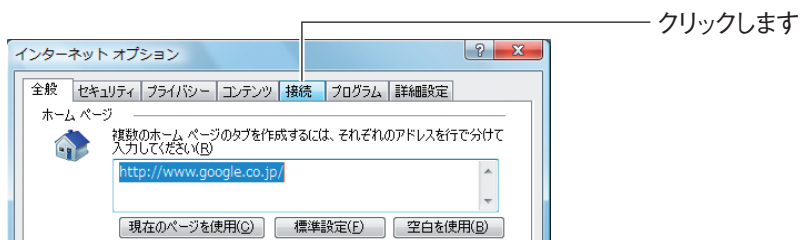
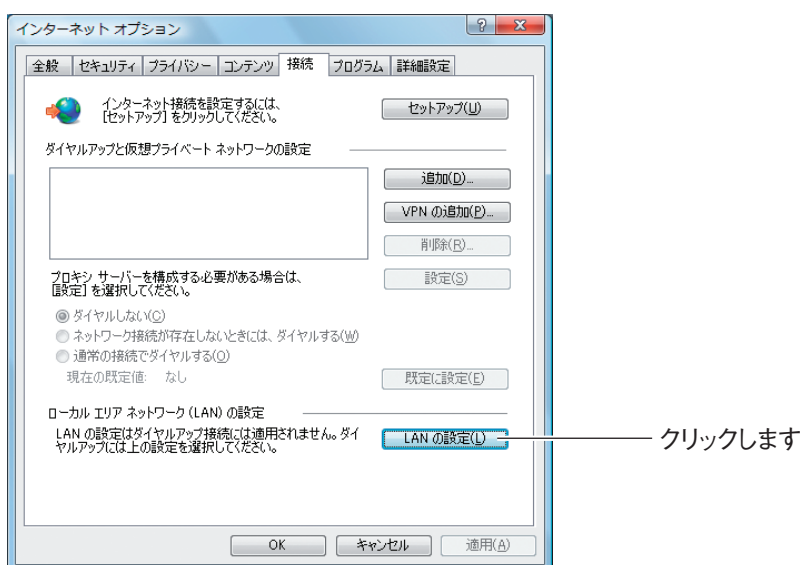
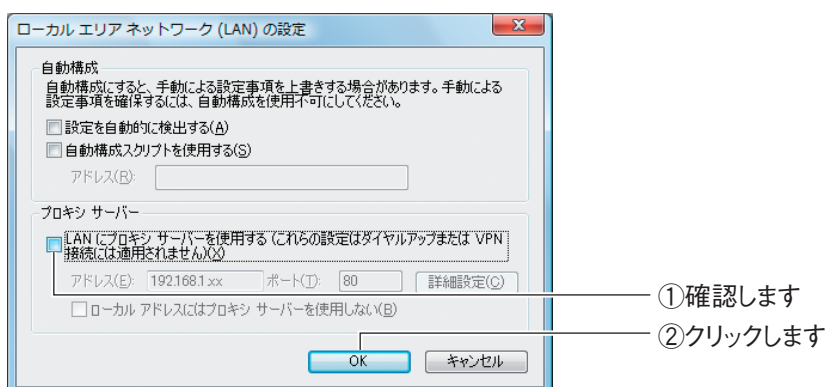
☞ P.207「5.6.1　Windows の場合」

☞ P.209「5.6.2　Macintosh の場合」

5.6.1　Windows の場合

次の手順で、プロキシサーバを使用していないことを確認できます。

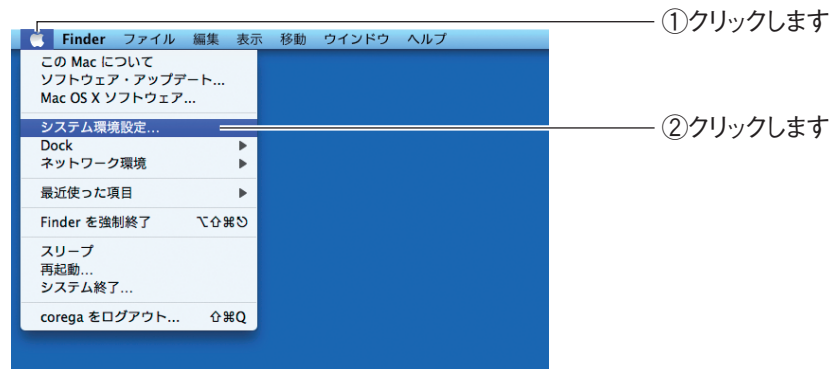
1　**Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」の順にクリックします。**

Internet Explorer 7 の場合

Internet Explorer 6 の場合

2　接続タブをクリックします。

3　[LAN の設定] をクリックします。

4　「LAN にプロキシサーバーを使用する」にチェックが付いていないことを確認し、[OK] をクリックします。

5　手順 3 の画面が表示されます。[OK] をクリックします。

以上で、プロキシサーバを使用していないことが確認できました。

5.6.2 Macintosh の場合

次の手順で、プロキシサーバを使用していないことを確認できます。

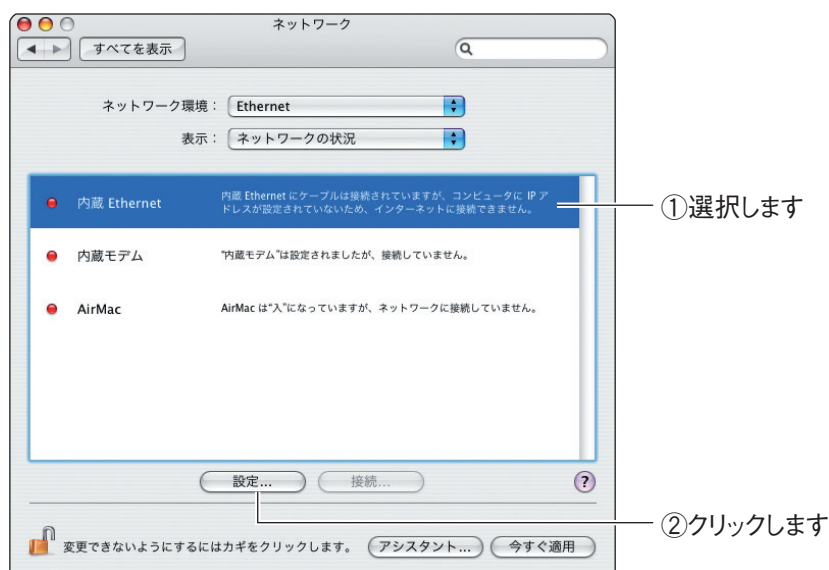
1 「アップルメニュー」－「システム環境設定」の順にクリックします。

2 「ネットワーク」をクリックします。

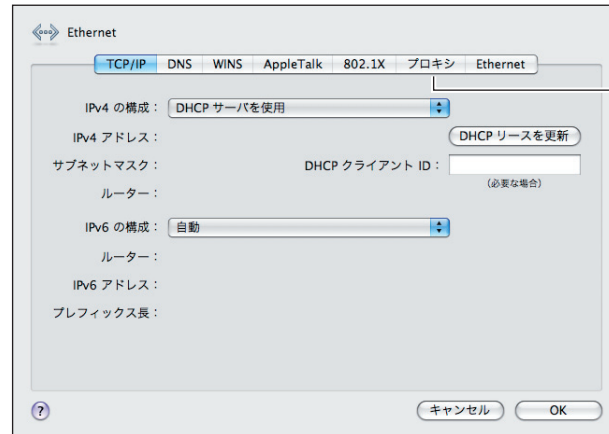
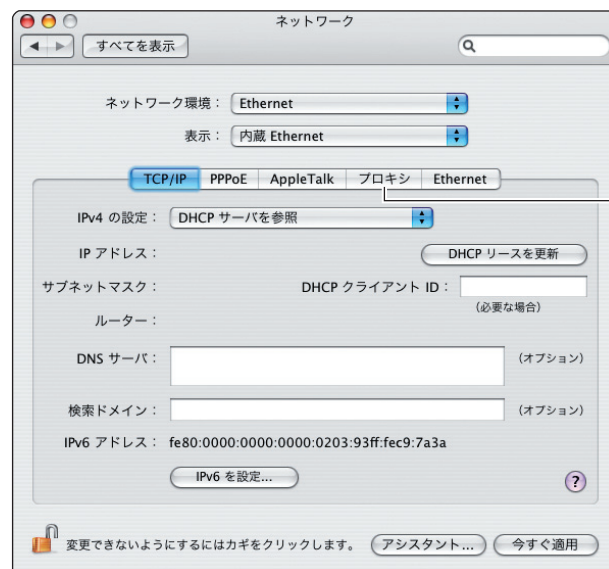
3 ［詳細］または［設定］をクリックします。

Mac OS X 10.5 の場合

「Ethernet」を選択し、［詳細］をクリックします。

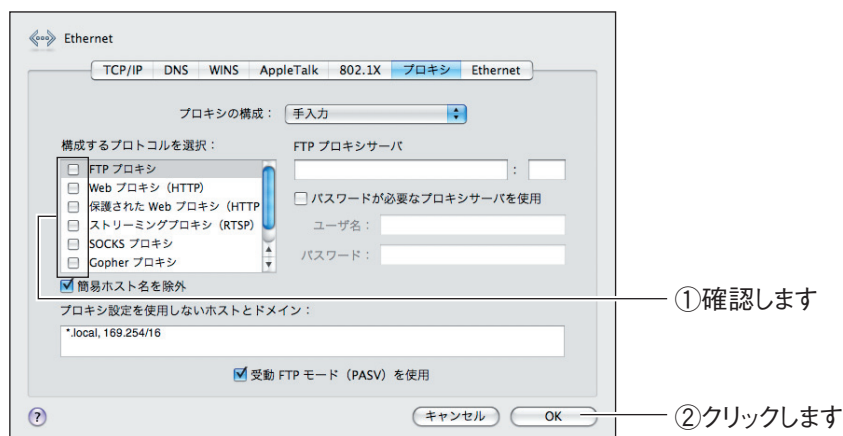
Mac OS X 10.4 の場合

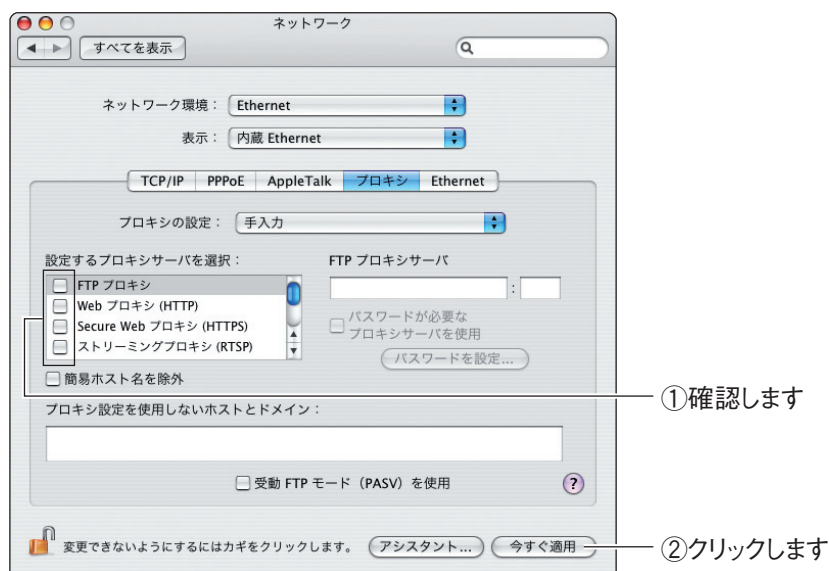
「内蔵 Ethernet」を選択し、［設定］をクリックします。

4 「プロキシ」をクリックします。

Mac OS X 10.5 の場合

Mac OS X 10.4 の場合

5 プロキシサーバにチェックが付いていないことを確認します。

Mac OS X 10.5 の場合

「構成するプロトコルを選択」の項目でチェックが付いていないことを確認して、[OK] をクリックします。チェックが付いている場合はチェックを外し、[OK] をクリックします。

Mac OS X 10.4 の場合

「設定するプロキシサーバを選択」の項目でチェックが付いていないことを確認して、[今すぐ適用] をクリックします。チェックが付いている場合はチェックを外し、[今すぐ適用] をクリックします。

以上で、プロキシサーバを使用していないことが確認できました。

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなど直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。
本商品の WAN 側の MAC アドレスは本体側面の製品ラベル内の「ネットワーク名（SSID/MAC）」に記載されています。LAN 側の MAC アドレスは、**P.174**「4.10　ステータス」で確認できます。

おことわり

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。
弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正、改訂することがあります。
また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

本商品は、GNU General Public License Version 2 に基づき許諾されるソフトウェアのソースコードを含んでいます。これらのソースコードはフリーソフトウェアです。お客様は、Free Software Foundation が定めた GNU General Public License Version 2 の条件に従ってこれらのソースコードを再頒布または変更することができます。これらのソースコードは有用と思いますが、頒布にあたっては、市場性および特定目的適合性についての暗黙の保証を含めて、いかなる保証もしません。詳細については、コレガホームページ内の「GNU 一般公有使用許諾書（GNU General Public License)」をお読みください。なお、ソースコードの入手をご希望されるお客様は、コレガホームページ、サポート情報内の個別製品の「ダウンロード情報」をご覧ください。配布時に発生する費用はお客様のご負担になります。

2009 年　2 月　初　版
2009 年　8 月　第四版